授業科目名：日本史概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：川崎　保 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　社会・高等学校　地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史　（中学校　社会） ・日本史　（高等学校　地理歴史）		

授業のテーマ及び到達目標

受講者は、前近代の歴史について、実際の社会や人間から学ぶことも求められる。身近な社会や文化の中から、原資料を見いだし、それぞれの歴史的背景を理解できる能力や授業で得た知識やそれに基づいた実践を踏まえ、歴史を学ぶ楽しさに触れ、さらにそれを他者に伝えられる力を身に着ける。

授業の概要

原始・古代・中世・近世・近現代の各時代の特色に留意しつつ、幅広い視野で日本史全体の流れを理解することが「日本史概論」である。日本列島独自の歴史と文化の意義を理解するには、特定地域の時系列的な事件について学ぶことも重要であるが、広く東アジア的な視野で日本の歴史と文化を捉えることも、列島内の各地域の様相を知る際には必要である。

本講義では、内なる日本列島の特徴と、外からの影響がどのように関係して歴史事実を織りなしていたのか、多面的、総合的な歴史理解について考えることを目的とする。具体的には、日本列島の人々が原始・古代から近現代にかけて様々な社会を営み、時代と共に生きてきたことを学び、現代的な視点から日本史を再解釈することを学ぶ。

授業計画

第１回：歴史における地域と時間：「日本」という地域
第２回：歴史のモデルと研究法
第３回：ムラからクニへ
第４回：「古代文献」の読み解き方
第５回：地域国家の首長の登場　小テスト1
第６回：「学説」の読み解き方
第７回：律令国家の成立
第８回：律令国家から王朝国家へ
第９回：自然史の成果の活用
第１０回：信仰と宗教　小テスト2
第１１回：中世とは何か
第１２回：戦乱の時代
第１３回：日本における国際的歴史資料

第１４回：日本周辺地域の文献資料の活用と留意点 第１５回：古代への回帰と近代の萌芽 定期試験　レポート実施
テキスト 使用しないが、事前に講義資料を配布。
参考書・参考資料等 特記事項なし
学生に対する評価 小テスト　40% 期末レポート　　60%

授業科目名：信州地域史	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：２単位	担当教員名：川崎　保 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　社会・高等学校　地理歴史）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史　（中学校　社会） ・日本史　（高等学校　地理歴史）		

授業のテーマ及び到達目標

身近な社会や文化の中から、資料を見いだし、分析し、必要に応じて、地域社会からも取材することが求められる。その前提として、それぞれの歴史的背景を分析するための基礎的な知識や方法を取得し、さらには、実践を通じて歴史を学ぶ楽しさを感じ、こうした成果を他者に伝えられる力も身につけることを目指す。

授業の概要

日本史の教科書は、政治の中心であった京都や東京をめぐる歴史については多く記述するが、地方の歴史については京都や東京との関係から記述するに止まる傾向がある。そうではなく、信州を舞台とした歴史について学ぶのが「信州地域史」である。

特定の地域の歴史や文化について深く学ぶことは、人類史あるいは日本列島の社会の歴史から自分たちが未来を生き抜いていく、「道しるべ」を見いだす基礎となる。本講義では、長野大学が所在している上田市や長野県を題材とし、単なるお国自慢的な郷土史ではなく、地域の歴史や文化が人類社会（少なくとも日本社会）の中にどのように位置づけられるのか、またその逆に、人類史や日本史的な課題の中に地域の問題がどのように反映されているのかについて学ぶ。

授業計画

第１回：地域史研究の進め方：日本列島における郷土と地域
第２回：長野県の歴史的地理区分
第３回：地域から学ぶ：考古・民俗・文字資料の活用
第４回：人間集団から地域社会の成立へ
第５回：地域社会から地域国家へ　小テスト1
第６回：古代の多文化共生
第７回：古代律令国家における地域社会
第８回：地域社会における武士の登場　伝承の検証
第９回：千曲川の古代文化
第１０回：善光寺と諏訪信仰　小テスト2
第１１回：民間伝承と歴史の間
第１２回：地域社会における近代科学精神

第１３回：教育県の啓蒙主義と自由主義 第１４回：アカデミズムとしての地域史研究 第１５回：近現代の産業（企業）と地域社会 定期試験　レポート実施
テキスト 使用しない。必要に応じてプリントを配布する。
参考書・参考資料等 ・川崎保編著　縄文「ムラ」の考古学（雄山閣） ・川崎保編著「シナノ」の王墓の考古学（雄山閣） ・川崎保編著　信濃国の考古学（雄山閣） ・川崎保編著「赤い土器のクニ」の考古学（雄山閣） ・川崎保編著　日本と古代東北アジアの文化－地域社会における受容と変容－（雄山閣） ・森浩一2002『地域学のすすめ』（岩波書店）
学生に対する評価 小テスト　40% 期末レポート　60%

授業科目名：歴史の見方	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：２単位	担当教員名：塚瀬　進 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　社会・高等学校　地理歴史）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史　（中学校　社会） ・日本史　（高等学校　地理歴史）

授業のテーマ及び到達目標

１　歴史には多様な評価が存在することを理解する。

２　自分なりに歴史事実を究明できるようにする。

３　歴史事実を知るだけでなく、歴史事実に対する自分の考えを表明できるようにする。

授業の概要

現代社会の諸問題を理解するには、過去にさかのぼってその問題の発生理由をさぐり、いかなる経過により今に至っているのか、という思考パターンを使う必要がある。本講義では、高校までの学習では触れにくい問題をとりあげ、その原因、経過、結果について学び、歴史学的な手法を使って現代社会の諸問題を考察できるようにするのが「歴史の見方」である。

社会における様々な諸現象の評価については、一つの評価は存在せず、どのような立場、観点から評価するのかにより、その評価内容は変わってくる。それゆえ、歴史評価についても「ただ一つ」の評価はない。現在の日本の高校までの歴史学習は事実の経緯の理解に重点が置かれており、歴史事実をどう評価するかについては時間をかけて学ぶことは難しい状況にある。「歴史を消費」するだけではなく、「歴史を創造」することを学び、社会に存在する問題を多角的、多面的に理解することを学ぶ。

授業計画

第１回：第一次世界大戦を題材として

１）戦争勃発の経緯　２）戦争当事者のそれぞれの主張　３）戦争の終結とその影響

４）第一次世界大戦をどう評価するか

第２回：満洲事変を題材として

１）世界恐慌と日本の状況　２）満洲の状況　３）関東軍の思惑　４）満洲事変をどう評価するか

第３回：ヒトラーの台頭と第二次世界大戦の勃発を題材として

１）第一次世界大戦後のドイツの状況　２）ヒトラー台頭の要因　３）第二次世界大戦の勃発

４）第二次世界大戦の勃発をどう考えるか

第４回：ガダルカナル島の戦いを題材として

１）太平洋戦争の開始と東南アジア占領　２）アメリカの反撃プラン　３）戦いの経過

４）ガダルカナル島の戦いをどう評価するか

第５回：ニューギニア島の戦いを題材として

1）太平洋戦争の状況　2）ニューギニア島の占領　3）アメリカ軍の反撃 4）ニューギニア島の戦いをどう評価するか 第６回：インパール作戦を題材として 1）日本軍のビルマ占領　2）インパール作戦の立案過程　3）インパール作戦の経過 4）インパール作戦をどう評価するか 第７回：マリアナ沖海戦を題材にして 1）アメリカ軍の反抗　2）サイパン島をめぐる状況　3）マリアナ沖海戦の経過 4）マリアナ沖海戦をどう評価するか 第８回：満洲国の特徴について 1）満洲国の成立　2）統治機構の特徴　3）開拓移民の問題　4）日本人の位置 第９回：満洲残留孤児を題材として 1）満洲開拓移民の状況　2）ソ連軍の侵攻　3）残留孤児の発生　4）満洲残留孤児をどう評価するか 第１０回：中華人民共和国の建国を題材として 1）第二次大戦の終結と中国　2）国共内戦の勃発　3）二つの中国の成立 4）二つの中国をどう評価するか 第１１回：朝鮮戦争を題材として 1）第二次大戦の終結と朝鮮　2）米ソによる朝鮮占領　3）朝鮮戦争の勃発 4）朝鮮戦争をどう評価するか 第１２回：インドとパキスタンの独立を題材として 1）植民地下のインド　2）第二次大戦の終結とインド　3）ガンディーの説得 4）インドとパキスタンの独立をどう評価するか 第１３回：ヴェトナム戦争を題材として 1）フランスとの戦争　2）アメリカ介入の思惑　3）ヴェトナム戦争の経過 4）ヴェトナム戦争をどう評価するか 第１４回：核兵器と世界の現状を題材として 1）核兵器開発の歴史　2）核兵器保有の思想　3）核兵器の現状　4）核抑止論の世界観 第１５回：アフガニスタンにおける対テロ戦争を題材として 1）アフガニスタンをめぐる情勢　2）アメリカの対応　3）軍事力により紛争解決をする困難さ 定期試験：実施しない
テキスト なし
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価

課題70%、レポート30%

授業科目名：東洋史概論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：２単位	担当教員名：塚瀬　進 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　社会・高等学校　地理歴史）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史　（中学校　社会） ・外国史　（高等学校　地理歴史）		

授業のテーマ及び到達目標

１　古代から18世紀までの東アジア史について理解する。

２　日本の歴史におよぼした中国の影響を理解する。

３　歴史事実を知るだけでなく、歴史事実に対する自分の考えを表明できるようにする。

授業の概要

東アジアで圧倒的な力を示した国は中国であり、東アジアは中国を中心として推移していた点が大きい。中国史がどのように推移したのか、その関係性から周辺諸国（日本を含む）はどのような影響を受けていたのか理解することが「東洋史概論」である。

前近代史は個別の国や地域が独立的に歴史を歩んできたと誤解されやすい。交流の程度に濃淡はあったが、東アジアでは中国のプレゼンスが常に優位を占めていた。そのため中国が周辺諸国に与えた影響が強かったことの理解を目的とする。具体的には、国家を単位とした歴史理解ではなく、東アジアという地域に焦点をあて、地域の歴史を諸国家の相互連関というダイナミズムから理解することを学習する。

授業計画

第１回：殷と周の特徴

神権政治、邑制制度について学ぶ。封建制度、周王による統治について学ぶ。

第２回：春秋時代の特徴

諸侯の強大化、鉄製器具の普及による社会の変化について学ぶ。

第３回：戦国時代の特徴

戦国の七雄の攻防、秦の強大化について学ぶ。

第４回：秦による中国統一

秦による中国統治の特徴、皇帝の出現について学ぶ。

第５回：前漢の成立

秦末の動乱、劉邦集団の台頭、項羽との抗争について学ぶ。

第６回：武帝の時代

武帝の対外政策とその中国社会への影響について学ぶ。

第７回：後漢の特徴、冊封体制

前漢末の動乱と後漢の成立について学ぶ。また漢王朝を中心とした冊封体制について学ぶ。

第８回：黄巾の乱から三国時代へ

後漢末の動乱から三国時代への経過について学ぶ。

第９回：晋による中国統一

魏の滅亡から晋による中国統一までの経緯について学ぶ。

第１０回：南朝の推移

東晋から宋、斉、梁、陳の興亡について学ぶ。

第１１回：北朝の推移と隋の成立

北魏の強大化と北朝の推移について学ぶ。

第１２回：唐の成立

隋の滅亡から唐が成立する経緯について学ぶ。

第１３回：唐の滅亡過程と宋の成立

安史の乱以降の唐の変容をについて学ぶ。

第１４回：北宋の特徴と南宋までの経緯

第１５回：モンゴル帝国と南宋の滅亡

定期試験：実施しない

テキスト

『中国の歴史　増補改訂版』2376円　山本英史著　河出書房新社　2016年

参考書・参考資料等

『東アジア文化圏の形成』李成市　山川出版社　2000年

学生に対する評価

課題70%　レポート30%

授業科目名：西洋史概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：山本　興一郎 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　社会・高等学校　地理歴史）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史　（中学校　社会） ・外国史　（高等学校　地理歴史）

授業のテーマ及び到達目標

（１）古代から近世・近代までのヨーロッパの歴史について理解する。

（２）近代日本に影響を与えた、ヨーロッパ史における政治体制・意思決定過程を理解する。

（３）他国史としてヨーロッパの歴史を知ることで、歴史的事実・認識に対する自信の考えを、多角的視点を踏まえたうえで表明できるようにする。

授業の概要

ヨーロッパを中心とした地域の歴史について学び、日本に多大な影響を与えた近代諸制度揺籃の地であるヨーロッパ世界の形成・発展を基軸にして、西洋における諸問題や諸制度について理解することが「西洋史概論」である。

本講義では、古代オリエント・地中海世界の展開、中世のキリスト教的世界の成立と崩壊、絶対君主、市民革命の時代を経て、ヨーロッパが世界を主導する20世紀までの歴史について理解することを目的とする。具体的には、ヨーロッパ世界の推移とその特徴について留意するとともに、ヨーロッパ世界の基底に存在する理念や意識について理解する。他国史として西洋史を知ることで、歴史的事実・認識に対して自身の考えを持つことができるようにし、さらには多角的視点を踏まえた歴史認識を表明できるよう学習する。

授業計画

第１回：【地中海世界・ヨーロッパ世界とは】

第２回：【古代地中海世界の展開１：古代ギリシアと西アジア諸文明】

第３回：【古代地中海世界の展開２：共和政ローマの成立と国制】

第４回：【古代地中海世界の展開３：ローマの地中海世界への拡大】

第５回：【古代地中海世界の展開４：ローマの内乱と帝政成立】

第６回：【古代地中海世界の展開５：帝政ローマの展開と「市民権」】

第７回：【古代末期の展開：「古代末期」世界の概要】

第８回：【中世の展開１：中世前期の概要】

第９回：【中世の展開２：中世世界の聖俗の関係】

第１０回：【中世の展開３：封建社会の貴族と騎士】

第１１回：【中世の展開４：封建社会と都市】

第１２回：【近世の展開１：近世初期の貴族の変容と教会大分裂】

第１３回：【近世の展開２：身分制議会の展開】 第１４回：【近世の展開３：「主権論」と近世社会】 第１５回：【ヨーロッパ世界の特徴と近現代の胎動】 定期試験　レポート実施
テキスト 担当教員が授業中に配布するプリント
参考書・参考資料等 ・大学で学ぶ西洋史［古代・中世］　服部良久・南川高志　著　ミネルヴァ書房 ・教養のための西洋史入門　中井義明・佐藤専次　著　ミネルヴァ書房 ・ヨーロッパ史入門―原型から近代への胎動　池上俊一　著　岩波書店 ・ヨーロッパ史入門―市民革命から現代へ　池上俊一　著　岩波書店
学生に対する評価 小テスト　50% レポート　50%

授業科目名：社会思想史	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：２単位	担当教員名：丸山　文隆 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　社会・高等学校　地理歴史）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史　（中学校　社会） ・外国史　（高等学校　地理歴史）		

授業のテーマ及び到達目標

社会思想史の重要な論点を正確に理解し、日本をはじめとする現代社会の諸問題を歴史的なスケールのなかで見る視点を獲得する

授業の概要

ヨーロッパ社会で生まれた思想の特色について学び、そうした思想が現代社会においてはどのように位置づけられるのか、現代社会にもつながる市民意識、民主主義を考える際に、どのように位置付けることができるのか考えるのが「社会思想史」である。

カルヴァン、ロック、ルソーといった名前は、中学高校の社会科や歴史科でも少しく学んでいるが、その思想内容と時代における意義まで深くは学んでいないであろう。本講義では、ルネサンス、宗教改革、市民革命などの時に、時代変革の駆動力となった思想を学び、その意義について考えることを目的とする。具体的には、現代社会に存在するグローバル資本主義、ポピュリズム、宗教対立などは、近代社会の内部から生まれており、こうした現象を誕生させた社会思想について学び、現代社会を生きる意味について考える。

授業計画

第１回：社会思想史とは何か：現代社会を歴史のなかで見る
第２回：教科書第1章：近代的人間の登場（マキアヴェリなど）
第３回：教科書第2章：個人の自律と自由（ルター、カルヴァン）
第４回：教科書第3章：民主主義思想の誕生（ホッブズなど）
第５回：教科書第4章：民主主義思想の発展（ロック）
第６回：教科書第5章：啓蒙思想の展開とロマン主義（ルソー、カント）
第７回：教科書第6章：「市民社会」への反省（スミス、ヘーゲル）
第８回：教科書第7章：初期社会主義思想（オーウェン、サン＝シモン）
第９回：教科書第8・9章：マルクスの思想
第１０回：教科書第10・11章：社会主義思想の展開
第１１回：教科書第12章：合理化と官僚制の問題（ヴェーバー）
第１２回：教科書第13章：大衆社会の様相（マンハイム、フロム、リースマン）
第１３回：教科書第14章：管理社会の本質（ガルブレイス、ハーバーマス）
第１４回：教科書第15章：日本の近代化と社会思想

第１５回：教科書第16章：現代日本社会の諸課題 定期試験
テキスト 『社会思想史講義』城塚登　ちくま学芸文庫 2023年　978-4480511997
参考書・参考資料等 『今を考えるための近世思想史：時代と向き合った日欧16人の思想家』 徳永哲也 晃洋書房 2020年 『「修養」の日本近代』　　大澤絢子　　NHKブックス　2022年
学生に対する評価 定期試験　　60%　「知識・理解」の正確さがもっとも重要だが、「思考・判断」、「関心・意欲・態度」、「技能・表現」についても評価する クイズ/小テスト　　40%　主に「知識・理解」を表現する

授業科目名：地理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：羽田　司 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　社会・高等学校　地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。）　（中学校　社会） ・人文地理学・自然地理学　（高等学校　地理歴史）		

授業のテーマ及び到達目標

・地理学の概要を把握し、身近な事象に地理学的視点が活用されていることを理解することができる。

・身近な事象を地理学的視点から思考することができる。

授業の概要

地理的条件の生成とメカニズム、地理的条件間の関係を分析し、普遍的な原理などの概要について学ぶのが「地理学」である。

本講義では、地域ごとの差異を生じさせる、地域が有する自然環境や人文環境という地理的条件を分析するための概念や理論について理解し、地域が形成されるメカニズムについて説明できるようになることを目的とする。

具体的には、地理学における系統地理学の位置づけや系統地理学における概念や理論を確認した後、自然環境の水圏、気圏、岩圏、生物圏や、人文環境の産業、歴史・文化、生活行動、集落、GIS等に関する系統地理学の研究成果を学ぶ。また、いくつかの具体的な論文の内容を紹介することで最新の研究トピックを把握するとともに、地理学的研究の手順を学習する。

授業計画

第１回：イントロダクション：地理学とはどのような学問か

第２回：気候の多様性

第３回：地形と自然災害

第４回：水の循環と水資源

第５回：生物の地理

第６回：農業の空間構造

第７回：工業の空間構造

第８回：流通と交通の地理

第９回：村落の地理

第１０回：都市の地理

第１１回：公共サービスと立地

第１２回：知覚の地理

第１３回：生活文化・民俗の地理

第１４回：地理学の資料と表現方法 第１５回：GISを用いた地図作成 定期試験
テキスト 特に使用しない
参考書・参考資料等 『地理学基礎シリーズ１　地理学概論［第２版］』　朝倉書店　2015年
学生に対する評価 課題 40%　講義に関連する小課題 レポート 60%　最終レポート

授業科目名：観光地理学	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：２単位	担当教員名：羽田　司 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　社会・高等学校　地理歴史）
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。）　（中学校　社会） ・人文地理学・自然地理学　（高等学校　地理歴史）

授業のテーマ及び到達目標

（1）観光地の形成や空間構造を理解することができる

（2）観光客行動の空間的特性を把握することができる

（3）観光地理学の視座から持続可能な観光について議論することがきる

授業の概要

観光に関連する諸現象を、「場所」や「地域」、「空間」といった概念から分析する地理学の立場から学ぶのが「観光地理学」である。

本講義では、地理学のなかでも系統地理学の一分野である人文地理学に対する素養の獲得を目指すとともに、人文地理学のなかでも、観光地理学と称される分野の深い学びを希求し、観光地域や観光現象が成立する地理的条件を説明できるようになることを目的とする。具体的には、地理学という学問の主要な概念（分布、地域、地域構造、立地、知覚、景観など）や理論を確認した後、地理学の見地から「観光」の概念や国内外の発達史を整理しながら学ぶ。その後は、観光地理学の研究成果をトピックに分けて紹介しながら、観光地域や観光現象が成立する地理的条件について事例のなかから学習する。

授業計画

第１回：ガイダンス：授業計画の説明と評価方法　観光の意味

第２回：観光の歴史

第３回：日本の観光動向

第４回：観光地理学の研究動向

第５回：日本における観光資源の分布

第６回：温泉観光地

第７回：リゾート地域

第８回：観光とスポーツ

第９回：グリーンツーリズム

第１０回：学ぶ観光

第１１回：コンテンツツーリズム

第１２回：都市観光

第１３回：ナイトライフ観光

第１４回：フードツーリズム 第１５回：持続可能な観光（まとめ） 定期試験
テキスト 特に指定しません
参考書・参考資料等 白坂　蕃・稲垣　勉・小沢健市・古賀　学・山下晋司『観光の事典』朝倉書店2019年 島川　崇『新しい時代の観光学概論　持続可能な観光振興を目指して』ミネルヴァ書房2020年
学生に対する評価 課題 40%　講義に関連する小課題 レポート 60%　最終レポート

授業科目名：地誌概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：羽田　司 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　社会・高等学校　地理歴史）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。）　（中学校　社会） ・地誌　（高等学校　地理歴史）

授業のテーマ及び到達目標

・地理学の中の地誌学の位置づけを理解し、地誌学的に世界の国や地域を解釈することができる

・地誌学的に世界の国や地域を理解し、グローバル社会において活用する方法を思考することができる

授業の概要

地理学のなかでも、特定の地域の自然環境及び人文環境を総合的に分析し、その地域の特徴、つまり、地域性を詳らかにするのが地誌学である。こうした地誌学という地理学の分野について概要を述べるのが「地誌学概論」である。

本講義では、地域を的確にとらえるために必要となる地誌学に関する基本知識の習得と、地域を総合的に分析し、地域性を導出する思考力を身につけることを目的とする。具体的には、地理学における地誌学の位置づけや地誌学における手法を確認した後、近年の地誌学的手法の主流となっている動態地誌の手法から諸外国や日本国内の地域について概観的に学ぶ。また、特定の国や地域に限定して、多様な側面や空間スケールから国や地域をとらえることで、国や地域が多面的、重層的に構築されていることを学習する。

授業計画

第１回：授業ガイダンス、地誌学とはなにか？
第２回：多様な国と地域：朝鮮半島
第３回：多様な国と地域：中国
第４回：多様な国と地域：東南アジア
第５回：多様な国と地域：オーストラリア
第６回：多様な国と地域：インド
第７回：多様な国と地域：中東
第８回：多様な国と地域：ヨーロッパ
第９回：多様な国と地域：サハラ以南のアフリカ
第１０回：多様な国と地域：アメリカ
第１１回：特定地域を詳しくみる：ブラジルの概要と歴史
第１２回：特定地域を詳しくみる：ブラジルの自然環境と環境問題

第１３回：特定地域を詳しくみる：ブラジルの都市の形成と発展 第１４回：特定地域を詳しくみる：ブラジルの多人種多民族社会の形成と課題 第１５回：特定地域を詳しくみる：ブラジルに渡った日本移民 定期試験
テキスト 特に使用しない
参考書・参考資料等 『地理学基礎シリーズ３　地誌学概論』　朝倉書店　2007年 『新版　現代ブラジル事典』 新評論 2016年 『世界地誌シリーズ６　ブラジル』　朝倉書店2013年
学生に対する評価 課題 40% 講義内容に関連する小課題 レポート 60% 最終レポート

授業科目名：法学概論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：２単位	担当教員名：大島　忍 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　社会・高等学校　公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」　（中学校　社会） ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」 （高等学校　公民）		

授業のテーマ及び到達目標

（１）法的思考を修得する。ニュースや日常生活の様々な事象を法的な面から考察することができるようになる。

（２）自らを取り巻く社会事象の考察に法的思考を積極的に活用する意欲・習慣を身につける。

（３）交通事故，離婚，相続，消費者問題，多額の債務，認知症にまつわる問題等，身近で起こりうる事象に対して，解決するための法的知識，考え方を身につける。

授業の概要

現代社会におけるルールである法がどのような特徴を持つのか学ぶ。とくに法以外に存在するルールと比較することにより、法に対する理解を深め、社会人としてのリーガルマインドを高めるのが「法学概論」である。

本講義では、多くの法が存在する中で、憲法と民法という最も基本的とされる法を取り上げる。憲法と民法を基軸にして、現代日本が有している法体系への理解を深めることを目的とする。具体的には、憲法に関しては、その基本原理である基本的人権の尊重、国民主権、平和主義の三原理について学び、さらに人権保障という観点を重視した憲法の理解について学ぶ。民法に関しては、権利能力平等の原則や私的自治の原則といった民法の基本原理を中心に学ぶとともに、社会生活と密接な関係にある物権や債権に関わる事項について理解を深める。

授業計画

第１回：ガイダンス：講義の進行方法及び概要説明

第２回：法と社会と国家：法とは何か，法の目的，法と社会生活，法と国家の関係，法と道徳その他の社会規範，法の解釈とは

第３回：憲法と社会①：国家と近代憲法

第４回：憲法と社会②：国民主権と平和主義

第５回：憲法と社会③：基本的人権の尊重その１　精神的自由について

第６回：憲法と社会④：基本的人権の尊重その２　経済的自由、平等権、社会権等について

第７回：憲法と社会⑤：三権分立、その他統治機構

第８回：民法：財産法の内容と基本原則

第９回：民法：取引の主体 第１０回：民法：取引の客体 第１１回：民法：契約総論　契約の成立から終了まで 第１２回：民法：契約総論　売買契約、賃貸借契約、消費貸借契約等 第１３回：民法：不法行為・不当利得・事務管理 第１４回：民法：親族 第１５回：民法：相続
テキスト 特になし、各回講師が作成したレジュメを使用する
参考書・参考資料等
学生に対する評価 定期試験　60% レポート　40%

授業科目名：地方自治論	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：２単位	担当教員名：久保木　匡介 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　社会・高等学校　公民）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」　（中学校　社会） ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」 （高等学校　公民）

授業のテーマ及び到達目標

日本の地方自治の歴史、制度、中央地方関係の特徴を理解すること。
戦後の地方自治体に影響を与えた開発主義とその構造について理解すること。
革新自治体を契機に展開発展した自治立法の内容と意義について理解すること。
二元代表制の基本構造とその課題について理解すること。
住民投票を中心とする直接民主主義の手法とその課題について理解すること。
人口減少問題と地方自治体の対応について現状と課題を理解すること。

授業の概要

日本における地方自治の理念・歴史・制度を総論的に考察するのが「地方自治論」である。

本講義では、わが国の地方自治の歴史的展開を大枠で捉えること、現代国家における地方自治の意義を理解すること、地方自治体の基本的な仕組みを理解すること、地方公務員の仕事を理解することを目的とする。具体的には、①日本の地方自治の歴史・制度の特徴、②戦後における開発主義とその構造、③革新自治体から地方分権改革期まで展開した自治立法の内容、④二元代表制の基本構造とその課題、⑤住民投票を中心とする直接民主主義の手法とその課題について学ぶ。

授業計画

第１回：授業ガイダンス　地方自治論の課題と獲得目標
１　地方自治とは何か　地方自治の淵源　（１）中央と地方
第２回：（２）単一国家制度と連邦制度、各国の地方自治制度
第３回：２　日本の地方自治の歴史　（１）戦前史　明治憲法体制下の地方自治
第４回：（２）日本国憲法下の地方自治
第５回：（３）戦後日本の中央地方関係　開発主義と機関委任事務体制
第６回：（４）地方自治体の自立への歩み　①革新自治体、②独自のまちづくりへ
第７回：（５）地方分権改革とその到達
第８回：（６）人口減少時代と地方自治：地方創生の展開と限界
第９回：（７）人口減少時代の地方自治に関するワーク
第１０回：３　地方自治体の仕組み　（１）首長制と二元代表制

第１１回：（２）地方議会と条例制定権 第１２回：（３）各自治体の独自条例についてのグループワーク 第１３回：（４）地方自治体の財政 第１４回：（５）地方財政に関するグループワーク 第１５回：（６）住民投票と住民参加 定期試験：実施しない
テキスト なし
参考書・参考資料等 新版ホーンブック地方自治　磯崎初仁ほか　北樹出版
学生に対する評価 レポート60%　ポートフォリオと授業コメント40%

授業科目名：政治学概論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：２単位	担当教員名：久保木　匡介 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　社会・高等学校　公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」　（中学校　社会） ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」 （高等学校　公民）		

授業のテーマ及び到達目標

現代国家における議会制度や権力分立制度など政治の基本枠組みがどのように成立したのか、その課題は何かを理解する。

選挙の仕組みを理解し、自分たちの投票行動が国政にどのように反映しているか、有権者の政治参加が社会において果たす役割は何か、を理解すること。

近年の国政選挙にかかる争点と各政党の政策を比較することを通じ、政治の具体的な対立軸とそれに対する国民意識の動向を認識すること。また争点に対する自分の評価軸を確立すること。

授業の概要

現代の日本政治を形成している公式・非公式の制度を理解して、日本における政治的支配構造がどのような状況にあるのかを、社会科学の手法をもとに理解するのが「政治学概論」である。

本講義では、政治を考える上で必要な基礎知識を習得するとともに、日々報道される雑多な政治現象を結びつけて理解する上で必要な、自分なりの「視座」の獲得を目的にしている。具体的には、選挙における各候補者の主張を検討することを通して、政策や争点に対する自己の見解を持てるようにする。また、 現代国家が持っている議会制度や権力分立制度などの基本的な政治的枠組みが、どのように成立したのか理解する。そうした政治的枠組みが、選挙制度や有権者の投票行動にどのように反映しているのか、国民の意見が政策にどれだけ反映されているのかについて考えることを学ぶ。

授業計画

第１回：ガイダンス　政治とは何か、政治学とは何か

第２回：Ⅰ　現代国家の権力構造と政治（１）

第３回：現代国家の権力構造と政治（２）

第４回：Ⅱ　現代日本の政治　１　明治憲法体制から日本国憲法体制へ

第５回：２　日本の政党政治

第６回：３　選挙制度と政権交代

第７回：Ⅲ　国政選挙と日本政治　１　安全保障をめぐる論点

（１）戦後政治における憲法9条と日米安全保障条約 第８回：１　安全保障をめぐる論点　（２）安全保障環境をめぐる変化と憲法改正問題 第９回：２　雇用・社会保障をめぐる論点（１）戦後日本の雇用・社会保障政策 第１０回：３．雇用・社会保障をめぐる論点（２）2010年代以降の雇用・社会保障の課題 第１１回：５　気候変動・環境政策をめぐる論点 第１２回：６　人権、ジェンダーをめぐる論点 第１３回：７　選挙の争点をめぐるワーク 第１４回：８　国政選挙の結果をどう見るか 第１５回：９　選挙を通じて民主主義のあり方を考える 定期試験：実施しない
テキスト 特に指定しない
参考書・参考資料等 杉田敦・川崎修『現代政治理論 新版』有斐閣アルマ
学生に対する評価 レポート60%　ポートフォリオおよび授業コメント40%

授業科目名：行政学	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：２単位	担当教員名：久保木　匡介 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校社会・高等学校　公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」　（中学校　社会） ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」（高等学校　公民）		

授業のテーマ及び到達目標

・日本における政治と行政の関係性の特徴と問題点を理解すること。
・行政学における行政組織理論から組織のマネジメントに求められる観点を理解すること。
・日本における公務員制度の特徴と問題点について理解すること。
・「新公共経営（NPM）」や「公共サービスの産業化」など公共サービスに民間セクターを導入する取組とその問題点について理解すること。
・市民を主体とした行政の民主的統制とそれに対応する行政責任のあり方について自分の意見を述べられるようになること。

授業の概要

現代社会における行政組織の活動や、行政組織が提供する公共サービスとそのプロセスを、制度、管理、政策の各側面から把握することを目指すのが「行政学」である。

本講義では、行政学の基礎理論と共に日本における行政官僚制の実態とそれが抱える様々な課題を考察することを目的とする。具体的には、①政治と行政のメカニズムとその変遷、②組織理論と公共組織のマネジメント、③官僚制の理論と日本の公務員制度、④行政組織と民間組織の役割分担、⑤行政責任と行政の民主的統制という五つのパートから、日本における行政の実態とその課題について学ぶ。

授業計画

第１回：授業ガイダンス　行政学の課題と授業の獲得目標
第２回：政治と行政の関係①　議院内閣制、大統領制、本人・代理人関係から見た政治と行政
第３回：政治と行政の関係②　日本における政官関係の変化：一党支配体制から政治主導へ
第４回：行政と公共組織のマネジメント①官僚制理論と古典的組織理論
第５回：行政と公共組織のマネジメント②現代組織理論
第６回：行政と公共組織のマネジメント③環境の変化に適応する組織にあり方についてのグループワーク
第７回：日本の公務員制度①公務員制度の歴史的展開
第８回：日本の公務員制度②公務員の労働条件
第９回：行政組織と民間組織①公的セクターと民間セクターの理論的差異

第１０回：行政組織と民間組織②民営化、新公共経営（NPM）による経営組織化、公共サービスの産業化 第１１回：行政組織と民間組織③行政と民間組織の役割分担と連携にかかるグループワーク 第１２回：行政責任と行政の民主的統制①行政責任論争とギルバートのマトリクス 第１３回：行政責任と行政の民主的統制②NPMと新たな行政責任、行政統制 第１４回：行政責任と行政の民主的統制③民主的統制の手段としての情報公開、公文書管理 第１５回：行政責任と行政の民主的統制④検討事例における公務員の行政責任の取り方についてのグループワーク 定期試験：実施しない
テキスト 開講時までにポータルサイトから周知する。
参考書・参考資料等 授業内で指示する。
学生に対する評価 レポート60%　ポートフォリオおよび授業コメント40%

授業科目名：社会学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：古田　睦美 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　社会・高等学校　公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」　（中学校　社会） ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」　（高等学校　公民）		

授業のテーマ及び到達目標

社会学の理論や先行研究に触れ、社会学的思考力、分析力を身につける。

現代社会の在り方と問題に関心をもち、地域の課題を解決して行く志向性とクリエイティブな力を培う。

現代的な問題意識や、先進事例の取り組み事例などを知り、自ら課題を解決し、自分と社会の幸福を導く姿勢と社会学的思考力を身につけます。

授業の概要

現代社会において持続可能な地域・社会を実現するために、課題や争点となっているジェンダー、エコロジー、ローカル共生圏構築などの現象を取り上げ、グローバルな視点とローカルな視点の双方から学ぶのが「社会学概論」である。

本講義では、前記の現象をはじめ、現代社会が抱える多様な問題を解決するために登場した様々な主体（市民事業、NGO、NPO、コミュニティ・ビジネス、社会的企業）とまちづくり活動（地域通貨、コモンズの再構築、食とエネルギーの自給圏形成などの取組の展開背景を学び、地域の課題解決に必要な知見を修得することを目的とする。具体的には、社会学の基礎理論と基礎概念を指定テキストと教員レジュメで学び、現代社会における諸矛盾の解決に向けて動く市民・住民が登場した背景を実証的に把握し、持続可能な地域・社会形成の主体像を習得する。

授業計画

第１回：第Ⅰ部　社会学の力　　教養とはなにか　社会学とは何か

第２回：ジェンダーで学ぶ社会学

第３回：行為

第４回：規範

第５回：集団と組織、コミュニティ

第６回：地位と役割

第７回：社会構造と権力

第８回：環境社会学で学ぶ　私たちの暮らしと政策

第９回：持続可能な社会へ

第１０回：グローバルとローカル

第１１回：社会の構造と変動 第１２回：人口から見た社会の動向 第１３回：先進事例 第１４回：先進事例と課題解決の試み　ワークショップ 第１５回：まとめと期末課題の提示 定期試験
テキスト　　必要に応じて適宜、クラスルームやポータルから資料を配布する
参考書・参考資料等　　必要に応じて毎回の授業時に案内する
学生に対する評価 授業内容を整理する課題を数回提出してもらいます。その提出状況・内容と学期末の課題レポートの結果で評価します。 ●課題 50% 授業内容を整理する課題を数回提出してもらい、社会学の基礎概念を理解し使いこなしているか評価します ●レポート 50%　学期末課題レポートを課します。 　授業内容や自ら調べた課題解決を目指す事例を総合して、現代社会の課題を捉え、自らの発想で解決していこうとするクリエイティブな力がついているか評価します

授業科目名：社会調査論	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：４単位	担当教員名：相川　陽一 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　社会・高等学校　公民）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」　（中学校　社会） ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」　（高等学校　公民）

授業のテーマ及び到達目標

社会調査の準備・実施・データ整理と分析の各過程で用いられる諸手法について、受講生がこれらの基礎知識と技法を習得することを目標とする。その際、授業内での質問紙法による相互調査の実体験を通して社会調査への理解を深め、受講者自身の関心によって主体的に調査を企画実施できる基礎力を身につける。

授業の概要

調査の準備・実施・データの整理と分析という１つの完結した過程を通して社会の現実に接近し、これを解明する研究方法の体系について学ぶのが「社会調査論」である。

本講義では、教員による講義と受講者自身による演習を組み合わせながら、調査準備→実施→データの整理→分析の流れに即し、各段階で用いる方法と留意点を理解し調査計画の立案などを行うことによって、社会調査への理解を深めることを目的とする。具体的には、調査課題の決定、問いと仮説の設定、調査倫理、量的調査と質的調査の違いと共通点、質問紙の作成方法、サンプリングの考え方と技法、調査データ集計と作表、調査結果の分析、調査報告書の作成方法などの基本事項に加え、応用編として市民調査の基本的な考え方と手法など、持続可能な地域社会形成を実現する思考を身につけることにつながる内容について学習する。

授業計画

第１回：授業概要と社会調査士資格について
　　授業の概要・計画／成績評価の方法／社会調査士の資格について
第２回：社会調査とは何か
　　社会調査はなぜ必要か／社会調査の種類／調査倫理について
第３回：社会調査の過程と方法の概説
第４回：調査課題の決定と理論的仮説の構成
第５回：調査範囲と調査対象の設定
　　仮説と調査対象の整合性／調査範囲と対象の設定
第６回：調査の制約条件についての留意事項
　　調査手法ごとの利点と制約点／調査時に直面する課題と対処法
第７回：調査方法の選定（1）全数調査と標本（サンプル）調査
　　全数調査とは何か／標本調査とは何か／代表的な事例紹介

第８回：調査方法の選定（2）量的調査と質的調査
　　量的調査とは何か／質的調査とは何か／フィールドワークによる併用例
第９回：　標本（サンプリング）調査の方法
　　標本抽出はなぜ必要か／標本抽出の考え方／標本抽出の手法
第１０回：調査方法の選定（3）：質問紙法、面接法、参与観察法など
　　課題や仮説に応じた調査方法の選び方／各調査方法の特徴と留意点
第１１回：質問紙（調査票）の作成
　　調査課題の設定／仮説の構築／設問づくりの手法／集計・分析手法
第１２回：質問紙の作成と点検指導（1）
　　課題設定と仮説の構築【重点実施】／設問の内容検討／設問づくり
第１３回：質問紙の作成と点検指導（2）
　　課題設定と仮説の構築／設問の内容検討【重点実施】／設問づくり
第１４回：質問紙の作成と点検指導（3）
　　課題設定と仮説の構築／設問の内容検討／設問づくり【重点実施】
第１５回：質問紙の作成と点検指導（4）
　　仮説の点検／設問の仕上げ／プリテスト
第１６回：授業での調査の実施（1）第1グループ
第１７回：授業での調査の実施（2）第2グループ
第１８回：データ集計と表・グラフの作成
第１９回：データ集計・作表作業と点検指導（1）データ集計の基礎演習
第２０回：データ集計・作表作業と点検指導（2）作表作業の基礎演習
第２１回：データ集計・作表作業と点検指導（3）データ集計・作表の点検
第２２回：報告書の作成と点検指導（1）報告書の目次づくり
第２３回：報告書の作成と点検指導（2）報告書の草稿提出と講評
第２４回：報告書の作成と点検指導（2）修正稿の提出と講評
第２５回：調査結果のプレゼンテーション
第２６回：社会調査の歴史と理論（1）社会調査史を学ぶ意義
第２７回：社会調査の歴史と理論（2）前近代における調査
第２８回：社会調査の歴史と理論（3）近現代における社会調査
第２９回：社会調査の歴史と理論（4）戦後日本の社会調査
第３０回：社会調査の基本問題
　　氾濫する調査情報の吟味／二次データの活用／調べたことを社会に活かすには

テキスト
特定のテキストは用いず、教員が作成した資料をGoogle Classroomで配布する。

参考書・参考資料等　『社会調査法入門』有斐閣

学生に対する評価 レポート（小レポート10点、中間レポート30点、期末レポート60点）

授業科目名：経済学概論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：４単位	担当教員名：奥田　純子 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　社会・高等学校　公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」　（中学校　社会） ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」　（高等学校　公民）		

授業のテーマ及び到達目標

本講義では、「経済学的な視点を身につけ、国民経済の仕組みや市場のメカニズムを理解すること」をテーマとする。

本講義の受講を通じて、学生は以下の３つの能力を身につけることを目標とする。

（１）経済学の基本概念を理解し説明できる

需要・供給の法則、消費者と生産者の最適選択、市場構造、景気変動、失業・インフレーションなど、経済学の主要な概念を理解するし、それを説明することができる。

（２）ミクロ経済学とマクロ経済学の基本的な理論を応用できる

家計や企業の意思決定プロセス、市場の均衡、経済成長、財政・金融政策の影響を理論的に説明することができる。

（３）実際の経済ニュースや政策を経済学的視点で分析できる

現在の経済問題（円安・円高、景気対策、雇用問題など）を、学んだ理論を用いて論理的に解釈し、自らの意見を形成することができる。

授業の概要

雇用や物価など国民経済に影響を与えるメカニズムや、消費者と生産者の最適選択をもとにした需要・供給の法則などの基礎を学ぶのが「経済学概論」である。

本講義では、国民の経済活動や消費者と生産者との最適選択を考える上で重要となるマクロ経済学とミクロ経済学の基礎を総合的に学ぶとともに、経済変動の問題を考えたり、市場の在り方を検討することにより、経済問題を解決する視座を身につけることを目的とする。

具体的には、経済学や経済理論の基礎、現代の経済政策などを確認し、国民総生産の変動が物価や景気、雇用などの面で国民生活にどのように影響を与えるのかを学ぶ。また、消費者行動や生産者（企業）行動の理論や市場均衡の分析方法などを確認しながら、消費者の効用や生産者（企業）の費用のモデルを学び、市場の今後の在り方について考える。

授業計画

第１回：イントロダクション － 経済学とは何か

第２回：市場と価格のメカニズム（需要・供給の法則）

第３回：消費者行動の理論

第４回：生産者行動と企業の最適選択

第 5 回：市場構造と企業戦略
第 6 回：市場の失敗と政府の役割
第 7 回：国民経済計算と GDP の測定
第 8 回：失業とインフレーションのメカニズム
第 9 回：貨幣と金融政策
第 10 回：財政政策と政府の役割
第 11 回：経済成長と長期的な経済変動
第 12 回：景気循環と短期的な経済変動
第 13 回：国際貿易と為替の仕組み
第 14 回：現代の経済課題と政策対応
第 15 回：まとめとディスカッション

テキスト
とくにテキストは指定しない。講義内容・テーマに応じて、適宜、資料等を提示する。

参考書・参考資料等
マンキュー『マンキュー入門経済学（第3版）』東洋経済新報社、2019年
横浜国立大学経済学部テキスト・プロジェクトチーム編『ゼロからはじめる経済入門』有斐閣コンパクト、2019年
一橋大学経済学部編『教養としての経済学　生き抜く力を培うために』有斐閣、2013年
ジェイソン・ヒッケル著、野中香方子訳『資本主義の次に来る世界』東洋経済新報社、2023年
その他、各回で参考になる図書を適宜紹介する。

学生に対する評価
定期試験（50%）：講義全体の内容をどの程度理解しているかを確認するため、定期試験を行う。講義内容への言及が明確に行われているかが採点時のポイントになる。
クイズ/小テスト（50%）：毎回授業後にアンケート的な質問や簡単な課題に関するリアクションペーパーの提出が求められる。それらに対する真摯な内容的応答がなされているかを確認する。

授業科目名： 持続可能な地域づくり論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：松下　重雄 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　社会・高等学校　公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」　（中学校　社会） ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」　（高等学校　公民）		

授業のテーマ及び到達目標

授業の目標：

エコツーリズムやグリーンツーリズムなどの地域主体のツーリズムの発展経緯、実践事例および計画技術について学び、持続可能で魅力的な地域づくりに求められるツーリズムの基本的な視点と運営手法について修得する。サステイナブルな地域づくりにおいて求められる、環境・社会・経済からの基本的な視点・価値観を修得する。

観点別目標：

【知識・理解の観点】持続可能な地域づくりを取り巻く基本的な概念（キーワード）、社会課題等について、列挙できるようになる。

【思考・判断の観点】持続可能な地域づくりの意義・魅力への理解をとおして、自分と地域づくりとの接点を考えるようになる。

【関心・意欲・態度の観点】持続可能な地域づくりへの関心を高め、多くの地域プログラムに関心をもつとともに具体的に参加するようになる。

【技能・表現の観点】持続可能な地域づくりの現場で求められる主な計画技術や運営手法について理解し、基礎的な部分については実践できるようになる。

授業の概要

　地域社会の持続可能性は、今日の環境的、経済的、社会的課題に対する重要な解決策である。社会が成熟化し人口減少や高齢化が進展するこれからの時代において、地域住民主体のコミュニティ形成や持続可能な暮らしへの価値変革（トランジション）の在り方について考えるのが「持続可能な地域づくり論」である。

　本講義では、地域の持続的な発展に求められる新たな価値観や仕組みについて、具体的な事例を通して学び、地域住民の生活の質の向上と環境保全のバランスを考慮した計画策定手法や持続可能な社会をデザインする素地を身につけることを目的とする。具体的には、地域資源の持続可能な利用、コミュニティ・ベースド・ツーリズム（暮らし観光）、エコ/グリーンツーリズム、関係人口形成、環境に配慮したライフスタイル等のトピックを通して、持続可能な社会や生活をいかに能動的に形成していくかについて学習する。

授業計画

第１回：ガイダンス　無理しない観光と持続可能な地域づくり

第２回：ツーリズムからサステイナビリティを考える：「旅」から学ぶこと
第３回：ツーリズムからサステイナビリティを考える：住民主体によるエコツーリズム
第４回：ツーリズムからサステイナビリティを考える：生活観光・暮らし観光を考える
第５回：ツーリズムからサステイナビリティを考える：と関係人口形成とツーリズム
第６回：ツーリズムからサステイナビリティを考える：コミュニティ・ベースド・ツーリズム
第７回：ツーリズムからサステイナビリティを考える：気候変動とツーリズム
第８回：学生による持続可能な地域づくり紹介
第９回：持続可能な暮らしと在来知：インド農村の地域づくりに学ぶ
第１０回：持続可能な地域づくりの理論：「パタン・ランゲージ」「ネイチャー・オブ・オーダー」等から学ぶ
第１１回：持続可能な地域づくりの理論：「エコロジカル・デモクラシー」等から学ぶ
第１２回：持続可能な地域づくりの理論：「アグロ・エコロジー」等から学ぶ
第１３回：ローカライゼーションと脱成長
第１４回：サステイナビリティ・トランジションに向けて
第１５回：持続可能な地域づくり：まとめ

テキスト
とくに指定しない。

参考書・参考資料等
・松浦正浩（2023）『トランジション 社会の「あたりまえ」を変える方法』,集英社
・クリストファー アレグザンダー(2013)『ザ・ネイチャー・オブ・オーダー　建築の美学と世界の本質　生命の現象』,鹿島出版会
・ランドルフ・T・ヘスター（2018）『エコロジカル・デモクラシー:まちづくりと生態的多様性をつなぐデザイン』,鹿島出版会
・スティーヴン・グリースマン（2023）『アグロエコロジー: 持続可能なフードシステムの生態学』,農山漁村文化協会

学生に対する評価
課題：20%　中間課題
レポート：30%　期末レポート
その他：50%　毎回の授業で実施する①ふりかえりコメントシート作成と②事例研究によるキーワード/キーフレーズ抽出

授業科目名：哲学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：丸山　文隆 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　社会・高等学校　公民）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」　（中学校　社会） ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」　（高等学校　公民）

授業のテーマ及び到達目標

西洋哲学史の重要な論点について正確な知識をもつこと。そして、古代から現代までのさまざまな考え方を理解することで、自分とは異なる立場を尊重しつつ自分なりの思考を展開できるようになること。

授業の概要

西洋哲学の歴史について古代から中世、近代、現代とその推移と、代表的な哲学者の思想について学び、過去の哲学者はどのような人間観、世界観から人類思想について考えてきたのか理解することが「哲学概論」である。

本講義では、代表的な哲学者たちの議論を取り上げ、その内容について考察し、人類にとっての普遍的な思想的課題を理解し、今日にも通用するような思索の方法と解答の筋道を考える手掛かりを得ることを目的にしている。西洋哲学史の基礎知識を得ながら、哲学的な発想を身につけ、自らも哲学的な思索ができるようにする。例えば、近代哲学の二大潮流である合理論と経験論を対比的に学び、自分の発想はどちらに近いかを考える。

授業計画

第１回：序論：哲学と哲学史
第２回：プラトン：哲学と人生
第３回：デカルト（１）：形而上学の構想と方法的懐疑
第４回：デカルト（２）：「われ思う」による形而上学の基礎づけ
第５回：ライプニッツ（１）：形而上学の体系
第６回：ライプニッツ（２）：「モナドには窓がない」
第７回：カント（１）：超越論的観念論
第８回：カント（２）：自由論と倫理学
第９回：反哲学の系譜：マルクスとニーチェ
第１０回：フッサール（１）：意識の諸体験の本質を記述する学
第１１回：フッサール（２）：現象学的還元
第１２回：ハイデッガー（１）：存在の問いと道具分析
第１３回：ハイデッガー（２）：先駆的決意性
第１４回：現代哲学（１）：ボーヴォワールとサルトル

第１５回：現代哲学（２）：ウィトゲンシュタインと分析哲学 定期試験
テキスト なし
参考書・参考資料等 開講時に指示する。
学生に対する評価 クイズ/小テスト30%　「知識・理解」を主に評価する レポート70%　講義内容の正確な理解を前提したうえで、「思考・判断」、「関心・意欲・態度」、「技能・表現」の点を主に評価する

授業科目名： 現代社会と哲学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：丸山　文隆 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　社会・高等学校　公民）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」　（中学校　社会） ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」　（高等学校　公民）

授業のテーマ及び到達目標

哲学とはどのような学問であるかについて正確な理解をもつこと。中心課題としては、現代哲学の重要な論点について、概要を説明できるようになることである。そのうえで、哲学と生きかた（人生観）、哲学と宗教、哲学と科学の関係について一定の見通しを得ることを目指す。

授業の概要

　哲学の基本的な概念に基づいて、現代社会で生きる私たち人間の在り方を全体的に考えるのが「現代社会と哲学」である。

　本講義では、差別、個人の尊重、人生の意味、生と死など、現代社会で生きる私たちにとって重要な問題を題材にしつつ、人間の在り方を根本的に考える学問としての哲学を学ぶことを目的とする。具体的には、はじめに「存在論」、「主観と客観」、「自然と人間」といった哲学の基礎的な論点を通して、そもそも哲学とはどのような学問であるかを理解する。続いて、「性差別とフェミニズム」、「人種差別」、「障害者差別」などの具体的な問題に基づいて人間を個として尊重することに関する哲学的議論を理解する。最後に、「幸福と人生の物語」、「生と死」、「過去と未来」、「歴史のなかの個人」といったテーマに基づいて人間の在り方を多角的に考察する視点を学ぶ。

授業計画

第１回：第I部「哲学とは何か」（イントロダクション）
第２回：存在論：物と心
第３回：主観と客観
第４回：自然科学と人文社会科学
第５回：第2部「差別の哲学」（イントロダクション）
第６回：フェミニズム
第７回：人種差別
第８回：障害者差別
第９回：人間を個人として尊重すること
第１０回：中間テストとここまでのまとめ
第１１回：第3部「人生の意味の哲学」（イントロダクション）
第１２回：幸福と人生の物語

第１３回：生と死 第１４回：過去と未来 第１５回：歴史のなかで自由に生きること 定期試験
テキスト 使用しない
参考書・参考資料等 『哲学するってどんなこと？』 金杉武司ちくまプリマー新書 2022年 『哲学の謎』 野矢茂樹 講談社現代新書1996年 978-4061492868 『差別の哲学入門』 池田喬・堀田義太郎 アルパカ 2021年 『人生の意味の哲学入門』 森岡正博・蔵田伸雄（編） 春秋社 2023年
学生に対する評価 クイズ/小テスト 40% 特に「知識・理解」の観点から評価する。 レポート 60% 正確な「知識・理解」を前提しつつ、「思考・判断」、「関心・意欲・態度」、「技能・表現」の観点を重視して評価する。

授業科目名：倫理学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：丸山　文隆 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　社会・高等学校　公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」　（中学校　社会） ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」　（高等学校　公民）		

授業のテーマ及び到達目標

功利主義、義務論、徳倫理学という三つの代表的な倫理学理論のポイントを理解したうえで、いずれか一つの立場に基づいて応用倫理学の具体的な問題に即して自分の考えを展開することができる

授業の概要

古代から現代にかけて登場した西洋のいくつかの倫理思想を概観することを通して、倫理学が歴史的にどのように展開してきたのか、そうした倫理思想を現代社会に存在する問題の解決にどのように使うのか学ぶことが「倫理学概論」である。

本講義では、倫理学の伝統的な理論も学びつつ、その考え方を現代の医療と生命の諸問題、環境と産業の諸問題にどう応用できるかを論じていく。さらには、医療技術をどう使うのか、環境を守りながら人間生活を営むには何が必要なのかなどについて、自分で考え、次代を担う市民としての思考・判断力を養うことを目的とする。生命や環境に関する倫理的な問題を知り、医療と生活、自然と産業について原理的かつ包括的に考える素養を身につけ、現実的な諸問題に自分なりの判断ができる倫理的な力を身につけることを学ぶ。

授業計画

第１回：哲学とは何か、倫理学とは何か
第２回：学問としての倫理学。善悪は人それぞれか？
第３回：生命倫理と環境倫理の概要
第４回：功利主義と生命倫理
第５回：義務論と生命倫理
第６回：徳倫理学と生命倫理
第７回：生命倫理の諸問題（１）：出生前診断と優生思想
第８回：生命倫理の諸問題（２）：終末期医療と安楽死
第９回：生命倫理の諸問題（３）：脳死・臓器移植
第１０回：功利主義と環境倫理
第１１回：義務論と環境倫理
第１２回：徳倫理学と環境倫理
第１３回：環境倫理の諸問題（１）：自然の権利（『環境倫理学』第5章）

第１４回：環境倫理の諸問題（２）：生物多様性（『環境倫理学』第6章） 第１５回：環境倫理の諸問題（３）：風土と環境倫理（『環境倫理学』第11章）
テキスト なし
参考書・参考資料等 『プラクティカル生命・環境倫理』　徳永哲也　世界思想社2015年 978-4790716662 『これからの「正義」の話をしよう：いまを生き延びるための哲学』 マイケル・サンデル ハヤカワ文庫 2011年 978-4150503765 『新版・現実をみつめる道徳哲学』　J・レイチェルズほか　晃洋書房2017年 978-4771027619 『環境倫理学』吉永・寺本（編） 昭和堂2020年　978-4812219348
学生に対する評価 クイズ/小テスト 30% 主に「知識・理解」を評価する レポート 70% 講義内容の正確な理解を前提しつつ、「思考・判断」、「意欲・関心・態度」、「技能・表現」を主に評価する

授業科目名： 現代社会と倫理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：丸山　文隆 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　社会・高等学校　公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・倫理学		

授業のテーマ及び到達目標

生命倫理および環境倫理の諸問題に関するさまざまな論点を正確に理解し、哲学的な問題を自分なりに思考できるようになる。

授業の概要

生命倫理と環境倫理の具体的な諸問題に関し、歴史的・文明論的な広い視野に基づいて考えるのが「現代社会と倫理学」である。

本講義では、生命倫理と環境倫理という応用倫理の二大分野が、それぞれどのような歴史的経緯で誕生し、現在どのような課題に直面しているのかを包括的に理解することを目的とする。具体的には、まずは哲学とは何であり、倫理学とは何かについて学ぶ。倫理学は哲学の一種であり、「善とは何か」を問題にする。続いて、生命倫理が誕生した歴史的経緯を学んだうえで、人工妊娠中絶や人工生殖技術などの「生まれることの倫理」、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植などの「死ぬことの倫理」について学ぶ。さらに、環境倫理を歴史的に概観したうえで、「自然の権利」、「世代間倫理」、「地球全体主義」といった環境倫理の重要な論点について、具体的な事例に即して理解する。

授業計画

第１回：哲学とは何か、倫理学とは何か
第２回：生命倫理の歴史と現在
第３回：教科書第1章：生まれることの倫理
第４回：教科書第2章：生まれ方を操作することの倫理
第５回：教科書第3章：死ぬことの倫理
第６回：教科書第4章：新時代の「死」と「移植」の倫理
第７回：生命倫理の原理は何か：幸福、自己決定、人生観
第８回：中間テストとここまでのまとめ
第９回：環境倫理の歴史と現在
第１０回：映像資料を使って環境について考える（１）
第１１回：映像資料を使って環境について考える（２）
第１２回：教科書第5章：環境問題の経済と倫理
第１３回：教科書第6章：「自然の権利」という環境倫理思想
第１４回：教科書第7章：世代間倫理は「倫理」たりうるか

第１５回：教科書第8章：地球全体主義の可能性と困難性 定期試験
テキスト 『ベーシック 生命・環境倫理』徳永哲也 世界思想社 2013年 978-4-7907-1606-8
参考書・参考資料等 『増補改訂版・命は誰のものか』香川知晶 ディスカヴァー2021年 978-4799327296 『はじめて学ぶ環境倫理』 吉永明弘 ちくまプリマー新書　2021年 978-4480684165
学生に対する評価 クイズ/小テスト 40% おもに「知識・理解」を評価する 定期試験 60% 講義内容の正確な理解を前提しつつ、「思考・判断」、「関心・意欲・態度」、「技能・表現」を主に評価する。

授業科目名： 社会科指導法基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：飯塚秀彦 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

・平成 29 年告示学習指導要領における中学校社会科の改訂の要点を、これまでの学習指導要領の改訂も踏まえ理解する。

・中学校社会科の目標，内容及び内容の取扱いについて理解する。

・中学校社会科の学習指導と学習評価について理解する。

・指導の意図を明確にした社会科の学習指導案を作成する基礎的な技能を身に付ける。

授業の概要

社会科で育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるのが「社会科指導法基礎」である。

「社会科指導法基礎」では、社会科で身につける資質・能力を理解することをテーマとして、よりよい社会科の授業を構想することに向けて、社会科教員として求められる資質・能力の基礎を、社会科教育に関わる課題を追究したり解決したりする活動を通して身につけることを目的とする。具体的には、社会科の歴史、中学校社会科の構造と小学校との接続、学習指導要領と教科書の関係、社会科における学習指導と学習評価について課題を設定し社会科の教師として必要とされる資質・能力の基礎を身に付けられるようにする。

授業計画

第１回：オリエンテーション

問い：魅力的な社会科の授業とは？

小学校から高等学校までの社会科（地理歴史科、公民科）の授業を振り返り、魅力的な社会科の授業についての仮説を立て、学修の見通しをもつ。（教職課程コアカリキュラム　(1)－１））

第２回：平成 29 年告示学習指導要領の改訂の要点

問い：現行学習指導要領改訂の要点とは？

現行学習指導要領改訂の要点及び令和の日本型学校教育について確認する。（教職課程コアカリキュラム　(1)－１）、(2)－１））

第３回：小学校社会科の構成

問い：小学校の社会科の目標、内容とは？

小学校社会科の目標及び内容、教科書の記載について確認する。（教職課程コアカリキュラ

ム （⑴－Ⅰ）２）、⑵－Ⅰ）２））

第４回：中学校社会科の構成
　問い：中学校の社会科の目標、内容とは？
　中学校社会科の改訂の要点及び目標、内容の構成を確認する。（教職課程コアカリキュラム⑴－Ⅰ）２）、⑵－Ⅰ）２））

第５回：中学校社会科の学習指導及び評価①
　問い：社会科の学習指導過程とはどのようなものか？
　模擬授業映像から、社会科の授業の導入について確認する。併せて、資質・能力の育成に資するICTの効果的な活用の仕方についても触れる。（教職課程コアカリキュラム （⑴－Ⅰ）２）３）、⑵－Ⅰ）２）３））

第６回：中学校社会科の学習指導及び評価②
　問い：社会科の学習指導過程とはどのようなものか？
　模擬授業映像から、社会科の授業の展開及びまとめについて確認する。併せて、資質・能力の育成に資するICTの効果的な活用の仕方についても触れる。（教職課程コアカリキュラム⑴－２）３）、⑵－Ⅰ）２））

第７回：中学校社会科の学習指導及び評価③
　問い：社会科の学習評価はどのように行うのか？
　社会科における指導と評価の一体化の要点について確認する。（教職課程コアカリキュラム⑴－３）、⑵－２））

第８回：社会科とNIE①
　問い：社会科の授業において新聞をどのように活用するか？
　信濃毎日新聞記者による出張講義。新聞とはどのようなメディアであるのかを確認する。（教職課程コアカリキュラム （⑴－Ⅰ）４）５））

第９回：社会科とNIE②
　問い：社会科の授業において新聞をどのように活用するか？
　信濃毎日新聞記者による出張講義。社会科に学習指導における新聞の活用事例について確認する。（教職課程コアカリキュラム （⑴－２）４）５））

第１０回：社会科とNIE③
　問い：社会科の授業において新聞をどのように活用するか？
　信濃毎日新聞記者による出張講義。社会科の指導を想定しながら、スクラップ新聞を作成する。（教職課程コアカリキュラム （⑴－４）５）、⑵－３））

第１１回：生徒が「問い」を考察し、理解する学習過程を構想する①
　問い：生徒が「見方・考え方」を働かせ、資質・能力を身に付ける学習過程とは？
　生徒が「問い」を考察し、知識を理解する学習過程を、グループで構想する。その際、資質・能力の育成に資するICTの効果的な活用も含めることとする。（教職課程コアカリキュラム （⑴－Ⅰ）２）、⑵－Ⅰ）２）３）４））

第１２回：生徒が「問い」を考察し、理解する学習過程を構想する②
　問い：生徒が「見方・考え方」を働かせ、資質・能力を身に付ける学習過程とは？
　生徒が「問い」を考察し、知識を理解する学習過程を、グループで構想する。その際、資質・能力の育成に資するICTの効果的な活用も含めることとする。（教職課程コアカリキュラム　(1)－２）、(2)－１）４））

第１３回：生徒が「問い」を考察し、理解する学習過程を構想する③
　問い：生徒が「見方・考え方」を働かせ、資質・能力を身に付ける学習過程とは？
　中間発表を行い、コメントを基に修正を行う。（教職課程コアカリキュラム　(1)－３）、(2)－２）４））

第１４回：生徒が「問い」を考察し、理解する学習過程を構想する④
　問い：生徒が「見方・考え方」を働かせ、資質・能力を身に付ける学習過程とは？
　生徒が「問い」を考察し、知識を理解する学習過程を、グループで構想する。（教職課程コアカリキュラム　(1)－２）３）、(2)－３）４））

第１５回：生徒が「問い」を考察し、理解する学習過程を構想する⑤、まとめ
　問い：生徒が「見方・考え方」を働かせ、資質・能力を身に付ける学習過程とは？
　構想した学習過程について検討し、評価を行う。初回の授業時に設定した仮説の検証、見直しを行う。（教職課程コアカリキュラム　(2)－４）５））

テキスト
　文部科学省「高等学校学習指導要領解説　地理歴史編」
　文部科学省「高等学校学習指導要領解説　公民編」
　文部科学省「中学校学習指導要領解説　社会編」
　文部科学省「小学校学習指導要領解説　社会編」

参考書・参考資料等
　特になし

学生に対する評価
　毎授業時のリアクションペーパー　40%
　生徒が「問い」を考察し、理解する学習過程についてのレポート　　40%
　総括レポート　20%

授業科目名： 社会科・地歴科教育法 A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：羽田　司 中嶋　則夫 担当形態：複数

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　地理歴史）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

平成 29・30 年告示の学習指導要領の内容を理解し、主に地理的分野における生徒に求める資質・能力を育成できるようになる。
主に地理的分野における学習指導計画案を作成できるようになる。

授業の概要

社会科で育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけるのが「社会科・地歴科教育法」である。

「社会科・地歴科教育法 A」では、学習指導要領の内容を理解し、主に地理的分野における生徒に求める資質・能力を育成できるようになること、さらには主に地理的分野における学習指導計画案を作成できるようになることを目的とする。具体的には、中学校社会科及び高等学校地理歴史科の「地理的分野」を主に扱い、現在の指導の方向性や問題点について学習し、学習指導計画案の作成方法に関しても学んでいく。さらに、GIS や電子黒板といった情報技術の活用方法も積極的に考えていく。

授業計画

第１回：中学校社会科・高等学校地理歴史科教育の意義と課題【羽田、中嶋】
第２回：中学校社会科・高等学校地理歴史科の構造（教職課程コアカリキュラム(1)-1）【羽田、中嶋】
第３回：中学校社会科・高等学校地理歴史科の教師に求められる資質・能力（教職課程コアカリキュラム(1)-1)、3)、(2)-2)）【羽田、中嶋】
第４回：中学校社会科・高等学校地理歴史科教育の目標・学力論（教職課程コアカリキュラム(1)-2)、3)、(2)-1)）【羽田、中嶋】
第５回：中学校社会科・高等学校地理歴史科教育のカリキュラムデザイン（教職課程コアカリキュラム(1)-1)、(2)-2)、3)）【羽田、中嶋】
第６回：中学校社会科・高等学校地理歴史科教育の授業分析・開発・評価・改善（教職課程コアカリキュラム(1)-3)）【羽田、中嶋】
第７回：中学校社会科地理的分野の学習指導・評価（教職課程コアカリキュラム(1)-1)）【羽田、中嶋】
第８回：高等学校地理歴史科における「地理総合」科目の学習指導・評価（教職課程コアカリキュラム(1)-1)、(2)-1)、2)）【羽田、中嶋】
第９回：高等学校地理歴史科における「地理探究」科目の学習指導・評価（教職課程コアカリキュラム(1)-1)、5)、(2)-1)、2)）【羽田、中嶋】
第１０回：これからの社会系教科教育の課題と展望（教職課程コアカリキュラム(2)-5)）

【羽田、中嶋】
第１１回：地理情報システム（GIS）の操作と活用（教職課程コアカリキュラム(1)-4)、(2)-2)）【羽田、中嶋】
第１２回：学習指導計画案の作成（教職課程コアカリキュラム(1)-2)、(2)-2)、3))
【羽田、中嶋】
第１３回：学習指導計画案に関するグループ討議（教職課程コアカリキュラム(1)-3)、(2)-2)、3))【羽田、中嶋】
第１４回：模擬授業①：中学校社会科（教職課程コアカリキュラム（2)-3)、4))
【羽田、中嶋】

第１５回：模擬授業②：高等学校地理（教職課程コアカリキュラム（2)-3)、4))
【羽田、中嶋】
定期試験　実施しない

テキスト
文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 社会編』東洋館出版社 2018 年
文部科学省『高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説 地理歴史編』東洋館出版社　2019 年

参考書・参考資料等
棚橋健治ほか『中学校社会科教育・高等学校地理歴史科教育』学術図書出版社 2020 年

学生に対する評価
課題　40%　講義に関連する小課題
成果発表　60%　指導案と模擬授業

授業科目名： 社会科・地歴科教育法Ｂ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：塚瀬　進 山田　精一
			担当形態：複数・オムニバス
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　地理歴史））		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

１　歴史教科書の記述内容についての理解を深める。

２　生徒が関心を持つ授業内容を、自分で構成できるようにする。

３　自分の考えを他者にわかりやすく伝えることができる。

授業の概要

社会科で育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけるのが「社会科・地歴科教育法」である。

「社会科・地歴科教育法Ｂ」では、学習指導要領の内容を理解し、主に歴史的分野における生徒に求める資質・能力を育成できるようになること、さらには主に歴史的分野における学習指導計画案を作成できるようになることを目的とする。具体的には、教科に関する正しい知識、基本的な教授法の修得を目指し、現在の歴史教科書がどういう内容で、何にポイントを置いているのか、実際に中学や高等学校で使われている教科書を検討する。こうした検討を通して、実際に中学、高等学校で授業を行うことへの準備にむけて指導案の作成を行う。

授業計画

第１回：現在の歴史教科書をめぐる諸問題について講義する。〈塚瀬〉（教職課程コアカリキュラム(1)-4)、(2)-5))

第２回：歴史教科書の内容について〈塚瀬〉（教職課程コアカリキュラム(1)-2))
実際に中学校で使われている歴史教科書の内容について理解を深める。

第３回：学習指導要領と歴史教科書〈塚瀬〉（教職課程コアカリキュラム(1)-1))
学習指導要領を読み、それが教科書とどのように対応しているのか理解する。

第４回：「学習課題」について〈塚瀬、山田〉（教職課程コアカリキュラム(2)-1)、3))
「学習課題」をどのように取り上げ、実際の授業で生徒に示すのか、具体的な方法について学ぶ。

第５回：教科書の単元の授業方法について　１〈塚瀬、山田〉（教職課程コアカリキュラム(1)-1)、(2)-2))
教科書の記述を検討し、具体的にどのように授業をするのか理解する。その際、ICTの効果的な活用についても触れる。

第６回：教科書の単元の授業方法について　２〈塚瀬、山田〉（教職課程コアカリキュラム(1)-2)、(2)-1))
教科書の記述を検討し、具体的にどのように授業をするのか理解する。

第７回：授業案の作成　Ｉ〈塚瀬〉（中学校：社会）（教職課程コアカリキュラム(2)-3))
「大化の改新」をとりあげ、授業案をどのように作成するのか理解する。

第８回：授業案の作成　Ⅱ〈塚瀬〉（高等学校：地理歴史）（教職課程コアカリキュラム(2)-3)）
　　高校の教科書を使い、「大化の改新」の授業案を作成する。
第９回：生徒の関心を引き付ける方法　Ⅰ〈塚瀬、山田〉（教職課程コアカリキュラム（2)-1))
　　生徒の関心、集中を切らさないためには、どのような授業をおこなうのか考える。
第１０回：生徒の関心を引き付ける方法　Ⅱ〈塚瀬、山田〉（教職課程コアカリキュラム(2)-1))
　　生徒の関心、集中を切らさないためには、どのような授業をおこなうのか考える。
第１１回：全体学習計画の作成　Ⅰ〈塚瀬〉（中学校：社会）
　各学期でおこなう学習計画について考える。（教職課程コアカリキュラム(1)-3)、(2)-3))
第１２回：全体学習計画の作成　Ⅱ〈塚瀬〉（高等学校：地理歴史）
　各学期でおこなう学習計画について考える。（教職課程コアカリキュラム(1)-3)、(2)-3))
第１３回：模擬授業をおこない、実際に授業を行う際の留意点（含 ICT の効果的な活用）について学ぶ　Ⅰ〈塚瀬〉（教職課程コアカリキュラム(2)-2)、4)
第１４回：模擬授業をおこない、実際に授業を行う際の留意点について学ぶ（含 ICT の効果的な活用）　Ⅱ〈塚瀬〉（教職課程コアカリキュラム(2)-2)、4))
第１５回：全体のまとめ〈塚瀬〉
定期試験：実施しない

テキスト
　文部科学省「中学校学習指導要領解説　社会編」
　文部科学省「高等学校学習指導要領解説　地理歴史編」

参考書・参考資料等
社会科教育・歴史教育の未来像
敦賀短期大学地域総合研究所編
敦賀短期大学地域交流センター

学生に対する評価
課題　40%　各回の講義で示す授業案を作成、提出する。
レポート　30%　授業案、授業のシナリオを作成、提出する。
成果発表　30%　模擬授業をおこなう。

授業科目名： 社会科･公民科教育法Ａ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：飯塚秀彦 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　社会・高等学校　公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

・中学校学習指導要領における中学校社会科、特に公民的分野の目標、内容及び内容の取扱いを、小学校や高等学校の接続も踏まえ理解する。

・中学校社会科、特に公民的分野における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導及び学習評価の在り方につて理解する。

・中学校社会科、特に公民的分野における内容のまとまりを踏まえた単元を構想し、単元に基づいた１単位時間の学習指導案を作成する。

・模擬授業を行うとともに、その振り返りを通して授業改善の視点を理解する。

授業の概要

選挙権年齢及び成年年齢が満 18 歳以上に引き下げられる中で、中学生や高校生に対しても社会を構成する一員としての自覚をもつことがより一層求められるようになっている。本授業では、このような状況を踏まえ、中学校学習指導要領で示された資質・能力を育成する授業とはどのような授業なのかを考察する。

授業計画

第１回：授業の見通しをもつ

問い：中学校社会科の公民的分野を学習する意義や意味は何か？

よりよい中学校社会科公民的分野の学習指導と学習評価の要件についての仮説を立て、授業に対する見通しをもつ。（教職課程コアカリキュラム　(1)－１））

第２回：教科書分析

問い：中学校社会科公民的分野の教科書の特色とは？

複数の教科書を分析することを通して、中学校社会科公民的分野において身に付ける資質・能力を予想する。（教職課程コアカリキュラム　(1)－１）４））

第３回：目標、内容及び内容の取扱いについての理解①

問い：中学校社会科公民的分野の目標、内容の要点とは？

中学校社会科公民的分野の目標について理解する。（教職課程コアカリキュラム　(1)－１）２）、(2)－１）２））

第４回：目標、内容及び内容の取扱いについての理解②

問い：中学校社会科公民的分野の目標、内容の要点とは？

中学校社会科公民的分野の内容及び内容の取扱いについて理解する。（教職課程コアカリキ

ュラム （⑴－１）２）、⑵－１）２））

第５回：目標、内容及び内容の取扱いについての理解③
　問い：中学校社会科公民的分野の目標、内容の要点とは？
　小学校及び高等学校の接続という視点から中学校社会科公民的分野の目標、内容及び内容の取扱いについて理解する。併せて、資質・能力の育成に資するICTの効果的な活用の仕方についても触れる。（教職課程コアカリキュラム （⑴－１）２）５）、⑵－１）２））

第６回：小括
　ここまでの授業を振り返り、第１回の授業時に立てた仮説を検証し、仮説の見直しを行う。（教職課程コアカリキュラム （⑴－１）２）５）、⑵－１））

第７回：学習評価①
　問い：育成した資質・能力を見取る学習評価とは？
　ペーパーテストをつくることを通して、中学校社会科公民的分野における学習評価の基本について理解する。（教職課程コアカリキュラム （⑴－１）２）３）、⑵－１））

第８回：学習評価②
　問い：育成した資質・能力を見取る学習評価とは？
　ペーパーテスト以外の学習評価の方法について理解する。（教職課程コアカリキュラム （⑴－１）２）３）、⑵－１））

第９回：主権者教育の単元を構想する①
　問い：中学校社会科公民的分野における主権者教育とは？
　主権者教育の概要について、学習指導要領及び答申等によって理解する。（教職課程コアカリキュラム （⑴－１）２）４））

第１０回：主権者教育の単元を構想する②
　問い：中学校社会科公民的分野における主権者教育とは？
　主権者教育を意識した中学校社会科公民的分野における単元を構想する。その際、資質・能力の育成に資するICTの効果的な活用も含めることとする。（教職課程コアカリキュラム （⑴－１）２）、⑵－２）３））

第１１回：主権者教育の単元を構想する③
　問い：中学校社会科公民的分野における主権者教育とは？
　主権者教育を意識した単元についてディスカッションを行うとともに、ディスカッションを踏まえた単元の改善を行う。（教職課程コアカリキュラム （⑴－１）２）、⑵－２）３））

第１２回：模擬授業①
　構想した単元の中の任意の１時間の模擬授業を行うとともに、模擬授業についてのディスカッションを行う。（教職課程コアカリキュラム （⑴－１）２）、⑵－２）４）５））

第１３回：模擬授業②
　構想した単元の中の任意の１時間の模擬授業を行うとともに、模擬授業についてのディスカ

ッションを行う。（教職課程コアカリキュラム　(I)－１）２）、(2)－２）４）５）） 第１４回：模擬授業③ 　構想した単元の中の任意の１時間の模擬授業を行うとともに、模擬授業についてのディスカッションを行う。（教職課程コアカリキュラム　(I)－１）２）、(2)－２）４）５）） 第１５回：全体総括 　１４回の授業を振り返り、中学校社会科公民的分野及び高等学校公民科の学習指導と学習評価の要件について考察し、論述する。
テキスト 　文部科学省「中学校学習指導要領解説　社会編」
参考書・参考資料等 唐木清志『社会科の「問題解決的な学習」とは何か』（東洋館出版社）
学生に対する評価 　毎授業時のリアクションペーパー　40% 　学習指導案及び模擬授業　　40% 　総括レポート　20%

授業科目名： 社会科・公民科教育法 B	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 丸山　文隆、飯塚　秀彦 担当形態：複数
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　社会・高等学校　公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

　中学社会の「公民的分野」、高校公民の「公共」「倫理」「政治・経済」を教えるための姿勢を鍛え、方法を身につける。

授業の概要

　社会科で育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけるのが「社会科・公民科教育法」である。

　「社会科・公民科教育法 B」では、中学校社会科の「公民的分野」、高校公民における「公共」「倫理」「政治・経済」を教えるための姿勢を鍛え、指導方法を身につけることを目的とする。具体的には、中学校社会の公民的分野と高校の公民科目、特に後者に重点を置き、学校教育における位置づけ、学習指導要領を踏まえた教える内容の把握、自分なりの整理の仕方、生徒に教え考えさせる方法を学ぶ。

授業計画

第１回：公民科の教育とは何か
第２回：高校公民科と中学社会公民的分野の全体構造
第３回：高校「公共」の内容（１）：哲学史および「人間の尊厳」
第４回：高校「公共」の内容（２）：現代日本の政治・社会の諸問題
第５回：高校「公共」の内容（３）：現代の国際政治・社会の諸問題
第６回：教科書研究：発表準備
第７回：教科書研究（１）：グループ発表（第 1～2 グループ）
第８回：教科書研究（２）：グループ発表（第 3～4 グループ）
第９回：教科書研究（３）：グループ発表（第 5～6 グループ）
第１０回：教科書研究のまとめ
第１１回：指導案・スライド作成（含 ICT の効果的な活用）：発表準備
第１２回：指導案・スライド作成（含 ICT の効果的な活用）（１）：第 1～2 グループの発表
第１３回：指導案・スライド作成（含 ICT の効果的な活用）（２）：第 3～4 グループの発表
第１４回：指導案・スライド作成（含 ICT の効果的な活用）（３）：第 5～6 グループの発表
第１５回：指導案・スライド作成のまとめ
定期試験　実施しない

テキスト

・文部科学省「中学校学習指導要領解説　社会編」
・文部科学省「高等学校学習指導要領解説　公民編」
・高校「公共」の教科書（出版社は自由）をひとり一冊用意して「教科書研究」および「指導

案・スライド作成」を行う。持っていない受講者については授業中に希望をとって共同購入する。
参考書・参考資料等 参考文献は授業中にさらに指示する。意欲と関心に応じて文献を自主的に参照し、グループ発表や期末レポートを準備すること。
学生に対する評価 レポート　50%　特に「知識・理解」、「関心・意欲・態度」を評価する。 成果発表　50%　特に「思考・判断」、「技能・表現」を評価する（学習指導案およびスライドの作成）。

授業科目名：地域社会学	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：２単位	担当教員名：相川　陽一 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		

授業のテーマ及び到達目標

この授業の目標は、受講生が、（１）地域社会学の基礎理論と基礎概念を用いて日本の地域社会の歴史と現状を捉え、（２）フィールドワークにもとづいて実施した研究の実例紹介を通して、地域社会学の領域でおこなわれる調査研究のあり方を理解することである。

授業の概要

主として高度経済成長期以降の現代日本社会における地域社会の変動を俯瞰し、地域社会を社会科学、なかでも社会学の観点で把握するための基本的な理論と概念の体系について学ぶのが「地域社会学」である。

本講義では、①地域社会学の基礎理論と基礎概念を用いて日本の地域社会の歴史と現状を捉え、②フィールドワークにもとづいて実施した研究の実例紹介を通して、地域社会学の領域でおこなわれる調査研究の在り方を理解することを目的とする。具体的には、持続可能な地域社会という視点を設定し、戦後日本社会の歩みにおいて転換点となった出来事として、高度経済成長を画期とした農村から都市への大規模な人口移動と過疎の発生、工業発展と都市型社会化がもたらした公害問題をはじめとする諸矛盾の発生と住民・市民・研究者らの対応、近年のグローバル化のローカルな帰結などについて学習する。

授業計画

第１回：１．地域社会学へのイントロダクション
第２回：２．フィールドワークからテーマ（問い）を見つける
第３回：３．地域社会学の舞台：農山村と都市
第４回：４．農村社会学に源流をもつ地域社会学の基礎概念（１）村落と地域
第５回：５．農村社会学に源流をもつ地域社会学の基礎概念（２）農村と都市の違い
第６回：都市社会学に源流をもつ地域社会学の基礎概念（１）シカゴ学派の都市研究
第７回：都市社会学に源流をもつ地域社会学の基礎概念（２）グローバル都市における地域問題
第８回：地域社会学と環境社会学の関連領域（１）受益圏と受苦圏
第９回：地域社会学と環境社会学の関連領域（２）環境運動と地域
第１０回：現代日本の地域問題（１）中山間地域を事例に
第１１回：現代日本の地域問題（２）地方都市を事例に
第１２回：現代日本の地域問題（３）大規模開発と地域社会
第１３回：教員が実施したフィールドワークから考える（１）中山間地域の調査から
第１４回：教員が実施したフィールドワークから考える（２）大都市近郊農村の調査から

第１５回：教員が実施したフィールドワークから考える（３）大規模開発の調査から 定期試験：実施しない
テキスト 『よくわかる地域社会学』山本努編著　ミネルヴァ書房　2022年
参考書・参考資料等 『都市の社会学：社会がかたちをあらわすとき』町村敬志・西澤晃彦　有斐閣　2000年 『講座社会学3 村落と地域』蓮見音彦　東京大学出版会　2007年 『社会学：新版』長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志　有斐閣　2019年 『地域社会学入門』山本努編著　学文社　2019年
学生に対する評価 レポート100%（中間30点、期末70点）

授業科目名：国際社会学	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：２単位	担当教員名：神田　浩史 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		

授業のテーマ及び到達目標

まずは世界の現状に対する理解を深めます。表層的な情報に踊らされるのではなく、背景を深掘りして理解するようにします。そうした上で、NGO・NPOなどが取り組む、課題解決方法を知り、具体的に自分自身がどのように活用できるかについて会得できるようにしていきます。

授業の概要

現代の世界は、国境を越えた相互依存と交流が増加している。この複雑な国際関係を理解し、分析する視点について学ぶのが「国際社会学」である。

本講義では、異なる文化や政治システムが国際的な文脈でどのように相互作用するかを理解し、国際問題に対する社会学的視点を獲得することを目的とする。具体的には、グローバル化の影響、貧困と飢餓の問題、民主主義と人権、国際組織とNGOの役割、国際紛争と平和構築、地球環境問題と持続可能性、文化的多様性と異文化間コミュニケーションなどのトピックを通して、国際的な課題に対する深い洞察と理解を学習する。

授業計画

第１回：オリエンテーション（授業の進め方・目標などの共有、自己紹介など）
第２回：世界の現状を知る
第３回：世界につながる私たちの暮らし　―モノ（紙）を通して考える①－
第４回：グループ・ワーク①　ここで学ぶ課題解決に向けての第一歩
第５回：世界につながる私たちの暮らし　―モノ（森林）を通して考える②－
第６回：世界につながる私たちの暮らし　―モノ（食べ物）を通して考える③－
第７回：世界につながる私たちの暮らし　―モノ（田畑）を通して考える④－
第８回：グループ・ワーク②　次の一歩を考える
第９回：世界につながる私たちの暮らし　―カネ（ODA）を通して考える①－
第１０回：世界につながる私たちの暮らし　―カネ（私たち自身のお金）を通して考える②－
第１１回：世界につながる私たちの暮らし　まとめ
第１２回：グループ・ワーク③　プロジェクトを可視化する
第１３回：グループ・ワーク④　グループ１の発表
第１４回：グループ・ワーク⑤　グループ２の発表
第１５回：授業のまとめとして
定期試験　実施しない

テキスト

教科書は使わず、講義ごとに資料を共有します。
参考書・参考資料等 ・万物の黎明　デビッド・グレーバー他著　光文社 ・資本主義の次に来る世界　ジェイソン・ヒッケル著　東洋経済新報社
学生に対する評価 課題　40%　コメント・ペーパー 成果発表　30%　グループ・ワークのプレゼンテーション

授業科目名：地域経済学	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：２単位	担当教員名：奥田　純子 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		

授業のテーマ及び到達目標

本講義では、地域経済学の基礎理論を学びながら、日本の人口減少社会における地域の持続可能性について検討する。地域の産業構造、人口動態、人の移動、雇用状況などに関する公的統計データを活用し、地域経済の実態を分析する力を養う。後半はグループワークを通じて、実際の地域データを用いた分析と政策提案に取り組む。

受講生は以下の能力を身につけることを目標とする。

（１）地域経済学の基礎理論を理解し、地域経済の問題を説明できる。

（２）公的統計データの読み解き方を習得し、地域経済の実態を把握できる。

（３）人の移動と雇用の観点から、地域経済の課題を客観的に分析できる。

（４）地域経済の持続可能性に関する議論を、データを用いて展開できる。

（５）グループワークを通じて、地域経済の分析と政策提案を行うことができる。

授業の概要

人の移動からみえる地域間格差や労働問題など、経済的な地域の諸問題について考えるのが「地域経済学」である。

本講義では、人口減少社会における地域の持続可能性をテーマとし、地域を経済学的に分析する方法を理解した上で、人の移動と雇用の観点から、客観的なデータを用いて、地域の実情を説明することができるようになることを目的とする。具体的には、まず、地域の産業構造、人口動態、地域間移動、就業状況などが把握できる公的統計データを用いて、地域の構造はどのように変化してきたのか、現状どうなっているのかを把握するスキルを身につける。その上で、より詳しく地域経済を分析するための経済学の理論と方法について学習する。

授業計画

第１回：イントロダクション（地域経済学とは）

第２回：地域の経済構造と産業特性

第３回：地域の人口動態と少子高齢化

第４回：地域間移動の理論と実態

第５回：地域の労働市場と雇用問題

第６回：都市と地方の格差問題

第７回： 地域政策と地方創生の取り組み

第８回： データを触ってみよう１（データ入手の方法、分析方法）

第９回：データを触ってみよう２（グラフの作成と考察）

第１０回：グループワーク１（テーマの選定とデータ収集）
第１１回：グループワーク２（データ分析と現状整理）
第１２回：グループワーク３（問題の深堀）
第１３回：グループワーク４（課題解決の方向性を議論）
第１４回：グループワーク５（提案の具体化と資料作成）
第１５回：全体報告会

テキスト
指定テキストはないが、授業進行の際は以下の書籍を参考にする。

参考書・参考資料等
山田浩之・徳岡一幸『地域経済学入門　第3版』有斐閣コンパクト、2018年
佐藤泰裕『都市・地域経済学への招待状［新版］』有斐閣ストゥディア、2023年
その他、各回で参考になる図書は授業中に適宜提示する。

学生に対する評価
課題（50%）：授業で扱った内容に関しての質問や考えをリアクションペーパーに書いたものや、課題への取り組みを評価する。リアクションペーパーに書かれたものに対するコメントは次回にフィードバックする。
レポート（30%）：グループで実施したデータ分析の結果を個人でレポートにまとめたものをルーブリックで評価する。
口頭発表（20%）：グループで取り組んだ分析結果と提案に関する報告をルーブリックで評価し、質疑応答への対応やプレゼンへの貢献度も評価する。

授業科目名：心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：遠藤　忠 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		

授業のテーマ及び到達目標

心理学の歴史と研究方法を概観し、主要な心理学理論について学習することが本授業のテーマである。本授業の到達目標は、心理学の諸理論について理解し知識体系化するとともに、適切に説明できることである。

具体的内容は、まず心の進化・発達、動機づけ、情動、性格、知能について、適応の観点から学修する。次に、精神機能（感覚、知覚、学習、言語、思考など）の基本的メカニズムを学習した上で、これらの諸機能がどのように発達するのか、また社会的状況（集団、対人場面など）が諸機能との相互作用において人間行動（例えば、意思決定など）にどのように影響するのか、さらにストレス状況における対処行動をはじめとする心身の健康増進の在り方等について学習する。

授業の概要

人間（及び動物）の精神機能（感覚・記憶・思考・知能・情動など）と種々の状況における人間行動（心理現象）のメカニズムや相互作用について、実験・調査・検査などの測定手法を用いて科学的に解明し理論を構築するとともに、これらの知見に基づき日常生活における諸々の人間行動の予測や制御、変容の在り方を実証的に考え、人間福祉の向上に寄与するのが「心理学」である。

本講義では、心理学の歴史と研究方法を概観し、主要な心理学理論について学習することを目的とする。具体的には、感覚・記憶・思考・知能・情動など精神機能の基本的メカニズムを学習した上で、これらの諸機能がどのように発達するのか、また社会的状況（集団、対人場面など）が諸機能との相互作用において人間行動（例えば、意思決定など）にどのように影響するのか、さらにストレス状況における対処行動をはじめとする心身の健康増進の在り方等について学習する。

授業計画

第１回： 心理学とは ・ 心の進化

第２回： 心の発達 ・ ライフサイクル

第３回： 動機づけと情動

第４回： 性格

第５回： 知能

第６回： 社会の中の人

第７回： 心と社会

第８回： 感覚 ・ 知覚 第９回： 記憶 第１０回： 学習 ・ 言語 第１１回： 思考 第１２回： 脳と心 第１３回： 脳損傷と心の働き 第１４回： ストレスとメンタルヘルス 第１５回： カウンセリングと心理療法 定期試験
テキスト 『はじめて出会う心理学 第3版』（2020）長谷川・東條・大島・丹野・廣中 著、有斐閣アルマ
参考書・参考資料等 『教養としての心理学講座』（2022）若林明雄 著、有斐閣 『教養としての心理学』（2020）加藤司 著、福村出版
学生に対する評価 各授業回の事前学習及び事後学習の課題レポート（30%）、定期試験（70%：正誤問題40%、論述問題30%）を実施する。

授業科目名： 近代日本の歩み	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：大庭 裕介 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史		

授業のテーマ及び到達目標

授業テーマ：日本近代政治史／日本近代政治思想史

到達目標は以下の通り

１．日本近現代史の基本的な流れと展開を、事実を踏まえて正確に理解できる。

２．歴史事実を知るだけでなく、歴史事実に対する自分の考えを的確に表現できる。

３．積極的に授業に臨み、歴史的意義を考える姿勢を示すことができる。

授業の概要

現在の日本の在り方と大きく関わる、19世紀中頃から20世紀中頃までの時期を対象として、どのような国内外の要因が近代日本の歩みを規定していたのか、政治外交、社会経済の状況に目を配りながら、多面的に理解するのが「近代日本の歩み」である。

本講義では、江戸幕府末期の幕藩体制の危機から、明治維新、富国強兵政策の展開、日清・日露戦争によるアジアへの勢力拡大、大正デモクラシーの特徴と限界、昭和恐慌以後の経済状況、満洲事変を契機とする軍国主義の台頭、日中戦争。太平洋戦争に至る戦争の拡大などについて理解する。そして、歴史的事象を一面的に理解せず、多様な視点から検証することを学習する。

授業計画

第１回：徳川覇権政治はなぜ終焉したのか

第２回：身分制の解体ーなぜ武士は近代に不要とされたのかー

第３回：なぜ明治時代に国会開設が論じられたのか

第４回：明治十四年政変で大隈重信はなぜ追放されたのか

第５回：太政官制はなぜ廃止され、内閣制度が創設されたのか

第６回：帝国議会はなぜ二院制なのか

第７回：第一次護憲運動の失敗ーなぜ世論は「善玉」と「悪玉」をつくるのか―

第８回： 第二次護憲運動の失敗ーなぜ護憲三派は解体したのかー

第９回： 女性はなぜ戦前の「普通」選挙から排除されたのか―「普選」から「婦選」へー

第１０回： 「劇場型政治」の登場―なぜ、人々は劇場に「踊らされるのか」―

第１１回：埋没する政党政治ー存在感のない政党ー

第１２回：人びとはなぜ戦争に熱狂したのかー想像力の欠如ー

第１３回：帝国憲法と日本国憲法の「連続」と「断絶」

第１４回：政治の季節から経済の季節へー人々はなぜ政治に関心を向けなくなったのかー

第１５回：授業のまとめ 定期試験
テキスト 特にありませんが、毎回の授業で資料を配布します。
参考書・参考資料等 授業の都度に参考文献を提示します。
学生に対する評価 試験（70点）＋ペアワークでの成果物（15回×2点）

授業科目名：日中関係史	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：２単位	担当教員名：塚瀬　進 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目　（高等学校　地理歴史）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国史		

授業のテーマ及び到達目標

１　古代から近代までの日中関係史について理解する。

２　中国の歴史におよぼした日本の影響を理解する。

３　歴史事実を知るだけでなく、歴史事実に対する自分の考えを表明できるようにする。

授業の概要

日本の歴史と中国の歴史とは密接な関係性を持っており、相互に影響を及ぼしながら現在に至っている。どのような歴史的関係を日本と中国は経てきたのか、その具体的な経緯について理解することが「日中関係史」である。

本講義では、古代から18世紀までの経緯については概略的な知識を学び、19世紀以降の日本と中国との関係について詳しく学ぶ。具体的には「世界の中心（中華）」であった中国人の世界観が、西欧勢力の拡大により変容していく経過、台頭した日本と中国との善隣関係はうまく構築できず、全面戦争に至り、1945年の敗戦を迎える経緯について学習する。

授業計画

第１回：古代から近世までの日中関係

朝貢について、中国を中心とした東アジア国際秩序について学ぶ

第２回：アヘン戦争と江戸幕府

東アジア国際秩序の変化、江戸幕府の対応について学ぶ。

第３回：明治政府と清朝の関係

大陸政策を推進する明治政府、中国の優位性が崩れていくことについて学ぶ。

第４回：日清戦争の原因と結果

日本の朝鮮政策、日清戦争の勃発原因と、戦争の影響について学ぶ。

第５回：義和団事変と日本の対応

義和団事件の発生、その影響について、義和団事件への日本の対応について学ぶ。

第６回：日露戦争の原因と結果

日本の大陸政策、日露戦争の原因と影響について学ぶ。

第７回：清朝の滅亡と日本

清朝の滅亡について、清朝滅亡に日本がどのようにかかわったのか学ぶ。

第８回：第一次世界大戦と日本

第一次世界大戦の様相、中国への影響、日本の対応について学ぶ。

第９回：五四運動と日本

五四運動の経過、日本との関係について学ぶ。

第１０回：北伐と日本

北伐の経過、北伐に日本がどのように干渉したのか学ぶ。

第１１回：満洲事変と日本

満洲事変勃発の原因、経過、日本がどのようにかかわったのかについて学ぶ。

第１２回：日中戦争に至る道

満洲国建国後の日中関係、華北をめぐる緊張関係のエスカレートについて学ぶ。

第１３回：日中戦争の勃発

盧溝橋事件、日本と中国が全面戦争へと進んでいったことについて学ぶ。

第１４回：日中戦争の展開

日本軍の中国侵攻の経過について学ぶ。

第１５回：太平洋戦争と中国

太平洋戦争の勃発が、中国との戦争にどのような影響を与えたのか学ぶ。

定期試験：実施しない

テキスト

田中仁編著『新・図説中国近現代史（改訂版）』法律文化社、2000

参考書・参考資料等

岩谷将『盧溝橋事件から日中戦争へ』東京大学出版会、2023

学生に対する評価

課題60%　レポート40%

授業科目名：地域環境論	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：２単位	担当教員名：高橋　一秋 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　地理歴史）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・人文地理学 ・自然地理学		

授業のテーマ及び到達目標

地域の自然環境への関心と理解を深める。

授業の概要

生態系が人間社会に提供する多様な生態系サービスが地域社会の維持や発展に役立っている現状を学び、生態系サービスの活用がもたらす課題や逆に生態系サービスが有効利用されていない課題、またそれらの対策について考えるのが「地域環境論」である。

本講義では、生態学的視点から主に長野県における里地里山の森林生態系及び河川・湖沼生態系の特徴と、それらの生態系が提供する生態系サービスの活用の歴史について紹介するとともに、生態系サービスの活用に関する現状と課題やその対策について理解を深めることが目的とする。具体的には、森林生態系及び河川・湖沼生態系が生み出す供給サービス、調整サービス、文化的サービス、基盤サービス（生息・生育地サービス）が活用・再生・保全されている地域の事例を学ぶ。また、生態系の維持に欠かすことができない人間も含む生物間相互作用への理解を深め、これらの生態系サービスの持続可能な利用を実現するために必要な生態系の再生と保全の在り方や手法について学習する。

授業計画

第１回：生態系サービス概論①：生態系の成り立ち、生物多様性と生態系サービスの関係
第２回：生態系サービス概論②：供給サービス・調整サービス・文化的サービス、リスクマネジメント
第３回：長野県の水環境１：河川を考える①：生態系の成り立ちと特徴
第４回：長野県の水環境２：河川を考える②：生態系サービス
第５回：長野県の水環境３：湖沼・ため池を考える①：生態系の成り立ちと特徴
第６回：長野県の水環境４：湖沼・ため池を考える②：生態系サービス
第７回：長野県の森林１：アカマツ林を考える①：生態系の成り立ちと特徴
第８回：長野県の森林２：アカマツ林を考える②：生態系サービス
第９回：長野県の森林３：広葉樹林を考える①：生態系の成り立ちと特徴
第１０回：長野県の森林４：広葉樹林を考える②：生態系サービス
第１１回：長野県の森林５：ツキノワグマを考える①：害獣としての側面
第１２回：長野県の森林６：ツキノワグマを考える②：益獣としての側面
第１３回：長野県の森林７：人工林を考える①：生態系の成り立ちと特徴

第１４回：長野県の森林８：人工林を考える②：生態系サービス 第１５回：長野県の森林９：草原を考える 定期試験
テキスト 特に指定しない
参考書・参考資料等 特に指定しない
学生に対する評価 ○小テスト(40%)：毎回課す小レポートにより、講義への取り組み姿勢等を評価する ○レポート(60%)：期末レポートを実施し、上記目標に関する到達度を基に評価を行う

授業科目名：環境教育論	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：２単位	担当教員名：高橋　一秋 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　地理歴史）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・人文地理学 ・自然地理学		

授業のテーマ及び到達目標

科学的なデータに基づく地球環境問題の現状や原因に関する知識を習得できる。

地球環境問題の解決に貢献しうる「環境教育」や「持続可能な開発のための教育（ESD）」のプログラムを考案し、それをパワーポイント資料や文章にまとめ、他者に伝えることができる。

授業の概要

環境問題を解決する人材を育成するための環境教育や持続可能な開発のための教育（ESD）について学び、それらの教育の意義と実践に向けての方法について考えるのが「環境教育論」である。

本講義では、代表的な環境問題の現状とそれを引き起こしている原因を理解するとともに、環境教育・ESDプログラムの体験や野外実習、グループワークを通して、環境問題の解決に役立つ具体的な対策や活動についての知識と技術を習得し、それを行動に移そうとする意欲や態度を身につけることを目的とする。具体的には、地球温暖化や森林伐採のようなグローバルな地球環境問題から、里山の荒廃や身近な生き物の減少のようなローカルな環境問題までを対象とし、科学的なデータを基づいて環境問題の現状や原因について考えることができる力を身につける。また、持続可能な開発目標（SGDs）の視点も踏まえつつ、環境問題を解決するために、なぜ環境教育やESDが重要なのかを考え、具体的な環境教育・ESDプログラムを提案できるスキルを学習する。エコツーリズムの推進につながる環境教育・ESDの在り方についても学習する。

授業計画

第１回：【ステップ1】　環境教育の目標

1-1 環境教育が目指すこと

第２回：1-2 ESD（持続可能な開発のための教育）とは

第３回：【ステップ2】　森林環境教育の目的と実践：「恵みの森」で身近な里山を考える

2-1 たねぷろじぇくと（被災地里山救済・地域性苗木生産・植栽プロジェクト）

～海岸防災林の再生～：　森・川・里クリ講座（選択講義）

第４回：2-2 たねぷろじぇくと（被災地里山救済・地域性苗木生産・植栽プロジェクト）

～海岸防災林の再生～：　野外実習（１）　森・川・里クリ講座（選択実習）

第５回：2-3 森林環境教育が目指すこと

第６回：2-4 タネを題材とした環境教育
　～タネの観察からみえる森林の世界～：　森・川・里クリ講座（選択講義）
第７回：2-5 タネを題材とした環境教育
　～タネの観察からみえる森林の世界～：　野外実習（２）　森・川・里クリ講座（選択実習）
第８回：2-6 木育
　～木材の良さやその利用の意義を学ぶ～：　森・川・里クリ講座（選択講義）
第９回：2-7 木育
　～木材の良さやその利用の意義を学ぶ～：　野外実習（３）　森・川・里クリ講座（選択実習）
第１０回：2-8 森林のCO2吸収量簡易測定：　野外実習（４）　森・川・里クリ講座（選択実習）
第１１回：【ステップ3】　環境教育（ESD）プログラムの作成
　　4-1 環境教育（ESD）プログラムの作成・実施・評価～たねぷろじぇくとの事例～
第１２回：4-2 グループワーク（１）　プログラム作成
第１３回：4-3 グループワーク（２）　プログラム作成＆パワーポイント資料づくり
第１４回：4-4 発表会：メッセージカードの交換
第１５回：4-5 討論会：まとめ
定期試験

テキスト
　授業はパワーポイントによる講義を主体とし、必要に応じて配布資料を併用する。参考文献とウェブサイトは適宜紹介する。

参考書・参考資料等
　参考書は特に定めない。

学生に対する評価
〇課題(10%)：まとめレポートの課題を出す（2回）。課題の提出状況と内容を確認し、解答の正確性や提案の質を評価する。
〇レポート(30%)：学期末レポートの課題を出す（1回）。授業の目標、観点別目標で示した個々の目標の達成状況から総合的に評価する。
〇成果発表(40%)：グループで環境教育（ESD）プログラムを考え、提案としてパワーポイントにまとめ上げ、その内容をプレゼンする発表会を実施する（2回）。授業の目標、観点別目標にもとづいて定められた2つの視点から評価を行う。
　・ 内容の質：　10%・ 論旨の展開：　10%・ チームワーク：　5%・ プレゼン能力：　10%
　・ 熱意：　5%
〇その他(20%)：毎回の授業で小レポートの課題を出す（計15回）。小レポートの提出状況と内容をもとに、学ぶ意欲と思考の深さを確認し、授業への参加度を評価する。

授業科目名：線形代数学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：渡辺　毅 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		

授業のテーマ及び到達目標

基本的なベクトルの演算（内積、ベクトル積）を実行することができるようになること。基本的な行列の計算（行列式、逆行列、固有値、及び固有ベクトル）を実行することができるようになること。ベクトルの回転と投影の計算を実際にできるようになること（CGが行っている計算）。

授業の概要

多くの動画にコンピュータグラフィックス（CG）技術が用いられているが、CGを実現している計算においては、多数回のベクトルや行列の計算が行われている。しかしこの計算部分は便利なアプリやソフトとして整備されているため、映像制作者にも見えない。大学での学びにおいては、こうした見えない部分を見える化し理解できるようにしなければならない。そこで本講義では、理論の最も基礎的な部分と応用の最も先端的な部分を学び、当該学問の現代的な到達地点を鳥瞰的に理解できることを到達目標とする。具体的には、基本的な定理の数学的証明を理解するとともに、アプリやソフトによって不可視化されてしまっている線形代数学の数値計算法を学ぶ。

授業計画

第１回：ガイダンス／線形代数の様々な応用例の紹介
第２回：平面および空間のベクトル、直線と平面
第３回：平面の回転と行列、線型変換
第４回：行列式およびベクトル積
第５回：正則行列と一次方程式
第６回：行列式（置換と展開）
第７回：線形空間（集合と写像）
第８回：線形空間（基底と線型空間）
第９回：固有値と固有ベクトル（固有値と特性根）
第１０回：固有値と固有ベクトル（二次形式）
第１１回：固有値と固有ベクトル（直交変換）
第１２回：ジョルダン標準形
第１３回：群と体の基礎
第１４回：計算機による線形計算の取り扱い（逆行列、固有値、固有ベクトル）
第１５回：計算機による線形計算の取り扱い（正規直交系とフーリエ変換）

定期試験
テキスト 基礎数学I　線形代数入門
参考書・参考資料等 Pythonで学ぶ線形代数学
学生に対する評価 ・定期試験(60%)：持込や検索、生成ＡＩの使用を可とする。紙の問題用紙にペンで手書きで回答して提出する。 ・課題(40%)：毎回講義中課題の提出を求める。

授業科目名： 線形代数学概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：鷲山　将規 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		

授業のテーマ及び到達目標

行列に関する基本的な性質や計算方法を理解する。

線型空間に関する基本的な概念を理解する。

授業の概要

代数学の一分野で特にベクトルと行列を扱う学問が「線形代数学概論」である。「線形代数学概論」では、ベクトルと行列の定義から講義を始め、ベクトルと行列の演算、ベクトル空間、行列式、行列の固有値・固有ベクトルまでを扱う。なお、高校までのベクトル（数学BあるいはC）の知識は必要としない。

本講義は、ベクトルと行列に関する基本的な性質を理解し、その計算方法を習得するとともに、線形代数のデータサイエンスへの応用例を学ぶことを目的とする。具体的には、ベクトル空間内の任意のベクトルを直交した成分に分解することが特定の情報を重視するあるいは削除することが可能となること、また、行列の対角化がデータ分析の際にどのような貢献をしているかなどについて学ぶ。

授業計画

第１回：イントロダクション

第２回：ベクトル

第３回：行列

第４回：行列と連立１次方程式

第５回：行列式

第６回：グループワーク

第７回：発表

第８回：線形空間

第９回：線形写像

第１０回：固有値と固有ベクトル

第１１回：対角化

第１２回：グループワーク

第１３回：発表

第１４回：線形代数の他分野への応用例

第１５回：まとめ

定期試験

テキスト 入門線形代数　三宅敏恒著　培風館
参考書・参考資料等 特記事項なし
学生に対する評価 課題　50%全5回（を予定）の課題の素点（計50点）から評価する。 レポート 50%　数学に関するお題に対して、自身の考えを記述できているかどうかなど総合的に判断する（50点）。

授業科目名：離散数学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：早見　崚 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・幾何学		

授業のテーマ及び到達目標

(1)集合論・グラフ理論・暗号理論についてその基礎となる数理構造を数学的に理解する。

(2)実際に手や計算機を用いて(1)の単元の基本的な計算をする技能を身に着ける。

(3)(1)の分野が工学や情報科学においてどのように用いられているのかを、論理設計・ネットワークフロー・RSA暗号などの例について説明できるようにする。

授業の概要

離散数学とは、連続でなく離散的な、抽象的な表現を用いれば数同士が飛び飛びで離れている数を扱う数学である。コンピュータで扱うには便利な数であり、様々な分野に適用されている。特に膨大な計算量を要するコンピュータとの親和性は深い。カーナビや経路探索は離散数学分野のグラフ理論を応用したものであり、他に最適化問題、プログラミング（アルゴリズム）、整数論を応用した暗号理論などもある。本講義の到達目標は、これらを包括的に理解することである。具体的には、基数の変換手法や集合と命題の考え方、論理演算をなどを学び、コンピュータで扱う数値表現を習得し、応用する。本講義は、知能、デザイン、環境を学ぶ学生向けに離散的な数の扱い方を理解できるように計画されている。具体的には、集合論やグラフ理論、暗号理論について入門的に学習する。

授業計画

第１回：集合と論理(1)　集合・命題・述語

第２回：集合と論理(2)　多変数の述語と論証

第３回：集合と論理(3)　写像と二項関係

第４回：集合と論理(4)　集合の濃度・数学的帰納法

第５回：集合と論理(5)　論理回路・ブール代数など

第６回：グラフ理論(1)　グラフの定義・例・連結グラフ

第７回：グラフ理論(2)　木の性質

第８回：グラフ理論(3)　平面グラフ・オイラーの公式

第９回：グラフ理論(4)　グラフの彩色・有向グラフ

第１０回：グラフ理論(5)　グラフのマッチング・ネットワークフロー

第１１回：暗号理論(1)　暗号の考え方・約数・倍数

第１２回：暗号理論(2)　素数・Euclidの互除法

第１３回：暗号理論(3)　不定方程式・合同式

第１４回：暗号理論(4)　オイラー関数・フェルマーの小定理

第１５回：暗号理論(5)　RSA暗号の仕組み 定期試験
テキスト 特記事項なし
参考書・参考資料等 ・論理と集合から始める数学の基礎 ・グラフ理論入門 ・基礎から学ぶ整数論-RSA暗号入門-
学生に対する評価 ・定期試験(55%)：期末試験 ・レポート(45%)：各単元の最終回にレポート課題を出す。3×15

授業科目名： 動的システム論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：車谷　浩一 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　数学）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・幾何学

授業のテーマ及び到達目標

（１） 微分方程式の初等解法について理解する。

（２） 定数係数の２階線形微分方程式について理解する。

（３） 変数係数の２階線形微分方程式について理解する。

（４） 連立１階方程式と高階微分方程式について理解する。

（５） 物体の運動と相空間、力学系について理解する。

（６） 自励系の解軌道、カオス、アトラクター、リアプノフ指数について理解する。

授業の概要

伝統的な理工学のみならず現代の人工知能の主要技術である深層学習においても基盤となる、時間とともに変化するシステム（動的システム）を数理的にモデル化し、その未来・過去の挙動・動作を推定する数理モデルである非線形微分方程式系について俯瞰する。非線形微分方程式系はその本質において、1）数理的構造を特徴付ける特異点の特徴の厳密な数学的理解に加え、2）コンピュータを用いた数値解析の結果得られる相図（相変化の幾何学的描写）の理解が本質である。本講義では具体的なシステムを複数取りあげ、その大域的構造についての理解を深める。その過程で、系の時間変化の初期値依存性に関する理解を深め、リアプノフ指数の導入と時系列変化の不安定性について理解する。本講義により、未知のシステムの解析に取り組むための基礎知識を得ることを目標とする。

授業計画

第１回：微積分の予備知識、微分方程式の例

第２回：微分方程式の解

第３回：１階微分方程式の初等解法Ⅰ　変数分離

第４回：１階微分方程式の初等解法Ⅱ　求積法

第５回：定係数２階線形微分方程式Ⅰ　同次方程式

第６回：定係数２階線形微分方程式Ⅱ　非同次方程式

第７回：１階連立微分方程式Ⅰ　連立線形微分方程式

第８回：１階連立微分方程式Ⅱ　同次方程式

第９回：１階連立微分方程式Ⅲ　非同次方程式

第１０回： 変係数の線形微分方程式Ⅰ　一般解

第１１回：変係数の線形微分方程式Ⅱ　級数解

第１２回：物体の運動と相空間、力学系 第１３回：微分方程式と力学系 第１４回：自励系の解軌道、カオス、アトラクター、リアプノフ指数 第１５回：カオス 定期試験
テキスト 常微分方程式
参考書・参考資料等 ・常微分方程式 ・非線形力学とカオス ・図解カオス入門 準備編 ・図解カオス入門 展開編
学生に対する評価 定期試験(100%)：【知識理解の観点】【思考･判断の観点】

授業科目名：パターン認識とメディア処理	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：２単位	担当教員名：矢島　正男 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　数学）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・幾何学		

授業のテーマ及び到達目標

・音声、画像、テキストなどの異なるメディアの特徴を理解し、それぞれの処理手順や方法を説明できる。

・パターン認識における基本的手法を理解し、それぞれの理論的背景を説明できる。

・画像認識に用いる前処理や特徴抽出技術を習得し、目的に応じた情報を抽出する方法を実践的に身につけることができる。

・生産ラインなどで利用される画像検査装置の具体例から産業応用について理解し、その活用方法を説明できる。

授業の概要

音声・画像・テキストなどのメディア処理についてそれぞれの特徴を概説し、そこで用いられるパターン処理の基本的手法（幾何的手法、統計的手法、学習アルゴリズム、時系列パターン認識など）を学習する。また、代表的な応用例として画像認識を取り上げ、画像の前処理や特徴抽出技術を学び、画像から目的に応じた様々な情報を抽出する方法について理解する。さらに、生産ラインで利用される画像検査装置の具体例を紹介し、実際の応用について理解を深める。本講義の到達目標は、音声、画像、テキストなど異なるメディアの特徴や基本的なパターン認識手法、と画像の前処理や特徴抽出技術を理解し、課題解決に向けた基本的なメディア処理ができるようになることである。

授業計画

第１回：ガイダンス（ 学びの目的と講義概説）
　　各種メディアにおけるパターン認識１（音声，テキスト処理など）

第２回：各種メディアにおけるパターン認識２（画像処理とその特徴）

第３回：人間の視覚機能と画像処理　画像の表現とディジタル化

第４回：画像処理システムの構成

第５回：画像情報処理１（画像のフーリエ変換/標本化定理）

第６回：画像情報処理２（フィルタ処理/画像データの圧縮）

第７回：グレイスケール画像の処理

第８回：二値画像の処理

第９回：領域分割技術

第１０回：特徴抽出/パターン検出

第１１回：画像認識 第１２回：機械学習１（ニューラルネットワークと深層学習） 第１３回：機械学習２（畳み込みニューラルネットワークとモデル） 第１４回：画像処理の産業応用（産業応用：組立て工程や検査工程） 第１５回：まとめとレポート課題 定期試験
テキスト 画像処理と画像認識― AI時代の画像処理入門 ―
参考書・参考資料等 ・はじめての画像処理技術 ・コンピュータ画像処理（改訂2版）
学生に対する評価 ・定期試験(50%)：設問に対する正答の得点で評価する ・小テスト(20%)：1～14回の演習課題に対する得点を各々1/14の割合で評価する ・レポート(30%)：15回目の設問に対する得点で評価する

授業科目名：微分積分学	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：２単位	担当教員名：三石　貴志 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　数学）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・解析学		

授業のテーマ及び到達目標

　微分積分学の理論を理解し，数学的な理論展開手法を身に着け，工学的・社会科学的な応用事例を学び，適用を実践できる。

授業の概要

　微分積分学は線形代数学と並んで、全ての専門科目を理解するために必要不可欠な知識・理論である。理学・工学における自然現象や物理現象、社会科学における変化や事象は数式表現され、それらを解析するためには微分や積分が用いられる。本講義の到達目標は、知能、デザイン、環境を学ぶ学生が数学的な定式化及びその解析ができるようになることである。本講義では、テイラー展開の理解に向けた関連の内容や微分方程式に関する内容を学習する。具体的には、実数の性質、函数の連続性、初等函数、微分法、積分法を学ぶ。

授業計画

第１回：本講義の授業内容，受講方法の説明
第２回：第I章　実数と連続（実数，実数の極限）
第３回：第I章　実数と連続（実数の連続性，級数）
第４回：第I章　実数と連続（極限と連続，コンパクト集合，中間値の定理）
第５回：第II章　微分法（実変数関数の微分法）
第６回：第II章　微分法（偏微分）
第７回：第II章　微分法（多変数実数値函数の微分法）
第８回：第II章　微分法（テイラーの定理）
第９回：第III章　初等函数（複素変数函数の微分法）
第１０回：第III章　初等函数（整級数）
第１１回：第III章　初等函数（初等函数）
第１２回：第IV章　積分法（積分の意味）
第１３回：第IV章　積分法（連続函数の可積分性）
第１４回：第IV章　積分法（不定積分の計算）
第１５回：まとめ
定期試験

テキスト

解析入門Ｉ

参考書・参考資料等

微分積分学概説: 大学課程
学生に対する評価 ・定期試験(60%) ・小テスト(20%):講義内でクリッカーを使用する場合があります ・課題(10%):講義内で課題を課す回があります ・レポート(10%):レポート提出を課す回があります

授業科目名： 微分積分学概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：鷲山　将規 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・解析学		

授業のテーマ及び到達目標

微分積分の基本的な考え方や計算方法を理解する。

授業の概要

微分は、関数の増減の傾向を示す指標であり、最大値や最小値を調べる際に重要な計算法である。一方、積分は、関数が表す領域の面積、関数の累積量、確率の計算等に使われる重要な計算法である。これらを学ぶ学問が「微分積分学概論」である。

「微分積分学概論」では、関数に関する様々な性質から講義を始め、関数の極限、微分とその応用、積分とその応用、広義積分までを扱う。なお、高校までの微分法・積分法（数学Ⅲ）の知識は必要としない。

本講義は、１変数の微分と積分に関する基本的な考え方を理解し、その計算方法を習得するとともに、微分積分の経済学や統計学への応用例を学ぶことを目的とする。具体的には、総費用関数が与えられたとき製品１個あたりの作成費用の最小値を求めること、また、連続型確率密度関数が与えられたとき期待値を求めることを学ぶ。

授業計画

第１回：イントロダクション
第２回：複素数
第３回：指数関数
第４回：対数関数
第５回：三角関数
第６回：グループワーク
第７回：発表
第８回：微分
第９回：積分
第１０回：微分方程式
第１１回：グループワーク
第１２回：発表
第１３回：微積分の他分野への応用例（物理学への応用）
第１４回：微積分の他分野への応用例（統計学や経済学への応用）
第１５回：まとめ
定期試験

テキスト 初学　微分と積分　熊原啓作　押川元重　共著　日本評論社
参考書・参考資料等 特記事項なし
学生に対する評価 課題　 50% 全5回（を予定）の課題の素点（計50点）から評価する。 レポート 50% 数学に関するお題などに対して、自身の考えを記述できているかなどから総合的に評価する（50点）。

授業科目名：応用数学	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：２単位	担当教員名：早見　崚 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　数学）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・解析学		

授業のテーマ及び到達目標

(1)該当分野の計算を正確に行う技能を身に着ける。

(2)実際の問題について、(1)で身に着けた技能を必要に応じて適用できるようにする。

授業の概要

工学・情報学はもとより、現在は従来では数学と程遠い分野と考えられていた社会科学や芸術学に至っても計算機は当たり前に使用されている。定式化された事象や、現象の数値データの分析や処理は、計算機によって数学の理論や考え方ありきでなされている。ここで用いられている数学が応用数学である。ある決まった数学の1つの分野でなく、計算機科学、物理学、機械工学、人工知能（機械学習、深層学習）など応用・適用の分野に応じた数学理論の習得が到達目標である。本講義は、知能、環境、デザインを学ぶ上で必要となる数学の手法を身につけられるように計画されている。具体的には、複素関数論、ベクトル解析、ラプラス変換、フーリエ級数、最適化法、確率的手法について学習する。

授業計画

第１回：複素関数論(1) 複素数・複素関数

第２回：複素関数論(2)　複素関数の微分積分

第３回：複素関数論(3)　留数解析とその応用

第４回：ベクトル解析(1)　ベクトルに関する微分演算

第５回：ベクトル解析(2)　ベクトル場における積分

第６回：ベクトル解析(3)　空間における座標系と微分積分

第７回：ラプラス変換(1)　定義及びその性質

第８回：ラプラス変換(2)　常微分方程式への応用

第９回：フーリエ級数(1)　級数の表示と三角関数との関係

第１０回：フーリエ級数(2)　フーリエ変換の定義とその性質

第１１回：フーリエ級数(3)　熱方程式などへの応用

第１２回：最適化法(1)　最適化問題の定式化と基本的な解法

第１３回：最適化法(2)　線形計画法

第１４回：確率的手法(1)　確率の基礎・確率的手法の考え方

第１５回：確率的手法(2)　最適化問題への応用

定期試験

テキスト

参考書・参考資料等 ・応用解析概論 ・わかりやすい数理計画法 ・離散数学　グラフ・束・デザイン・離散確率
学生に対する評価 ・定期試験(55%)：期末試験 ・レポート(45%)：各回に簡単なレポート課題を出す。3×15

授業科目名： 確率統計基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：早見　崚 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「確率論、統計学」		

授業のテーマ及び到達目標

(1)統計的なデータをまとめる技能や、データの傾向を見るための代表値を計算する手法を身に着ける。

(2)より高度な統計学習を見据えて、重要な確率分布の性質や推定・検定などの考え方を理解する。

授業の概要

「データは語る」ということがしばしばいわれる。それはデータを科学的に調べると、社会で起きている様々な現象の特徴を知ることができると いう意味である。社会で何が起こっているかを調査、観察、実験を通して研究することを実証的に研究するという。この実証研究において情報を確かに捉えるためのいろいろな方法を提供する学問が「確率統計基礎」である。本講義では、「確率統計」を学ぶ上での基礎知識習得を目的とする。具体的には、統計データとそのまとめ方について、1 変数と 2 変数について学習する。2 変数については相関関係など、後の重回帰分析の理解につながる考え方を習得する。重回帰分析は機械学習の一つの手法として学ぶ価値は高い。正規分布、二項分布など基礎的な確率分布の理解を通して推定や検定の概念について知識を得る。また確率計算と統計量とを互いに関連付けながら確率分布について学習する。

授業計画

第１回：データの基礎知識・標本調査の考え方など
第２回：1 変数・2 変数の統計グラフ
第３回：データの集計・時系列データ
第４回：統計データの代表値・散らばりの尺度
第５回：2 変数の統計データの相関・回帰
第６回：場合の数と組み合わせ・確率と標本
第７回：条件つき確率・ベイズの定理など
第８回：確率変数と確率分布
第９回：離散確率分布とその具体例
第１０回：連続確率分布とその具体例
第１１回：2 変数確率分布
第１２回：推定の考え方(1) -標本分布の基礎概念と点推定-
第１３回：推定の考え方(2) -母平均や母比率の区間推定-
第１４回：仮説検定の考え方(1)-帰無仮説と対立仮説、p 値と有意水準-
第１５回：仮説検定の考え方(2)-母平均・母比率の仮説検定-
定期試験

テキスト

特記事項なし

参考書・参考資料等 ・完全独習統計学入門 ・改訂版日本統計学会公式認定 統計検定 3 級対応 データの分析 ・基礎から学ぶ統計学
学生に対する評価 ・定期試験(55%)：期末試験 ・レポート(45%)：各回に簡単なレポート課題を出す。3×15

授業科目名：確率統計	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：２単位	担当教員名：早見　崚 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　数学）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「確率論、統計学」		

授業のテーマ及び到達目標

(1)大学初等レベルの数学に基づいて、統計の基本的な原理を理解する。

(2)(1)の内容に従った統計的処理について、表計算ソフトなどを用いて計算できるようにする。

授業の概要

「データは語る」ということばは、データを科学的に調べると、社会で起きている様々な現象の特徴を知ることができるという意味である。社会で何が起こっているかを調査、観察、実験を通して研究することを実証的研究という。統計学はデータが語っていることを的確に捉えるための方法を提供しており、実証研究にとって欠くことのできない分野である。本講義の到達目標は、Microsoft Excelに代表される表計算ソフトを用いて相関関係などの統計的処理ができることである。本講義は、知能、デザイン、 環境を学ぶ学生がデータサイエンスを学習するために計画されている。具体的には、統計データのまとめ方、分布、推定・検定などを学ぶ。

授業計画

第１回：標本空間・確率空間・確率分布などの復習

第２回：離散確率分布

第３回：連続確率分布

第４回：確率変数の変換、統計上重要な確率分布

第５回：標本平均の性質・大数の法則

第６回：中心極限定理とその周辺

第７回：推定の考え方・点推定・不偏性など

第８回：仮説検定の考え方・母平均の仮説検定

第９回：区間推定

第１０回：2標本問題

第１１回：カイ2乗検定

第１２回：回帰分析

第１３回：演習:データのまとめ方

第１４回：演習:推定・検定

第１５回：演習:回帰分析

定期試験

テキスト 特記事項なし
参考書・参考資料等 ・統計学 ・現代数理統計学の基礎 ・Excelでやさしく学ぶ統計解析
学生に対する評価 ・定期試験(50%)：期末試験 ・レポート(50%)：計算機を用いた期末レポート

授業科目名：計画数学	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：２単位	担当教員名：三石　貴志 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　数学）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「確率論・統計学」		

授業のテーマ及び到達目標

計画に必要となる数学的な理論展開を学習し，工学的・社会科学的な応用事例を学び，実例に適用可能な数的処理能力を身に着けることができる。

授業の概要

計算機による情報処理能力の飛躍的な向上を背景に、社会科学・経済学・工学分野における様々な計画が数理モデルとして定式化・形式化され、それらの構造に対して数学的手法により解析がなされ、コンピュータ処理へとフィードバックされる。このように様々な計画に数学を適用して問題を解決する学問は総称して計画数学と呼ばれる。本講義の到達目標は、数学を適用した計画の定式化と解決である。本講義は、知能、デザイン、環境を学ぶ学生向けに数的処理などを学び、数理計画問題などを理解しながら目標到達に向けて計画されている。具体的には統計的手法や数理計画問題（最適化問題）の線形計画問題を学習する。

授業計画

第１回：本講義の授業内容，受講方法の説明
第２回：計画数学を学ぶ基礎知識
第３回：計画に使う基礎知識
第４回：統計
第５回：確率
第６回：確率・統計手法
第７回：回帰分析
第８回：データ解析
第９回：数理計画法とは
第１０回：線形計画問題の定式化と図解
第１１回：シンプレックス法
第１２回：シンプレックスタブロー
第１３回：シンプレックス法による解法
第１４回：そのほかの計画法
第１５回：まとめ
定期試験

テキスト

すぐわかる計画数学

参考書・参考資料等 例題と演習で学ぶ経営数学入門
学生に対する評価 ・定期試験(60%) ・小テスト(20%):講義内でクリッカーを使用する場合があります ・課題(10%):講義内で課題を課す回があります ・レポート(10%):レポート提出を課す回があります

授業科目名： コンピュータ数学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：三石　貴志 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （高等学校　数学・高等学校　情報）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ　（高等学校　数学） ・コンピュータ・情報処理　（高等学校　情報）

授業のテーマ及び到達目標

数学の理論のコンピュータに表現，数値計算，展開を身に着け，工学的・社会科学的な応用事例を学び，適用を実践できる。

授業の概要

効率のよいプログラムを書くためのアルゴリズムの解析や設計、暗号理論のための代数学など、数学の学問分野のなかでコンピュータを理解するうえで直接的に用いられる数学が「コンピュータ数学」である。

本講義では、コンピュータを用いて学習・研究を行っていくうえで必要最低限の数学的な基礎知識の習得を目的とする。具体的には、Microsoft Excelに代表される表計算ソフトや簡単なプログラミングなどを通して、これまでに学んだ数学を違った視点から理解する。高校までの数学の学習で膨大な数の計算をしてきているにもかかわらず、電卓を使う機会はあるものの、コンピュータを使って計算結果や解を導き出すことはほとんどない。したがって、基礎的な解析学をグラフ描画機能やゴールシークで実際に数値例を見たり、Σ記号、統計量など表計算ソフトの特性を生かしながら統計の基礎を理解したり、行列計算なども学習する。

授業計画

第１回：本講義の授業内容，受講方法の説明
第２回：基本統計量と表計算ソフト
第３回：Σ記号による演算の意味
第４回：行列，掃き出し法，連立一次方程式の解法
第５回：ゴールシークを使った金利計算など
第６回：損益分岐点，優劣分岐点
第７回：ローレンツ曲線，ジニ係数
第８回：三角関数とVBA（上）
第９回：三角関数とVBA（下）
第１０回：Python準備
第１１回：完全数の計算
第１２回：素数の列挙

第１３回：三角関数の図解 第１４回：三角関数の応用 第１５回：まとめ 定期試験
テキスト 特定のテキストは使用しない。毎回講義内容は資料として配布する。
参考書・参考資料等 ・Excelで遊ぶ手作り数学シミュレーション―グラフ機能とVBAプログラムを自在に操る ・Pythonではじめる数学の冒険 ・新・明解Pythonで学ぶアルゴリズムとデータ構造
学生に対する評価 ・定期試験(60%) ・小テスト(20%)：講義内でクリッカーを使用する場合があります ・課題(10%)：講義内で課題を課す回があります ・レポート(10%)：レポート提出を課す回があります

授業科目名： プログラミング基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 田中　法博、望月　宏祐 担当形態：複数・クラス分け

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （高等学校　数学・高等学校　情報）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ　（高等学校　数学） ・コンピュータ・情報処理　（高等学校　情報）

授業のテーマ及び到達目標

(1)プログラミングで用いられる各種の用語を誤りなく使用することができる。

(2)プログラミングで現れる概念の厳密な定義を会得することができる。

(3)基本的なプログラムを自分で設計し、作成することができる。

授業の概要

現代の高度化している社会において論理的に課題解決ができる能力が求められている。これはITエンジニアとしてだけではなく、多様な分野で論理的な思考力を高めるためにプログラミング能力が求められており、その課題解決のためのプログラミングを通して論理的思考力を学ぶのが「プログラミング基礎」である。

本講義では、プログラムがどのように扱われ、どのように動作しているのかを学び、課題を設定し、それを解決できる基本的なプログラムを設計するための考え方を身につけることを目的とする。具体的には、プログラム言語の文法だけでなく、アルゴリズムの設計方法を学び、自身で論理思考に基づいてプログラムを記述し、論理的な矛盾がなく効率の良いプログラムの設計方法を学ぶ。特にAIが台頭してきた社会においても適用できる最先端のプログラミングスキルを習得する。

授業計画

第１回：授業の目的、進め方、評価方法、Python 環境の準備

第２回：Python 基本構文：変数、データ型、演算子、コメントの書き方

第３回：入出力と文字列操作：input()・print()、文字列の扱い方

第４回：条件分岐（if文）：条件式とブロック構造、真偽値の扱い

第５回：繰り返し構文（for文）：range()を含む繰り返し処理とリストの基礎

第６回：繰り返し構文（while文）：break/continue とあわせたループ制御

第７回：リストとタプル：要素の操作、スライス、リスト内包表記の基礎

第８回：辞書と集合：キーと値の管理、集合演算、反復処理との組み合わせ

第９回：関数の定義と呼び出し：スコープ、引数、戻り値、ドキュメンテーション

第１０回：モジュールと標準ライブラリ：import 文、主要ライブラリの紹介・活用

第１１回：ファイル操作：ファイルの読み書き、テキスト処理の実践

第１２回：エラー処理と例外：try/except構文、例外オブジェクトの活用 第１３回：オブジェクト指向プログラミング入門：クラス、インスタンス、メソッド 第１４回：応用演習：小規模アプリケーションやミニプロジェクトの作成、可能ならAIに関するプログラミングまで行う 第１５回：総合演習
テキスト 配布資料を用意する。
参考書・参考資料等 『スッキリわかるPython入門 第2版』国本 大悟，須藤 秋良 インプレス 2023
学生に対する評価 課題　50%　各回の授業で適宜演習課題を課す レポート 40% プログラムの演習結果を含む期末レポートを課す その他 10%　授業への参加度（演習等への取り組み姿勢）

授業科目名： 人工知能概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：車谷　浩一 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （高等学校　数学・情報）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ　（高等学校　数学） ・コンピュータ・情報処理　（高等学校　情報）

授業のテーマ及び到達目標

（１） 人工知能の歴史について理解すること。

（２） プログラミング言語 LISP, Prolog, Python について理解すること。

（３） 機械学習のアルゴリズム（特にサポートベクターマシン）について理解すること。

（４） 知識表現とエキスパートシステムについて理解すること。

（５） 深層学習の各種モデル（畳み込みニューラルネットワーク、再帰的ニューラルネットワーク、LSTM、敵対的生成ネットワーク（GAN））について理解すること。

授業の概要

本講義は、人工知能の全体像をその歴史的経緯を踏まえ概観し、多様な応用分野において人工知能の各種アルゴリズムを利活用するための基礎となる知識を得ることを到達目標とする。人工知能は、1）論理的推論 2）パタン的側面と大きく二分することが可能であるが、これは人の知能の2側面をモデル化したものであり、相補的なものと理解できる。論理的推論として、機械的探索から自動推論、その応用としての自然言語処理・物理システムの理解までを俯瞰する。また、パタン的側面として、パタン認識ならびに機械学習アルゴリズムを概観し、それが現代の深層学習によって一般化されることを理解する。本講義では「人工知能」の技術分野の全体像を理解し、応用分野において適切な技術を選択できるようになることを目標とする。

授業計画

第１回：人工知能の概要、人工知能の諸領域

第２回：人工知能の産業応用、人工知能の定義

第３回：人工知能の歴史Ⅰ　始まりからエキスパートシステムへ

第４回：人工知能の歴史Ⅱ　パーセプトロン、ニューラルネット

第５回：人工知能の歴史Ⅲ　深層学習の出現

第６回：関連技術、プログラミング言語 LISP, Prolog, Python

第７回：機械学習Ⅰ　定義と方法

第８回：機械学習Ⅱ　決定木からサポートベクターマシンへ

第９回：知識表現と推論Ⅰ　知識表現とは？

第１０回：知識表現と推論Ⅱ　エキスパートシステム

第１１回：ニューラルネットワークＩ 第１２回：深層学習Ｉ　畳み込みニューラルネットワーク 第１３回：深層学習Ⅱ　再帰的ニューラルネットワーク 第１４回：深層学習Ⅲ　LSTM 第１５回：深層学習Ⅳ　敵対的生成ネットワーク（GAN） 定期試験
テキスト 基礎から学ぶ 人工知能の教科書
参考書・参考資料等 特記事項なし
学生に対する評価 レポート(100%)：【知識理解の観点】【思考･判断の観点】【技能･表現の観点】

授業科目名： アルゴリズムとデータ構造	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：三石　貴志 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （高等学校　数学・情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ　（高等学校　数学） ・コンピュータ・情報処理　（高等学校　情報）		

授業のテーマ及び到達目標

アルゴリズムとは何かについて説明でき，プログラミング言語（Python）で記述されたアルゴリズムを読み理解できる。また，コンピュータによる具体的な問題解決方法を，適切なアルゴリズムとして表現できる。さらに，実際にコンピュータでそのアルゴリズムに基づいて処理を行わせるのに必要なプログラミングができる。

授業の概要

アルゴリズムは算法と翻訳されることもあるが、計算手法や計算手順とも言い換えられる。一般に問題を解決するための手順を定めたもので、形式的に表現されているものがほとんどである。本講義は、PCを使ったプログラムの作成を中心とする。到達目標は、いくつかの代表的なアルゴリズムを学び、実際にアルゴリズムを用いた問題解決のためのプログラムを記述できることである。本講義は、知能、デザイン、環境を学ぶ学生向けにプログラムにおけるアルゴリズムとデータの構造を学び、プログラム言語やその記述を理解しながら上記の目標到達に向けて計画されている。具体的にはpythonを使って様々な探索や並べ替え、再帰などのアルゴリズムを学習する。

授業計画

第１回：本講義の授業内容，受講方法の説明，アルゴリズムとデータ構造とは何か
第２回：基本的なアルゴリズム（変数，配列，繰り返し処理）
第３回：データ構造と配列
第４回：線形探索，クラス
第５回：2分探索
第６回：スタックとキュー
第７回：再帰的アルゴリズム1
第８回：再帰的アルゴリズム2
第９回：バブルソート
第１０回：単純選択ソート
第１１回：クイックソート
第１２回：マージソート

第１３回：文字探索 第１４回：二分探索木 第１５回：まとめ，学習した知識やスキルの確認 定期試験
テキスト 新・明解Pythonで学ぶアルゴリズムとデータ構造
参考書・参考資料等 特記事項なし
学生に対する評価 ・定期試験(30%)：筆記試験を実施し，理解度を点数化します。 ・小テスト(10%)：講義内でクリッカーを使用する場合があります。その回答の回数，内容などを評価して点数化します。 ・課題(30%)：毎回課題を課します。出来栄えを評価して点数化します。 ・レポート(30%)：授業の復習としてプログラミングのレポートを提出してもらいます。提出物の出来栄えを評価して点数化します。

授業科目名： ファジィ理論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：三石　貴志 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ		

授業のテーマ及び到達目標

　ファジィの概念を理解し，数学的な理論展開手法を身に着け，工学的・社会科学的な応用事例を学び，適用を実践できる。

授業の概要

　ファジィ理論は、人間の言語表現による「あいまいさ＝ファジネス」を定量的に扱うことのできる手法及びそれにまつわる理論展開である。人間は自身の判断などを時には本人の主観的な尺度に委ね、それらは往々にして「あいまいさ」を有する。本講義の到達目標は、あいまいさを数学を介して理解し、ファジィ推論法を用いて、意思決定、機械制御、医療診断、色彩決定、分析・判断に応用することである。本講義では、知能、デザイン、環境を学ぶ学生向けにファジィ集合の定義から推論の応用例までを学習する。具体的には、ファジィ集合の演算、ファジィ関係、ファジィ数、ファジィ推論、ファジィ計画法などを学ぶ。

授業計画

第１回：本講義の授業内容，受講方法の説明
第２回：ファジィ集合
第３回：ファジィ集合の演算
第４回：ファジィ関係
第５回：ファジィ関係の演算
第６回：ファジィ数
第７回：拡張原理
第８回：ファジィ命題
第９回：ファジィ推論
第１０回：ファジィ制御
第１１回：線形計画法
第１２回：ファジィ線形計画
第１３回：ファジィ理論の応用（意識調査）
第１４回：ファジィ理論の応用（美術評価）
第１５回：まとめ
定期試験

テキスト

ファジィ数学入門

参考書・参考資料等

・ファジィ理論の基礎と応用

・応用をめざす人のためのファジィ理論入門: ファジィ集合からファジィ制御まで

学生に対する評価

・定期試験(60%)

・小テスト(20%):講義内でクリッカーを使用する場合があります

・課題(10%):講義内で課題を課す回があります

・レポート(10%):レポート提出を課す回があります

授業科目名：数値計算法	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：２単位	担当教員名：渡辺　毅 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （高等学校　数学・情報）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ　（高等学校　数学） ・コンピュータ・情報処理　（高等学校　情報）		

授業のテーマ及び到達目標

モデル化による誤差と数値計算における丸め誤差を正確に理解し評価することができるようになること。関数の近似、逆行列の計算、微分方程式の数値解法、等の基本的な計算について、自ら数値計算コードを書いて実行することができるようになること。

授業の概要

現代社会の利便性の背後では、行列やベクトルの演算や微積分、確率の計算や統計的検定、様々な数値シミュレーションなど、多くの計算が実際に行われ、その結果が使われている。計算上特に留意すべき点は、数値誤差やバグにより、一見正しそうに見えて実際は全く誤ったシミュレーション結果が得られるこがある、ということである。このような誤りは見抜かなければならない。本講義の到達目標は、基本的な数値シミュレーション手法を知って基礎的な問題に実際適用できるようになることと、得られた結果の妥当性に対する基本的な妥当性の評価を実施することができるようになることである。具体的には、関数近似、数値積分、非線形方程式、微分方程式、連立一次方程式の解法などについて学ぶ。

授業計画

第１回：ガイダンス／環境構築（Julia、Python）
第２回：計算と誤差（誤差の種類と起源）
第３回：関数の近似（多項式補間、直交多項式補間）
第４回：関数の近似（離散フーリエ級数による補間）
第５回：数値積分（多項式補間、ガウス・ルジャンドル積分）
第６回：非線形方程式（2分法、差分法）
第７回：非線形方程式（ニュートン・ラフソン法）
第８回：線形計算（連立1次方程式、ガウスの消去法、LU分解）
第９回：線形計算（反復法、CG法、GMRes法）
第１０回：固有値計算
第１１回：常微分方程式（初期値問題、境界値問題）
第１２回：偏微分方程式（分類、放物型、双曲型、楕円形）
第１３回：偏微分方程式（差分法）
第１４回：偏微分方程式（スペクトル法）

第１５回：幾つかの実問題（流体、弾性体） 定期試験
テキスト 理工学のための数値計算法[第３版]
参考書・参考資料等 特記事項なし
学生に対する評価 ・定期試験(60%)：持込や検索、生成ＡＩの使用を可とする。出題した計算について時間内に実装し、結果を提出する。 ・課題(40%)：毎回講義中課題の提出を求める。

授業科目名： 数学科教育法A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：牛越　秀人 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

数学を技術の寄せ集めと考える数学観を改めたい。数学の教員を目指す者は、まず考える力をもち、考えることを楽しみ、数学が人間によって発展的に作られてきたという数学観を持ってほしい。その上に立って、考える力と態度をもった生徒を育てることのできる実践力をつけていくことが目標となる。同時に、数学の有用性を理解し、現実世界の問題に対して、モデリングや統計や関数など見方・考え方，ICTの積極的活用を通して、積極的に問題解決をしようとする生徒を育てられるようにすることも目標となる。

授業の概要

　数学科で育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

　「数学科教育法A」では、近年の中央教育審議会答申あるいは現行学習指導要領の内容を理解し、個別最適な学びを実現するための数学の授業論について学ぶ。その上で、中学校及び高等学校の数学科の授業の具体的な立案やICT機器の効果的な活用方法について演習形式で実践する。

授業計画

第１回：ガイダンス（授業を創ることの意味と課題．分数の割り算は、除数の逆数をかける計算に直しますがそれはなぜか．9の倍数の判定法（各位の数の和が9）から様々な倍数の判定法を考える．それを通して、授業を創ることの意味と課題について考える．数学から数学へ）

第２回：証明をよむとはどういうことか（連続した奇数の席に1を加えるとどんな数になるか．一つの頂点を共有する正三角形を移動してみよう）

第３回：なぜ数学を教えるのか（数学教育の目的と目標，John Perryの数学教育改良運動，学習指導要領の目標，数学的活動，数学的な見方考え方とは何か）

第４回：数の拡張はどのように行われてきたか（小数，分数，正負の数，平方根，複素数，ハミルトンと四元数，剰余系）

正負の数の概念形成におけるいろいろな工夫，図形イメージを大切にした平方根の指導

第５回：数と式の見方（文字式の有用性，公式を用いる良さ，数と式の系統，文字式による論証），方程式と不等式（数学的モデルを作る力，線形計画法，式をよみ，式の図的解釈）

第６回：現実世界の問題にチャレンジする（正方形から面積最大の正三角形を折るにはどうするか，ジオデシックドームをつくる．頭が3つ折り鶴を創るにはどうしたらいいか．）

第７回：図形教育の目的，図形の概念形成（小中高を通して図形の性質や相互の関係についての理解を深める．空間概念の育成．数学を創造発展させる数学的な考え方（帰納，演繹，類推）をできるようにする．三角形の合同条件の関係）
第８回：空間と図形（空間概念の把握のために必要なハツ段階とは．基礎知識立方体の切断を行った際、できる図形とできない図形，その理由．投影図，展開図）
第９回：図形と論証（ユークリッド言論．基本の作図について異なる方法を3つ以上考える．ギリシャの三大難問（角の三等分問題，円積問題，立方体陪席問題）
第１０回：関数の考えとは何か（小学校の教科書に見る関数の考え．「円上の点10個を直線で結ぶとき円の内部が最大いくつの面に分かれるのか」を関数の考えをもとに追求する．比例モデルを用いた追求）
第１１回：PPDACサイクルを生かした統計的探究（統計的探究とは何か．より滞空時間の長い紙コプターの羽の長さは何cmか．ルーラーキャッチを左右する要因は何か）
第１２回：個を生かす学習指導（オープンエンドアプローチ利用した指導）とICTの活用（GC，GeoGebraを用いて図形を動かし，数学的探究へ．画像解析ソフトImageJを用いて校舎の高さを求める）
第１３回：数学科の指導方法（問題解決学習，一斉学習，個別学習，グループ学習，発表討議のさせ方，多様な考えのまとめ方）
第１４回：学習指導案の見方，書き方（指導略案の基本的な書式，ねらいとは何か．学習活動とは何か．指導助言とは何か（〇〇することを通して△△ができるようにする）．評価を生かした指導とは
第１５回：授業実践から学ぶ（実際の中学校で実施されている数学授業をビデオで視聴し、よさと課題について検討する．授業研究の基本を学ぶ）

テキスト
文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説数学編』2018年
文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説数学編』2018年
ネット上で入手可能ですが，ともに冊子で購入することを薦める．

参考書・参考資料等
初等科数学教育学序説　東洋館出版　杉山吉茂　2008
中等科数学教育学序説　東洋館出版　杉山吉茂　2009
算数・数学教育と数学的な考え方　東京館出版　中島健三（復刻版）　1981

学生に対する評価
・毎回の授業内容を発展させたレポートの提出状況とその内容（60%）
・最終レポートの内容（40%）
（基本的内容（数学科における目標，指導内容，指導法，教材等）について理解しているか．数学的活動を通して、数学的に考える力を育む資質・能力を育てるための授業づくりのあり方について理解しているか）

授業科目名： 数学科教育法B	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：牛越　秀人 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

数学科教育法Aでの学修を基盤にして，中学生・高校生の実態に即した授業デザインとその実践に取り組み続けることのできる教科の授業実践者としての資質を高めることが主目的である。そのために，数学教育は，時代や子供の実態により変化し，画一的な指導方法では限界があることを理解した上で，教員個々の創造的な営み，教員同士による授業研究会やリフレクションを通して授業改善していくことに取り組む。実際に，学習指導案（単元計画も含む）作成，模擬授業と授業研究を繰り返しながら，新しい数学教育を創る一員としての自覚と意欲を醸成する。さらに，実際の教育現場の授業実践や研究会に参加し，教員の生徒の成長を願う熱い気持ちに触れながら，　生徒の気持ちに寄り添うことの大切さに気づく。

授業の概要

数学科で育成を目指す資質・能力を理解し，学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに，様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

「数学科教育法B」では，主体的・対話的で深い学びを実現するための具体的な授業展開を実際の授業を参観しながら学ぶとともに，探求的な学びを実現するための指導方略について演習形式で実践する。

授業計画

第１回：ガイダンス（授業記録「竿ばかりの秘密を探る」（一次関数）「見えない三角形を見っけ」（相似）を読み，生徒の問い，問の質の高まりとそれを受け止める教師の体について考える。さらにこれまでの学習経験から，どのような問いがあったのか振り返ってみる。）

第２回：中学校での授業参観と授業研究会への参加（授業参観をする上で必要な態度を身に付ける。さらに，授業後，生徒の追究の姿からよりよい指導について考える教員の姿勢に学ぶ。）

第３回：参観授業のビデオ分析（数学の指導における評価の役割及び指導と評価の一体化とその実際，教師の個に応じた細やかな配慮について）を行い，今後の授業展開について構想する。

第４回：高等学校数学科の「幾何」の内容（「図形と計量」，「図形と方程式」，「図形の性質」，「平面上の曲線と複素数平面」の数学的意味や価値,及び,学びを拓く授業のデザイン）

第５回：高等学校数学科の「解析」の内容（「二次関数」，「指数関数・対数関数」，「三角関数」，「微分・積分」の数学的意味や価値,及び,学びを拓く授業のデザイン

第６回：高等学校数学科の「確率・統計」の内容：「データの分析」，「場合の数と確率」，「統計的な推測」の中枢的概念・原理・法則とその数学的意味や価値,及び,学びを拓く授業のデザイン

第７回：共通テスト数学の問題分析を通し，高等学校数学科の「数学と人間の活動」，「数学と社会生活」，「数学的な表現の工夫」の数学的な意味や価値，および，学びを拓く授業のデザイン。ＩＣＴ，デジタル教科書と電子黒板の活用について。
第８回：数学科における「問題解決」とは何かについて考える。（相馬一彦「予想を取り入れた授業の改善」明治図書1996をよむ）
第９回：学習指導案の作成Ⅰ（各班で中学・高等学校の教科書から１単元を選択し，教材研究を行った上で，単元展開，１時間の展開案，板書計画をつくっていく。）
第：１０回：学習指導案の作成Ⅱ（各班での指導案と全体での検討。黒板や学習カード教具を用いた事前準備。）
第１１回：模擬授業と授業研究Ⅰ（教員経験者も参加して，学習指導案と15分間の模擬授業について授業研究。及びその結果に基づいて改善案の再提案）
第１２回：模擬授業と授業研究Ⅱ（教員経験者も参加して，学習指導案と15分間の模擬授業について授業研究。及びその結果に基づいて改善案の再提案）
第１３回：カリキュラムマネージメントの実際（カリキュラムマネージメントの実際例。福井大学附属中学校，信州大学付属松本中学校の実践例から。）
第１４回：リフレクションとは何か（信濃教育会教育研究所におけるリフレクションの実際。さらに「数学科教育法A・Bを通して学んだこと」というレポートを用意し，リフレクションを経験する。）
第１５回： これまでの重要事項を振り返り，最終レポートを作成する。

テキスト
文部科学省『高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）数学編理数編』学校図書 2019年
文部科学省『中学校学習指導要領解説（平成29年告示）数学編』 日本文教出版 2018年
ネット上で入手可能ですが，ともに冊子で購入することを薦める。

参考書・参考資料等
西村圭一・太田伸也 『中学校・高等学校数学科　授業力を育む教育実習』 東京学芸大学出版会 2018年
相馬一彦『予想を取り入れた授業の改善』明治図書　1995年

学生に対する評価
・毎回の授業内容を発展させたレポートの提出状況とその内容（40%）
・模擬授業指導案の内容と模擬授業の実際（20%）
・授業参観，授業研究，リフレクションへの参加姿勢（20%）
・最終レポートの内容（20%）
（数学教育の基本を踏まえた上で，授業実践力を高め，授業改善の仕方について理解しているか。教育現場の実践や仲間の学生から学び，成長しようとする姿勢があるか）

授業科目名： コンピュータシステム	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：関　暁之 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理

授業のテーマ及び到達目標

（１）コンピュータの機能の基本的な知識を習得する。

（２）コンピュータの機能を使ったシステム（オペレーティングシステム、ファイルシステム、データベース等）の技術を習得する。

（３）コンピュータの機能を使ったシステムの応用分野の知識や利用倫理を養う。

授業の概要

コンピュータを活用した情報システムの基本について学ぶ。コンピュータの内部機能と、その機能を活用した情報システムについて理解し、簡単な例題に対して応用できようになることが到達目標である。本講義は、情報技術分野の基本的な知識を得る「コンピュータサイエンス」から、情報システムを構築する「コンピュータシステム演習」につなげるための技能を学ぶ授業となる。具体的には、システムアーキテクチャ、ファイルシステム、プロセス管理、ユーザインターフェース、管理タスク、ネットワーク、ファイル共有、データベース、SQL、RDFなどについて学ぶ。

授業計画

第１回：Linuxのインストールと仮想マシン・コンテナの利用

第２回：ファイル・ディレクトリの操作と管理

第３回：GNUとUnixのコマンド

第４回：リポジトリとパッケージ管理

第５回：ハードウェア、ディスク、パーティション、ファイルシステム

第６回：シェルとシェルスクリプト

第７回：ネットワークの基礎

第８回：システム管理

第９回：必須システムサービス

第１０回：セキュリティ

第１１回：データベースの基礎知識

第１２回：データベースのインストール、標準付属ツール、設定ファイル

第１３回：データベースのバックアップとリストア

第１４回：データベースの基本的な運用管理

第１５回：SQLとオブジェクト

定期試験
テキスト ・Linux教科書 LinuCレベルI Version I0.0対応 ・Linux教科書 LinuCレベル2 Version I0.0対応 ・OSS教科書 OSS-DB Silver Ver.3.0対応
参考書・参考資料等 ・オペレーティングシステム，改訂2版（IT Text） ・データベースの基礎（IT Text）
学生に対する評価 課題(I00%)：毎回、何らかの実習課題を出す予定なので、課題を完結させその内容を報告としてまとめて提出する。主に「用語の選択」、「コマンド等の実行」、「機能等の説明」、「システムの構築」の課題で評価する。

授業科目名：技術者倫理	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：２単位	担当教員名：吉田　善一 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理		

授業のテーマ及び到達目標

（１）科学・技術が社会に与える効果や影響を理解できる。

（２）専門職としての技術者の責任を理解できる。

（３）技術者としての責任を理解した上で、自律的・自立的に思考することができる。

（４）自分自身の価値観や考え方を言語化することができる。

（６）自分の将来のキャリアなどについて考えることができる。

（７）仮想事例を用いて分析することができ、問題を解決することができる。

授業の概要

社会のグローバル化や科学・技術の高度化・複雑化に伴い、技術課題を解決したり、科学的原理を探求したりするだけでは解決できない社会課題が増加している。そこで、自然科学や人文科学など複合した分野の組織的協力が必要であり、その組織には強い倫理観を持った技術者のリーダー（プロフェッショナル・エンジニア）が求められている。学習内容に応じて、グループディスカッションを取り入れ、ディベートやプレゼンテーション力の向上を目指す。科学技術が社会や自然に及ぼすリスクと影響について理解し、説明できることが到達目標である。本講義は、事例研究などを通して、科学技術のプラス面もマイナス面も含めて社会全体の問題として捉え、技術者の倫理的・社会的責任を理解できるように計画されている。具体的には、学生倫理、技術倫理、生命倫理、ビジネス倫理、AI倫理などについて参加型講義で学ぶ。

授業計画

第１回：学生倫理

第２回：技術倫理

第３回：参加型講義；自動運転

第４回：バイオ倫理

第５回：参加型講義；テセウスの船

第６回：ビジネス倫理

第７回：参加型講義；内部告発

第８回：人体実験と動物実験

第９回：AI倫理

第１０回：参加型講義；AI時代を如何に生きるか

第１１回：社会人として倫理

第１２回：技術者の行動規範

第１３回：参加型講義；自身の行動規範 第１４回：和魂洋才 第１５回：参加型講義；学生憲章 定期試験
テキスト 和の人間学:東洋思想と日本の技術史から導く人格者の行動規範
参考書・参考資料等 ・社会人力ノート: 社会人基礎力とモノづくりリーダーの行動規範 ・企業研究者のキャリア・パス:物づくりのリーダーへの道
学生に対する評価 ・小テスト(36%)：毎回の小テストが1、2、4、6、8、9、11、12、14回目の計9回（各4%） ・課題(24%)：参加型講義（3、5、7、10、13、15回目）に関する課題が6回（各4%） ・レポート(40%)：期末レポート 公正の観点がしっかりと書かれている(20%)、対立の観点がしっかりと書かれている(20%)

授業科目名：コンピュータシステム演習	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：２単位	担当教員名：関　暁之 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ ・情報処理

授業のテーマ及び到達目標

（１）コンピュータの機能の基本的な知識を習得する。

（２）コンピュータの機能を使ったシステム（オペレーティングシステム、ファイルシステム、データベース等）の技術を習得する。

（３）コンピュータの機能を使ったシステムの応用分野の知識や利用倫理を養う。

授業の概要

　コンピュータを活用した情報システムの構築について学ぶ。コンピュータの機能の活用と、基本的な情報システムの構築ができるようになることが到達目標である。本講義は、プログラミングの基礎を学ぶ「プログラミング基礎」と、情報技術分野の基本的な知識を得る「コンピュータサイエンス」から、実践的なシステム開発を行う「地域共創演習I」につなげるための技能を学ぶ授業となる。具体的には、オペレーティングシステム、ファイルサーバ、メールシステム、DNS、データベースシステムについて学ぶ。

授業計画

第１回：Linuxのインストールと仮想マシン・コンテナの利用

第２回：ファイル・ディレクトリの操作と管理

第３回：GNUとUnixのコマンド

第４回：リポジトリとパッケージ管理

第５回：ハードウェア、ディスク、パーティション、ファイルシステム

第６回：シェルとシェルスクリプト

第７回：ネットワークの基礎

第８回：システム管理

第９回：必須システムサービス

第１０回：セキュリティ

第１１回：データベースの基礎知識

第１２回：データベースのインストール、標準付属ツール、設定ファイル

第１３回：データベースのバックアップとリストア

第１４回：データベースの基本的な運用管理

第１５回：SQLとオブジェクト

定期試験
テキスト ・Linux教科書 LinuCレベルI Version I0.0対応 ・Linux教科書 LinuCレベル2 Version I0.0対応 ・OSS教科書 OSS-DB Silver Ver.3.0対応
参考書・参考資料等 ・オペレーティングシステム，改訂2版（IT Text） ・データベースの基礎（IT Text）
学生に対する評価 課題(I00%)：毎回、何らかの実習課題を出す予定なので、課題を完結させその内容を報告としてまとめて提出する。主に「用語の選択」、「コマンド等の実行」、「機能等の説明」、「システムの構築」の課題で評価する。

授業科目名： 電気電子回路	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：矢島　正男 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ ・情報処理

授業のテーマ及び到達目標

・直流回路、交流回路の基本的な概念を理解できる、
・半導体の特性とダイオードやトランジスタ等の半導体デバイスの基本動作が理解できる、
・オペアンプの基本特性と基本的な構成の回路について理解できる、
・デジタル回路の基本ゲートと論理回路について理解出来る。

授業の概要

膨大なデータを活用する現代社会において、電気電子回路は半導体デバイスなどの基礎となる分野であり、人工知能やデータセンターからスマートデバイスまで、様々な領域の基盤を支える役割を果たしている。電気電子回路を理解することは、デジタル技術や通信ネットワークの進化に対応し、新たなテクノロジーの発展を支える土台となるものである。本講義では、電気電子回路及び論理回路の基礎を学ぶとともに、電子デバイスや簡単な回路及び論理回路などの基本事項を学ぶ。本講義の到達目標は、直流回路・交流回路、基礎的な半導体デバイス、オペアンプ回路、デジタル論理回路について理解し説明できること、簡単な応用回路の動作を理解する能力を身につけることである。

授業計画

第１回：ガイダンス（学びの目的と講義概説）
　　直流回路１（オームの法則，キルヒホッフの法則，抵抗の直並列回路，網目電流法，演習）
第２回：直流回路２（電圧源，電流源，重ねの理，鳳・テプナンの定理，電力と効率，演習）
第３回：交流回路１（正弦波交流，電力，複素数表示，演習）
第４回：交流回路２（インピーダンス，演習）
第５回：交流回路３（電磁誘導，演習）
第６回：交流回路４（周波数特性，演習）
第７回：半導体１（電気伝導，エネルギーバンドとｎ型p型半導体，演習）
第８回：半導体２（pn接合とダイオード，整流回路，演習）
第９回：接合トランジスタ，演習
第１０回：電界効果型トランジスタ（FET）と発光ダイオード（LED），演習
第１１回：オペアンプ１（基本構成と理想オペアンプ，演習）
第１２回：オペアンプ２（各種の応用回路，演習）

第１３回：デジタル回路１（デジタルICとTTL,基本ゲート，演習） 第１４回：デジタル回路２（組み合わせ回路とド・モルガンの法則および応用回路，演習） 第１５回：まとめとレポート課題 定期試験
テキスト よくわかる 電気・電子回路
参考書・参考資料等 ・基本からわかる電子回路 ・よ～くわかる最新電子回路の基本としくみ［第2版］ ・基礎電気・電子回路解析　第3版
学生に対する評価 ・定期試験(50%)：設問に対する正答の得点で評価する ・小テスト(20%)：1～14回の演習課題に対する得点を各々1/14の割合で評価する ・レポート(30%)：15回目の設問に対する得点で評価する

授業科目名： センシング技術	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：矢島　正男 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ ・情報処理

授業のテーマ及び到達目標

・光・熱・圧力・変位などの物理量を電気信号へと変換するセンサの原理や特性を理解する、
・各種センサから得られるアナログ信号を適切に増幅することができる、
・アナログ信号を適切にデジタル化し、コンピュータやIoT機器に取り込むことができる。

授業の概要

物理的な量や状態を検知して情報に変換するセンシング技術は、自然界の光・音・温度・圧力などを検知し、それを電気信号に変換し、更にデジタル化して処理装置へと入力するといった領域を含むものである。自然界から得られる各種の情報は、自動車・医療機器・工業プロセス・環境モニタリング・自動制御・セキュリティなど多岐にわたる分野で応用され、現代の技術や生活において欠かせないものとなっている。本講義では、各種センサの動作原理・特性・機能などを理解するとともに、センサから得られる信号を処理する際の基本的な電子デバイスや電気電子回路及びデジタル化の技術について学ぶ。本講義の到達目標は、測定対象に応じたセンサを選定し、得られたアナログ信号を適切に増幅してデジタル化することで、コンピュータやIoT機器にデータを取り込む技術を身につけることである。

授業計画

第１回：ガイダンス（学びの目的と講義概説）
　　センサとセンシング技術概説
第２回：各種センサの特性１（光，温度，ひずみ，圧力，加速度）
第３回：各種センサの特性２（電圧・電流・電力）
第４回：各種センサの特性３（回路素子：抵抗とインピーダンス）
第５回：各種センサの特性４（磁気の測定）
第６回：各種センサの特性５（高周波計測）
第７回：計測と測定：SI単位系と電気標準，校正とトレーサビリティほか
第８回：雑音源と信号：各種の雑音源，SN比，雑音指数，ダイナミックレンジ
第９回：信号の伝送と雑音の対策
第１０回：アナログ信号の扱いとデジタル化
第１１回：デジタル信号の転送
第１２回：デジタルデータの解析：周波数解析など

第１３回：センサの応用事例１（磁気センサによる材質判別ほか） 第１４回：センサの応用事例２（画像センサによる製品検査ほか） 第１５回：まとめとレポート課題 定期試験
テキスト 電気・電子計測工学
参考書・参考資料等 センサ技術の基礎と応用
学生に対する評価 ・定期試験(50%)：設問に対する正答の得点で評価する ・小テスト(20%)：1～14回の演習課題に対する得点を各々1/14の割合で評価する ・レポート(30%)：15回目の設問に対する得点で評価する

授業科目名： コンピュータサイエンス	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：関　暁之 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム

授業のテーマ及び到達目標

（１）コンピュータ、ネットワーク、ソフトウェア、データベースなどIT技術の基本的な知識を習得する。

（２）プロジェクト管理やビジネスに関連する基礎知識を習得する。

（３）情報セキュリティやプライバシー保護など情報倫理を養う。

授業の概要

情報技術分野の基本的な内容(コンピュータ、ソフトウェア、ネットワークなど）を俯瞰しながら学ぶ。情報技術分野の全体像を把握し、基本的な技術用語（CPU、OS、WWWなど）を理解し、様々な問題をプログラム的に解決できることが到達目標である。本講義は、共創情報科学部のすべての学びにおける前提として不可欠である。具体的には、データ構造、アルゴリズム、プログラミング、コンピュータシステム、ソフトウェア、データベース、ネットワーク、セキュリティ、開発技術、プロジェクトマネジメント、法務、システム戦略などについて学ぶ。

授業計画

第１回：情報科学の基礎理論

（１）数の表現

（２）集合と論理演算

（３）統計とグラフ理論

（４）アルゴリズムとデータ構造

（５）プログラム言語

第２回：コンピュータシステムの構成要素①

（１）コンピュータの種類

（２）コンピュータの構成

（３）プロセッサ

（４）メモリ

第３回：コンピュータシステムの構成要素②

（５）補助記憶装置

（６）入力装置

（７）出力装置

（８）入出力デバイス

第４回：コンピュータシステムの構成要素③
（９）システム構成の種類
（１０）システムの性能
（１１）システムの信頼性
第５回：テストI
第６回：ソフトウェア
（１）ソフトウェアの分類
（２）OSの機能
（３）ファイル管理
（４）文字コードとフォント
（５）ソフトウェアパッケージ
第７回：メディアとデータベース
（１）インタフェース設計と情報デザイン
（２）情報メディア
（３）データベースの基礎
（４）関係データベース
（５）データベース管理システム（DBMS）
（６）データベース操作
第８回：ネットワーク
（１）ネットワークの基礎
（２）LAN
（３）TCP/IP
（４）WWW
（５）電子メール
（６）WANと通信サービス
第９回：セキュリティ
（１）情報セキュリティマネジメント
（２）暗号化技術
（３）認証技術
（４）コンピュータウイルスと不正行為
（５）ネットワークセキュリティ
（６）その他のセキュリティ知識
第１０回：テスト2
第１１回：技術開発
（１）開発モデル

（2）ソフトウェア開発手法の概要
（3）見積りと設計
（4）テスト
（5）システム移行と保守
第12回：プロジェクトマネジメントとサービスマネジメント
（1）プロジェクトマネジメント
（2）サービスマネジメント
（3）システム監査
第13回：企業と法務
（1）経営組織とヒューマンリソース
（2）業績分析とデータの利活用
（3）意思決定と問題解決技法
（4）財務会計、管理会計
（5）知的財産権
（6）その他の法務知識
（7）標準化
第14回：経営戦略とシステム戦略
（1）経営戦略
（2）マーケティング
（3）ビジネス戦略と技術戦略
（4）ビジネスシステム
（5）エンジニアリングシステム
（6）システム戦略
（7）モデリング技法
（8）システム企画
第15回：テスト3
定期試験

テキスト
ニュースペックテキスト　ITパスポート　2026年度版

参考書・参考資料等
特記事項なし

学生に対する評価
小テスト(100%)

授業科目名：深層学習Ⅰ	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：２単位	担当教員名：車谷　浩一 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム		

授業のテーマ及び到達目標

（1）　深層学習の基盤となる数学である多重線形代数（テンソル）、実解析等について理解すること。

（2）　機械学習の評価尺度について理解すること。

（3）　ノーフリーランチ定理について理解すること。

（4）　主成分分析 PCAについて理解すること。

（5）　確率的勾配降下法について理解すること。

（6）　順方向伝播ネットワークの構造と数理モデルについて理解すること。

（7）　ニューラルネットワークの普遍性定理について理解すること。

授業の概要

現代の人工知能の主要技術である深層学習について、その基礎と理論的背景について学ぶ。深層学習は、歴史的にはパーセプトロンに起源を持ち、脳の神経細胞の動作をモデル化したニューラルネットワークを基盤とした学習モデルである。長い歴史を持つ人工知能の分野において、記号推論・論理的推論と双璧を成す技術である。本講義では、1）ニューラルネットワークの数理的モデルとその学習メカニズムを微分方程式系として理解し、2）その数値解法としての学習アルゴリズムを理解する。そして、3）ニューラルネットワークが任意の関数を任意精度で近似可能であることを数学的に保障する「ニューラルネットワークの普遍性定理」について理解することを目標とする。

授業計画

第１回：深層学習の基盤となる数学　線形代数　ベクトル、行列、対角化、テンソル、線形空間、線形写像

第２回：深層学習の基盤となる数学　多変数の微積分、ルベーグ積分の基礎

第３回：深層学習の基盤となる数学　微分方程式の解と大域的挙動

第４回：深層学習の基盤となる数学　確率と情報理論、統計力学

第５回：深層学習の基盤となる数学　数値計算と近似

第６回：機械学習の基礎　タスク、評価尺度、実験、自己回帰

第７回：フィッティング、ノーフリーランチ定理

第８回：バイアスとバリアンス、最尤推定

第９回：主成分分析 PCA

第１０回：確率的勾配降下法

第１１回：k-means法 第１２回：順方向伝播ネットワークⅠ　ノード・重み・バイアス　ネットワークの構成 第１３回：順方向伝播ネットワークⅡ　順方向の推論、学習 第１４回：ニューラルネットワークの普遍性定理Ⅰ　背景 第１５回：ニューラルネットワークの普遍性定理Ⅱ　証明 定期試験
テキスト 1）Deep Learning Book 2）Deep Learning 3）詳解ディープラーニング第2版：TensorFlow/Keras・PyTorchによる時系列データ処理 1）の Web 版は、現時点では無料で閲覧可能であり、2）は、その紙媒体である。 3）は、Python を用いた深層学習の教科書であり、初歩から再帰的ニューラルネットワーク、トランスフォーマーまでを網羅している。
参考書・参考資料等 1）　深層学習 2）　ゼロから作るDeep Learning ―Pythonで学ぶディープラーニングの理論と実装 1）　は、教科書に指定した Goodfellow らの図書の日本語訳である。 2）は Python を用いた深層学習の教科書であり、初歩から畳み込みニューラルネットワークまでを網羅している
学生に対する評価 定期試験(100%)：【知識理解の観点】【思考･判断の観点】【技能･表現の観点】

授業科目名：深層学習Ⅱ	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：２単位	担当教員名：車谷　浩一 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム		

授業のテーマ及び到達目標

（1）　ニューラルネットワークと多変量解析との関連について理解すること。

（2）　畳み込みニューラルネットワークについて理解すること。

（3）　再帰的ニューラルネットワークについて理解すること。

（4）　トランスフォーマーについて理解すること。

（5）　オートエンコーダ（Autoencoder）について理解すること。

（6）　変分オートエンコーダ VAE（Variational AutoEncoder）について理解すること。

（7）　生成的敵対ネットワークGAN（Generative Adversarial Network)について理解すること。

（8）　拡散モデル（Diffusion Model）について理解すること。

授業の概要

本講義は、深層学習Ⅰにおける理論的背景の理解を前提として、深層学習の様々なモデルについて学習する。1）基礎となる Feed-Foward Network、2）画像処理・認識の基盤となる畳み込み（Convolution）、3）ネットワーク内において信号（情報）を以前の段に戻す Feed-Back の概念により、ネットワークが時間の変化に対応し時系列構造の学習が可能となること、5）時系列構造の学習としての Transformer と、VAE（Variational AutoEncoder)，GAN（Generative Adversarial Network)，拡散モデル（Diffusion Model）、6）これらを用いた生成ＡＩ（Generative AI）について学ぶ。本講義では英文の原著論文の内容を理解し、深層学習アルゴリズムを自ら設計できるようになることを到達目標とする。

授業計画

第１回：ニューラルネットワークと多変量解析との関連Ⅰ　線形回帰

第２回：ニューラルネットワークと多変量解析との関連Ⅱ　主成分分析

第３回：畳み込みニューラルネットワークⅠ　定義と空間表現

第４回：畳み込みニューラルネットワークⅡ　学習と応用例

第５回：再帰的ニューラルネットワークⅠ　定義と時間モデル

第６回：再帰的ニューラルネットワークⅡ　学習と予測

第７回：トランスフォーマーⅠ　定義

第８回：トランスフォーマーⅡ　自然言語処理と大規模言語モデル

第９回：オートエンコーダ（Autoencoder）

第１０回：変分オートエンコーダ VAE（Variational AutoEncoder）

第１１回：生成的敵対ネットワークGAN（Generative Adversarial Network）
第１２回：拡散モデル（Diffusion Model）
第１３回：コンテンツ生成
第１４回：深層学習を実行するための方法論
第１５回：深層学習の応用例
定期試験

テキスト
1） Deep Learning Book
2） Deep Learning
3） 詳解ディープラーニング第2版：TensorFlow/Keras・PyTorchによる時系列データ処理

1）の Web 版は、現時点では無料で閲覧可能であり、2）は、その紙媒体である。
3）は、Python を用いた深層学習の教科書であり、初歩から再帰的ニューラルネットワーク、トランスフォーマーまでを網羅している。

参考書・参考資料等
1） 深層学習
2） ゼロから作るDeep Learning ―Pythonで学ぶディープラーニングの理論と実装

1） は、教科書に指定した Goodfellow らの図書の日本語訳である。
2）は Python を用いた深層学習の教科書であり、初歩から畳み込みニューラルネットワークまでを網羅している

学生に対する評価
レポート(100%)：【知識理解の観点】【思考･判断の観点】【技能･表現の観点】

授業科目名：サイバーフィジカルシステム	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：２単位	担当教員名：飯田　一朗 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報通信ネットワーク

授業のテーマ及び到達目標

１）インターネットがどのような技術で動作しているかその全体象を復習する。

２）スマートホンと無線ネットワークによるモバイルコンピューティングの仕組みを理解する。

３）IoTの仕組みと動作原理を理解し、サイバーフィジカルシステムの全体像をイメージできる。

４）サイバー空間とフィジカル空間の融合と分離と連携について、将来動向を俯瞰して考察することができる。

５）サイバーフィジカルシステムがAIによってどのように発展するかその姿を描くことができる。

授業の概要

モバイルコンピューティングやIoTが普及した結果、ユーザーが意図せずともユーザーや場所の情報が自動的にネットワークに収集され、実世界の状態がサイバー空間で常時可視化され、情報技術で解析・予測する仕組みが広がっている。本講義では、モバイルコンピューティングの仕組みとIoTの仕組みを学んだ後、今後、現実区間とサイバー空間の融合を促すサイバーフィジカルシステムの各種技術とそれを利用したビジネスや生活の現状と将来及びこれらがもたらす脅威についても学ぶ。到達目標は、センサーとクラウドが連携した簡単なIoTシステムを設計できるようになることである。

授業計画

第１回：講義の概要

第２回：インターネット概論

インターネット発展の歴史を概観する。

第３回：モバイルコンピューティングの基本原理

スマートフォンとクラウドの連携によるモバイルコンピューティングの基本原理を学習する。

第４回：IoTの基本原理

ユーザ端末ではなく、センサーや測定器を直接インターネットに接続し、イベントドリブン型通信を実現するIoTの仕組みを学習する。

第５回：モバイルとIoTの融合

モバイルコンピューティングにおけるスマトフォンの位置情報やSNSへの発信情報などをセンサー入力と同様に集ま異、かつ融合させる仕組みを学習する。

第６回：サイバーフィジカルシステムの全体像

インターネット、センサー端末、スマートフォン、クラウド、データサイエンス、人工知能からなるサイバーフィジカルシステムの全体像を理解する。

第７回：サイバーフィジカルシステムの機能概要

実世界にあるセンサー情報を逐次クラウド上で管理するミラーリングの仕組みを理解する。

第８回：サイバーフィジカルシステムの活用事例１

IoTによる状態監視システムの基本アーキテクチャについて学習する。

第９回：サイバーフィジカルシステムの活用事例２

クラウド上で逐次変化するセンサー情報から、イベント情報を抽出し、その内容に応じたプログラムにより対応処理を自動実行する仕組みを理解する。

第１０回：AI技術（深層学習）の概要

ニューラルネットの基本構成とそれによる認識機能実現の原理について理解する。

第１１回：AI技術がIoTシステムに及ぼす影響

センサー情報を繰り返し取得し、正常時と異なる動作をしたときにアラームを発するシステムを例に、ＡＩ技術（深層学習）の仕組みを理解する。

第１２回：AI技術とサイバーフィジカルシステムの関係

サイバーフィジカルシステムにおけるＡＩ技術の役割と応用事例紹介。

第１３回：サイバー空間とフィジカル空間の融合

フィジカル空間の写像であるサイバー空間でのシミュレーション技法を理解する。

第１４回：サイバーフィジカルシステムの利害得失

ＡＩ技術とそれによるサイバーフィジカルシステムが、現実世界に及ぼす影響と、利点とリスクの整理。

第１５回：まとめ

定期試験

テキスト

ＩｏＴ開発がこれ1一冊でしっかりわかる教科書　技術評論社　坂東大輔著

参考書・参考資料等

特記事項なし

学生に対する評価

・定期試験(60%)：期末試験

・課題(40%)：技術区分修了時に課題を出す

授業科目名： 情報ネットワーク	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 飯田　一朗 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報通信ネットワーク

授業のテーマ及び到達目標

Ⅰ）インターネットの基盤となるTCP/IPプロトコルについて系統的に学習し、情報ネットワークの全体像について理解する。

２）アプリケーションプログラムがOSを介していかにインターネットを利用しているのかを理解し、概要を説明できる。

３）アプリケーションプログラムがインターネットを介して遠隔ライブラリを利用する分散コンピューティングの原理を理解する。

４）Webアプリケーションについてその基本機能と動作を理解する。

授業の概要

インターネットは近年仮想化が進み、意識せずに利用できる環境が提供されているが、その下でどういう技術や仕組みが動いているのかは一般にはよくわかっていない。本講義では、インターネットの基盤となるTCP/IPプロトコルについて系統的に学ぶ。また、インターネットを利用して分散コンピューティングを実現しているWebアプリケーションの基本機能を学ぶ。到達目標は、アプリケーションプログラムがOSを介していかにインターネットを利用しているのか、その仕組みをわかりやすく説明できるようになることと、WebAPIを活用した簡単なWebαアプリケーションをプログラミングできるようになることである。

授業計画

第Ｉ回：講義の概要
第２回：情報システム概論
第３回：ネットワーク構成要素
第４回：インターネットの基本原理
第５回：通信処理の階層プロトコル
第６回：ネットワークアプリケーション
第７回：TCP/IPの基本動作
第８回：TCP
第９回：IP
第ＩＯ回：ルーティングアルゴリズム
第ＩＩ回：TCPとOSとの通信
第Ｉ２回：OSとネットワーク機器の通信

第１３回：Webアプリケーションの基本 第１４回：最近のトピックス 第１５回：まとめ 定期試験
テキスト マスタリングTCP/IP　入門編　第6版
参考書・参考資料等 特記事項なし
学生に対する評価 ・定期試験(60%)：期末試験 ・課題(40%)：技術区分修了時に課題を出す

授業科目名： 情報セキュリティ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 飯田　一朗 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報通信ネットワーク

授業のテーマ及び到達目標

１）暗号技術とそれを利用した安心・安全システムの全体像について実例を示すことができる。

２）共通鍵暗号と公開鍵暗号の原理とデジタル署名技術、各種暗号プロトコルについて概要を説明できる。

３）インターネットとWebアプリの普及によってもたらされるネットワークの脆弱性を利用した攻撃を防御するためのネットワークセキュリティ技術についてその機能と特徴を説明できる。

４）利便性がもたらす恩恵と脅威について理解し、セキュリティ技術の適切な運用の重要性を説明できる。

授業の概要

本講義では、情報セキュリティの基礎となる暗号技術と、それを利用した安心・安全システムの全体像について学ぶ。具体的には、まず、共通鍵暗号と公開鍵暗号の原理とデジタル署名技術、各種暗号プロトコルについて学び、また、インターネットとWebアプリの普及によってもたらされるネットワークの脆弱性を利用した攻撃を防御するためのネットワークセキュリティ技術について学ぶ。到達目標は、公開鍵と秘密鍵のペアを設計できるようになることと、安全なネットワークシステムの構築と管理の方法を説明できるようになることである。

授業計画

第１回：講義の概要
第２回：情報システム概論
第３回：情報システムの脆弱性と危険性
第４回：情報システムの危険性に対する人間工学的考察
第５回：暗号の数学的基礎
第６回：暗号技術
第７回：共通鍵暗号技術
第８回：鍵配送の問題点
第９回：公開鍵暗号技術
第１０回：RSA暗号技術
第１１回：電子認証技術

第１２回：情報システムへの適用法 第１３回：ネットワークセキュリティ 第１４回：最新のトピックス 第１５回：まとめ 定期試験
テキスト 暗号技術入門
参考書・参考資料等 特記事項なし
学生に対する評価 ・定期試験(60%)：期末試験 ・課題(40%)：トピックの区切りで課題提出

授業科目名： データビジュアライゼーション	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：廣瀬　文乃 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術

授業のテーマ及び到達目標

・データビジュアライゼーションがなぜ重要なのかを理解できている。

・視覚化されたデータを正しく理解することができる。

・データを分かりやすく視覚化することができる。

・視覚化されたデータを用いて、価値創造や意思決定に役立つデザインやプレゼンテーションを作成できる。

授業の概要

近年、データ活用が進んでいる中で、数字の羅列データでは施策や戦略、意思決定などに直接活用しにくいことから、「データの視覚化」や「データの可視化、見える化」などを行うことは必須となっている。優れたデータや高い統計技術があっても、見た目がわかりにくいままであれば、どんな発見や提案も納得してもらうことはできない。そこで必要になるのが、データを可視化し生かすことが可能になる「データビジュアライゼーション」である。

本講義では、各データの適切なビジュアライゼーションを行う技能を身につけ、データを的確に解釈し、データに基づく対話を行う技術を獲得し、意思決定に役立てられることを目的とする。具体的には、データの質・量的拡大に伴い重要性が高まるデータビジュアライゼーションについて、その基本的概念からPCによる実装までを学習する。また、デザインすることで、気づいていなかった価値を創造できるための実習も行う。

授業計画

第１回：【講義・演習】オリエンテーションとチームビルディング

・授業の進め方、評価方法を共有し、受講生同士の交流を通じて学びの土台となる関係性を構築する

第２回：【講義・演習】データビジュアライゼーションの基本理解

・データビジュアライゼーションとは何か、その目的や重要性、実社会での具体的な活用事例を学ぶ

第３回：【講義・演習】実例から学ぶデータの可視化（事例１）：ビジュアル事例

・新聞記事や企業レポート、資料などから可視化事例を評価する

第４回：【演習・発表】可視化事例の共有と討議（発表１）

・第３回で分析した事例を各グループで発表し、視覚表現の工夫や情報伝達の精度について議論する

第５回：【講義・演習】基本ツール①：Excelによるグラフ作成

・基本的な表計算ソフトを用いて、適切なグラフ選択とデータの視覚化技術を習得する

第６回：【講義・演習】基本ツール②：テキストマイニング（User Local）

・テキストデータを用いて、キーワードの出現傾向を視覚化するツールの活用方法を学ぶ

第７回：【講義・演習】応用ツール：生成AIによる視覚化支援

・生成AIを用いた視覚化アイディアの発想支援や、テキスト要約・分類の活用事例を体験する

第８回：【演習・発表】ビジュアライゼーション企画の発表（発表２）

・各グループが自ら構想した視覚化の計画を発表し、フィードバックを受けて改善案を検討する

第９回：【講義・演習】実例から学ぶデータの可視化（事例２）：ストーリー事例

・異なるジャンルの視覚化事例を分析し、ストーリー性や読み手の理解を促す構成について考察する

第10回：【講義・演習】実例から学ぶデータの可視化（事例３）：デザイン倫理

・視覚表現がもたらす誤解やバイアスについても触れ、倫理的配慮を含んだ設計視点を学ぶ

第11回：【演習・発表】中間成果発表（発表３）

・中間段階での視覚化成果を発表し、構成・色使い・情報量の適正などについて意見交換する

第12回：【演習】最終課題に向けたデータ収集とテーマ設定

・最終発表に向けて各自またはグループでテーマを定め、必要なデータの収集を開始する

第13回：【演習】収集データの分析と構造化

・収集したデータを分析、加工、統計処理等を行い、視覚化に適した情報の構造や関係性を整理する

第14回：【演習】視覚化の設計とスライド制作

・分析結果を効果的に視覚化する設計を行い、発表スライドなどの最終アウトプットを準備する

第15回：【演習・発表】最終成果発表（発表４）

・全グループが最終的な視覚化成果を発表し、評価と振り返りを通じて学びを統合する

テキスト

データ視覚化のデザイン

参考書・参考資料等

・最強のデータ分析組織 なぜ大阪ガスは成功したのか

・USJのジェットコースターはなぜ後ろ向きに走ったのか?

・FACTFULNESS(ファクトフルネス)

学生に対する評価

・課題(30%)：事前課題（15%）:サイトの検索や動画やテキスト・文献を読み、学びや気づき、疑問点をまとめる　リアクションペーパー（15%）:授業での学びや気づき、疑問点をふりかえる

・レポート(20%): 15回の講義を踏まえて、①発表で貢献したこと、よかった点、もっと改善できる点、②自分のデータビジュアライゼーションのプロジェクト成果、について、2000字以上でまとめる

・成果発表(40%)：発表ｘ4回（各回10%）　データビジュアライゼーションの発表

・その他(10%)：グループワークへの積極的な取り組み、授業への参加度（積極的な発言等）等

授業科目名： 情報デザイン	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：米沢　みどり 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現 ・マルチメディア技術

授業のテーマ及び到達目標

・視覚情報デザインとインタラクションデザインの知識と技能を身につけ、応用できる。

・デザインの基本原則、ユーザー調査手法、プロトタイプ作成手法､開発のためのフィードバックプロセスについても習得し活用できる。

・情報伝達に適切なデザインを提案できる。

授業の概要

ユーザーにとって分かりやすく、理解しやすい情報の表現と伝達方法について学ぶ。主として視覚情報デザインとインタラクションデザインの原則を学び、効果的な伝達手段を探求する。到達目標は、情報デザインの基本原則を理解し応用できる知識と技能を身につけることである。具体的には、デザインの基本原則、ユーザー調査手法、プロトタイプ作成手法を学び、ユーザビリティテスト、開発のためのフィードバックプロセスについても学ぶ。学生は、伝えたい情報の形と構造について理解し、情報を伝達するための適切なデザイン解を提案できる知識と技能を身につける。

授業計画

第１回：授業の概要、目的、アウトプットイメージ

第２回：情報のデザイン、情報の分類と構造化

第３回：インフォグラフィックス

第４回：インタフェースとインタラクションのデザイン

第５回：情報の信頼性

第６回：ユーザー調査手法

第７回：プロトタイプ作成手法、設計手法

第８回：設定したテーマでのプロトタイプ作成（1）コンセプト、ワイヤーフレーム

第９回：設定したテーマでのプロトタイプ作成（2）コンテンツ制作

第１０回：プロトタイプの発表

第１１回：ユーザビリティテストとフィードバックプロセス

第１２回：プロトタイプのユーザビリティテスト

第１３回：プロトタイプのユーザビリティテスト結果まとめ

第１４回：報告資料作成

第１５回：最終報告 定期試験
テキスト 適宜資料を配布する
参考書・参考資料等 ・これからはじめるFigma Web・UIデザイン入門 ・インタフェースデザインの教科書 ・情報デザイン
学生に対する評価 ・課題(50%)：中間報告の内容について、ルーブリックの到達度に準じて評価する ・レポート(50%)：最終報告書の内容について、ルーブリックの到達度に準じて評価する

授業科目名： 情報デザイン基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：米沢　みどり 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現 ・マルチメディア技術

授業のテーマ及び到達目標

・グラフィカルユーザーインタフェースについて、基礎的な知識を持ち活用できる。

・単純な課題に取り組む中で、主体的に適切な手法とプロセスを実行できる。

・簡単な各種アプリケーション、Webサイト、機器の操作画面などをデザインできる。

授業の概要

グラフィカルユーザーインタフェース（Graphical User Interface:GUI）についての基礎的な知識を学ぶ。単純化した情報デザイン課題に取り組み、基礎的な手法、技法とプロセスを習得する。情報が溢れている社会において、情報の取捨選択とともに正しく発信することは重要であり、情報をデザインして発信する各種アプリケーション、Web、機器の操作画面などをデザインするための基礎的能力の習得を到達目標とする。本講義は、個人によるアイデア発想とグループによるアイデア検討を組み合わせて進める。具体的には、ターゲットユーザー設定のための「ペルソナ」「イメージマップ」、ユーザー体験をデザインするための「5WIH」「ストーリーテリング」、画面デザインのための「意味の記号化」「画面操作遷移」などを課題解決のアイデア創出過程で身につける。

授業計画

第１回：授業の概要、目的、アウトプットイメージ

第２回：Webデザイン基礎

第３回：Webデザイントレンド

第４回：ペルソナの理解と課題サイトのペルソナ作成

第５回：カスタマージャーニーマップの理解と課題サイトのカスタマージャーニーマップ作成

第６回：自分のポートフォリオサイトについてアイデア創出

第７回：チームでアイデアマップ作成

第８回：中間報告

第９回：Figmaを使ったサイトデザイン・Figmaの準備と基本機能理解

第１０回：Figmaを使ったサイトデザイン・ポートフォリオの基本デザイン

第１１回：Figmaを使ったサイトデザイン・サイトのスタイル、コンポーネント検討

第１２回：Figmaを使ったサイトデザイン・ポートフォリオのファーストビュー作成

第１３回：Figmaを使ったサイトデザイン・ポートフォリオの各ページ作成

第１４回：Figmaを使ったサイトデザイン・サムネイル作成、サイトのブラッシュアップ 第１５回：最終報告 定期試験
テキスト これからはじめるFigma Web・UIデザイン入門
参考書・参考資料等 特記事項なし
学生に対する評価 ・課題(30%)：中間報告の内容について、ルーブリックの到達度に準じて評価する ・作品(70%)：提出された作品の内容について、ルーブリックの到達度に準じて評価する

授業科目名： 情報科教育法A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：森下　孟 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。		

授業のテーマ及び到達目標

- 数学・物理学の基礎知識に加え，電気電子工学，通信工学，情報工学に関する一般的な基礎知識を修得・活用することができる。
- 自然，社会，歴史，文化に対する幅広い教養を持ち，電子情報システム技術の社会，環境に対する影響について，倫理観を持って判断できる。
- 自らの考えを他者に理解できるように伝達すると共に，相手の考えを十分に把握して論理的に討議できるコミュニケーション能力を有する。
- 専門基礎知識を活用し，電気電子工学，通信工学，情報工学に関する研究を遂行できる。
- 自ら選択した教育プログラムの専門基礎知識を修得し，多面的な視点から知識を活用することができる。
- 専門基礎知識を活用し，電気電子工学，通信工学，情報工学に関する研究を遂行できる。

授業の概要

高等学校の学習指導要領の総則を理解し、学校の教育課程をより良く編成するための方法や留意点について学ぶ。その中で、教科「情報」の様々な開設形態と、それが教育現場に与える影響について考察する。また、教科「情報」の教育目的や指導方法の特色について、必修科目としての意義と役割を体系的かつ系統的にカリキュラム内で位置付けて理解することを目的とする。

さらに、教科「情報」と他教科等との関連性や、各科目の内容と特色を明らかにしながら、「情報Ⅰ」と「情報Ⅱ」の違いについても理解を深める。この過程で、教科「情報」の授業イメージや基本的な授業展開を体験的に学ぶ機会を設ける。実際に授業を行う上で必要な授業設計・計画（教材開発を含む）・実施・評価・改善の考え方や方法を修得し、実践的な授業づくりの基盤を構築することを目指す。これにより、情報教育の充実に寄与できる能力を育成する。

授業計画

第１回：イントロダクション

第２回：教科「情報」の理念と設立の経緯、教育の最新事情とICT活用指導力

第３回：学習の基盤となる「情報活用能力」の育成

第４回：学習指導要領に基づく教科「情報」の目標・内容・意義

第５回：情報利活用のための実践力とその学習指導

第６回：情報の科学的な理解に関する学習指導・情報表現に関する学習指導

第７回：社会への参画に関する学習指導・協調的コミュニケーションのための学習指導

第８回：専門教科「情報」の教育課程編成・指導法 第９回：情報教育を支える人的・物的要件 第１０回：教科「情報」と他教科との関係・クロス・カリキュラム 第１１回：自己表現・情報創造力を育成するための授業計画・教材開発 第１２回：生徒の学習活動に対する評価の在り方・方法 第１３回：【演習】「情報科教育法」のまとめとしての模擬授業づくり・実施 第１４回：【演習】「情報科教育法」のまとめとしての模擬授業の評価・改善 第１５回：確認試験、まとめとふりかえり
テキスト 高等学校学習指導要領（平成30年告示）
参考書・参考資料等 必要に応じて授業中に紹介する
学生に対する評価 各回に課すレポート：60%、確認試験40%

授業科目名： 情報科教育法B	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：森下　孟 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

- 学習指導要領に基づく教科「情報」の意義や目的について説明することができる。
- 教科「情報」を通じて，生徒たちに主体的・対話的で深い学びを与えるための授業設計を行うことができる。
- プログラミング言語を用いて自身のアイデアを具現化することができる。
- プログラミング的思考の必要性を説明し，生徒にその思考法を身に付けさせるための授業構想ができる。

授業の概要

情報科で育成を目指す資質・能力を理解し，学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに，様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

「情報科教育法B」では，近年の中央教育審議会答申あるいは現行学習指導要領の内容を理解し，共通教科「情報Ⅰ」及び専門教科「情報Ⅱ」で生徒が身につけるべき資質能力について，「情報」の目標・内容・全体構造について理解し，対応する学問領域の特性を踏まえた教材研究の方法について学習する。演習形式により「情報科教育法A」で学んだ内容を踏まえて具体的な単元案および１時間の指導案や授業展開を考える。

授業計画

第１回：教科「情報」の理念と設立の経緯
第２回：教育の最新事情とICT活用指導力
第３回：学習の基盤となる「情報活用能力」の育成
第４回：学習指導要領に基づく教科「情報」の目標・内容・意義
第５回：教科「情報」と主体的・対話的な深い学び
第６回：教科「情報」における協働的な学びと個別最適な学び
第７回：情報教育を支える人的・技術的要件
第８回：教科「情報」とメディア・リテラシー・生成AI
第９回：教科「情報」におけるプログラミング教育とプログラミング的思考
第１０回：教科「情報」におけるプログラミング（設計）
第１１回：教科「情報」におけるプログラミング（実践・評価）
第１２回：「情報科教育法」のまとめとしての模擬授業づくり
第１３回：「情報科教育法」のまとめとしての模擬授業（実践）

第１４回：「情報科教育法」のまとめとしての模擬授業（評価・改善） 第１５回：確認試験、まとめとふりかえり
テキスト 高等学校学習指導要領（平成30年告示）
参考書・参考資料等 必要に応じて授業中に紹介する
学生に対する評価 各回に課すレポート：60%、確認試験40%

授業科目名：介護等体験	教員の免許状取得のための 必修科目（中学）	単位数： ２単位	担当教員名： 岡村　亮佑 丹野　傑史
			担当形態：複数、オムニバス
科　目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			

授業のテーマ及び到達目標

（1）「介護等体験特例法」の意義と内容・臨む態度を理解することができている。

（2）社会福祉施設において介護等体験を行い、高齢者等の利用者についての正しい理解と接し方を身に付け、配慮事項を踏まえて適切な接し方を判断することができている。

（3）特別支援学校において介護等体験を行い、障害のある児童生徒についての正しい理解と接し方を身に付けることができている。

授業の概要

平成10年4月から施行された「介護等体験特例法」に基づき、小学校・中学校教諭の普通免許状を取得する場合は、特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間、計7日間の「介護等体験」が必要になった。我が国は、障害のある人もない人も同じように自立し共に生活できる共生社会を目指している。そのため、教職を希望する学生は、子ども達に障害児や高齢者等との交流や共同学習を通して社会性や豊かな人間性をはぐくむための指導力を身に付ける必要がある。介護等体験を通して、障害児・者や高齢者への正しい理解と必要な支援や接し方を学び、自らの人間性を高めると共に鋭い人権尊重の感覚を持った教師になることを期待する。

授業計画

第1回:オリエンテーション（岡村・丹野）

【概要】:介護等体験の意義と目的、介護等体験に臨む態度、守秘義務、実施の手続き等について解説する。

第2回:介護等体験事前学習（1）社会福祉施設の概要（岡村）

【概要】: 社会福祉施設の概要や種類、根拠法令等について具体的な事例を踏まえながら解説する。

第3回:介護等体験事前学習（2）特別支援学校の概要（丹野）

【概要】: 特別支援学校の概要や種類、根拠法令等について具体的な事例を踏まえながら解説する。

第4回:介護等体験事前学習（3）介護等体験の留意事項（岡村）

【概要】:介護等体験に臨むための心構えやマナー、体験日誌の記入等について演習等を通じてグループごとに考えをまとめる学習機会を設定する。

第5回:介護等体験事前面談（1）面談準備（岡村・丹野）

【概要】:それぞれ配属先となった社会福祉施設及び特別支援学校について、概要をまとめる学習機会

を設定する。

第6回:介護等体験事前面談(2)面談の実施(岡村・丹野)

【概要】:介護等体験直前に、体験における目標、勤務時間、持ち物、通勤方法等について最終確認するための個人面談の機会を設定する。

第7回:社会福祉施設での介護等体験(1)社会福祉施設の一日、職員の職務を理解する(岡村)

【概要】:配属先となった社会福祉施設の担当者の指示や説明を踏まえ、施設での一日の流れ、利用者の名前や実態、職員の職務等について理解する。

第8回:社会福祉施設での介護等体験(2)施設利用者との具体的な関わりを通じて、支援者としての心構えを学修する(岡村)

【概要】:担当者の指示に応じて、施設内の利用者と積極的に関わりをもち、具体的な関わりを通じて実態や配慮事項、心構えについて理解し、支援する。

第9回:社会福祉施設での介護等体験(3)社会福祉施設での介護等体験まとめ(岡村)

【概要】:日々の体験を通じて体験日誌に記した課題について振り返り、担当者の助言や自身の考えを踏まえて支援にあたる。

第10回:介護等体験事後指導(1)社会福祉施設での介護等体験まとめ(岡村)

【概要】:体験日誌に設定した目標に対する自己評価と、体験を通じた発見や自身の課題などについて所感を記す。

第11回:特別支援学校での介護等体験(1)児童生徒との交流(岡村)

【概要】:配属先となった特別支援学校の担当者の指示や説明を踏まえ、学校での一日の流れ、児童生徒の名前や実態、教員の職務等について理解する。

第12回:特別支援学校での介護等体験(2)障害のある児童生徒の指導者としての使命と役割の理解(岡村)

【概要】:担当者の指示に応じて、児童生徒と積極的に関わりをもったり、教員の指導・支援を観察したりする中で、児童生徒の実態や配慮事項、教員の使命や役割について考える。

第13回:特別支援学校での介護等体験(3)特別支援学校での介護等体験の振り返り(岡村)

【概要】:日々の体験を通じて体験日誌に記した課題について振り返り、担当者の助言や自身の考えを踏まえて児童生徒の指導・支援にあたる。

第14回:介護等体験事後指導(2)特別支援学校での介護等体験まとめ(岡村)

【概要】:体験日誌に設定した目標に対する自己評価と、体験を通じた発見や自身の課題などについて所感を記す。

第15回:介護等体験事後指導(3)介護等体験まとめ(岡村・丹野)

【概要】:社会福祉施設と特別支援学校での体験を通じた所感や疑問、課題意識について、文献等を参照しながら自身の考えを1600字程度のレポートにまとめる学習機会を設定する。

定期試験 実施なし

テキスト 介護等体験記録、その他講義中に配布する資料を使用する。
参考書・参考資料等 講義内で適宜紹介する
学生に対する評価 介護等体験記録の内容 50% レポート 40% 毎回の講義で課すリアクションペーパー　10%

授業科目名： 発達障害教育総論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 青木雄一　丹野傑史
			担当形態： オムニバス

科　目	大学が独自に設定する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	

授業のテーマ及び到達目標

・発達障害の実態について、心理・生理・病理と「障害の社会モデル」の両側面から理解することができている。

・発達障害のある児童生徒の主な学びの場である、特別支援学級、通級による指導、通常学級の制度や教育課程、その学習の場における基本的な指導・支援の考え方について理解することができている。

・特別な教育的ニーズを要する児童生徒の実態や学びの場の特質に応じて、適切な指導・支援や合理的配慮を説明することができている。

・自立と社会参加を目指して、個別の教育支援計画や個別の指導計画を基軸として保護者や各関係機関と連携する意義を理解し、他者と協働しながら適切な指導・支援を考えようとすることができている。

授業の概要

・発達障害のある幼児児童生徒の心理・生理・病理面の特徴について解説し、発達障害のある児童生徒と向き合うために求められる基本的な姿勢について、「障害の社会モデル」の視点から解説する。

・発達障害のある児童生徒が主として学ぶ、特別支援学級、通級による指導、通常学級の制度や教育課程、その学習の場における基本的な指導・支援の考え方について解説する。

授業計画

第1回：講義オリエンテーション、発達障害とその捉え方：障害の社会モデルの視点から（青木）

【概要】：発達障害の定義や障害の社会モデルの考え方、学びの場における学習上または生活上の困難について解説する。

第2回：発達障害のある児童生徒の学びの場について（1）教育課程（丹野）

【概要】：通常の学級の教育課程を基盤として、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する力を育むことを目指すために特別の教育課程を編成することについて解説する。

第3回：発達障害の理解（1）局限性学習症(SLD)（青木）

【概要】：学習障害に関わる心理・生理・病理の特徴と二次的な障害、行動・認知の特性、基本的な指導・支援方法について解説し、実際的な事例をもとに適切な指導・支援の方法を考える。

第4回：発達障害の理解（2）注意欠如・多動症(ADHD)（青木）

【概要】：ADHDに関わる心理・生理・病理の特徴と二次的な障害、行動・認知の特性、基本的な指導・支援方法について解説し、実際的な事例をもとに適切な指導・支援の方法を考える。

第5回：発達障害の理解 (3) 自閉スペクトラム症(ASD)（青木）
【概要】：自閉スペクトラム症に関わる心理・生理・病理の特徴と二次的な障害、行動・認知の特性、基本的な指導・支援方法について解説し、実際的な事例をもとに適切な指導・支援の方法を考える。
第6回：発達障害のある学びの場について (2) 通常学級における指導・支援の実際（丹野）
【概要】：学びのユニバーサルデザインについての考え方などについて解説するとともに、現場の教師を招いて通常学級における実際的な事例や、ICTを含む教材・教具等について紹介する。
第7回：発達障害のある学びの場について (3) 通級による指導の実際（丹野）
【概要】：通級による指導での指導の在り方などについて解説するとともに、現場の教師を招いて通級による指導の実際的な事例や、ICTを含む教材・教具等について紹介する。
第8回：発達障害のある学びの場について (4) 特別支援学級(自閉症・情緒障害)の実際（青木）
【概要】：特別支援学級(自閉症・情緒障害)での指導の在り方などについて解説するとともに、現場の教師を招いて特別支援学級(自閉症・情緒障害)の実際的な事例や、ICTを含む教材・教具等について紹介する。
第9回：発達障害のある児童生徒に対する模擬授業の実践 (1)（丹野）
【概要】：通常学級に在籍する教育的ニーズを要する児童の事例を紹介し、集団授業について学生同士で協働しながら指導案を作成する。
第10回：発達障害のある児童生徒に対する模擬授業の実践 (2)（青木）
【概要】：作成した指導案をもとに模擬授業を実施し、目標や指導・支援の評価ついて、学生同士で協議を行う。
第11回：自立活動の指導（丹野）
【概要】：自立活動に関する基本的な考え方や、指導内容6項目・27区分について、具体的な指導事例を踏まえて解説する。
第12回：個別の教育支援計画と個別の指導計画について (1)（青木）
【概要】：個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成意義や作成方法について解説する。
第13回：個別の教育支援計画と個別の指導計画について (2)（青木）
【概要】：実際の事例をもとに、学生同士で協働しながら個別の教育支援計画と個別の指導計画を作成する。
第14回：カリキュラム・マネイジメント（青木）
【概要】：実際に作成した個別の指導計画を用いて、実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげる意義について解説する。
第15回：個別最適な学び（青木）
【概要】：カリキュラム・マネイジメントの視点を踏まえ、学習の個性化と指導の個別化の観点から通常学級における授業の在り方を考え、そのツールとしてのICTの活用について解説する。
定期試験：発達障害を有する児童生徒の障害特性や基本的な指導・支援、発達障害を有する児童生徒の学びの場などに関する知識等を活用し、教室において生じる実際的な課題に対してどのように対応するか、文献等を参照しながら自身の考えを記述するレポート課題に取り組む。

テキスト

① 発達障害支援者のための標準テキスト 幼児期から成人のアセスメントと支援のポイント(辻井正次、髙柳伸哉、金剛出版) ② 通常学級「自立活動」の発想による指導(つなぐ・つなげるインクルーシブ教育) (土居裕士、青山新吾)
参考書・参考資料等 ① 特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領(平成29年4月告示 文部省) ② 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説(平成30年3月 文科省) ③ 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(平成30年3月 文科省)
学生に対する評価 ① 小テスト 10% ② 講義内で課す模擬授業や演習課題 60% ③ レポート 20% ④ 毎回の講義で課すリアクションペーパー 10%

授業科目名： 道徳教育の指導法	教員の免許状取得のための 中学校：必修科目 高等学校：選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：飯塚秀彦 担当形態：単独

科　目	中学校：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、 教育相談等に関する科目教育実践に関する科目 高等学校：大学が独自に設定する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	中学校：道徳の理論及び指導法

授業のテーマ及び到達目標

・道徳教育の歴史及び道徳教育の意義について理解する。

・道徳教育及び「特別の教科　道徳」の目標、内容について理解する。

・「特別の教科　道徳」の特質を踏まえた学習指導過程（多様な方法をとりいれた学習指導を含む）及び学習評価の在り方を理解する。

・道徳教育を推進するために必要な指導計画の在り方について理解する。

授業の概要

昭和 33 年に特設された「道徳の時間」が、「特別の教科　道徳」（以下、「道徳科」）となった。道徳の「特別の教科」化に至るまでの中央教育審議会等でなされた議論、各種メディアや学会等での議論を手掛かりに、学校教育において道徳教育が果たす役割、道徳教育を展開する際の留意点などを考察する。その上で、道徳教育の要としての道徳科の学習指導と学習評価について、模擬授業とその授業研究を通して理解する。

授業計画

第１回：道徳とは何か？

問い：道徳教育で身に付ける資質・能力とは何か？

小中学校での道徳教育を振り返り、道徳教育では何を学び、どのような資質・能力を身に付けるのかを予想する。（教職課程コアカリキュラム　(1)－１））

第２回の問い：日本人の倫理観とは？

日本の倫理に関わる主な思想を概観し、日本人の倫理観の概略について理解する。（教職課程コアカリキュラム　(1)－１））

第３回の問い：道徳教育はどのように議論されてきたのか？

戦後の道徳教育をめぐる主な言説を基に、道徳教育の何が問題とされてきたのかを理解する。（教職課程コアカリキュラム　(1)－１）２））

第４回の問い：なぜ、道徳が教科化されたのか？

各種答申等を基に、道徳の教科化の背景やねらいについて理解する。（教職課程コアカリキュラム　(1)－２））

第５回の問い：「特別の教科　道徳」は、どのような目標になっているのか？

道徳の時間の目標との比較を基に、「特別の教科　道徳」の目標について理解する。（教職

課程コアカリキュラム　(1)ー３）４））

第６回の問い：「特別の教科　道徳」の内容とは何か？
　他の教科等の内容との比較を基に、「特別の教科　道徳」の内容の特質を理解する。（教職課程コアカリキュラム　(1)ー３）４））

第７回の問い：「特別の教科　道徳」の内容とは何か？
　内容項目毎の指導の観点の概略について理解する。（教職課程コアカリキュラム　(1)ー３）４））

第８回の問い：「特別の教科　道徳」の学習指導の特質は何か？
　他の教科等の学習指導過程との比較を基に、「特別の教科　道徳」の学習指導過程の特質を理解する。併せて、道徳科の特質を踏まえたICTの効果的な活用の仕方についても触れる。（教職課程コアカリキュラム　(2)ー３）４））

第９回の問い：「特別の教科　道徳」ではどのような学習指導が求められているのか？
　文部科学省の「道徳教育アーカイブ」の授業映像を基に、「特別の教科　道徳」における学習指導、特に中心発問と問い返しについて理解する。（教職課程コアカリキュラム　２ー２）３）４））

第１０回の問い：「特別の教科　道徳」ではどのような学習指導が求められているのか？
　文部科学省の「道徳教育アーカイブ」の授業映像を基に、問題解決的な学習及び道徳的行為に関する体験的な学習等を取り入れた学習指導について理解する。（教職課程コアカリキュラム　(2)ー２）３）４））

第１１回の問い：「特別の教科　道徳」の学習評価はどのように行うのか？
　他の教科等の学習評価との比較を基に、「特別の教科　道徳」の学習評価の在り方について理解する。（教職課程コアカリキュラム　(2)ー５））

第１２回：グループ毎に模擬授業を実施し、その振り返りを行う。その際、道徳科の特質を踏まえたICTの効果的な活用も含めることとする。（教職課程コアカリキュラム　(2)ー６））

第１３回：グループ毎に模擬授業を実施し、その振り返りを行う。その際、道徳科の特質を踏まえたICTの効果的な活用も含めることとする。（教職課程コアカリキュラム　(2)ー６））

第１４回：グループ毎に模擬授業を実施し、その振り返りを行う。その際、道徳科の特質を踏まえたICTの効果的な活用も含めることとする。（教職課程コアカリキュラム　(2)ー６））

第１５回の問い：学校の教育活動全体を通じた道徳教育は、どのように推進していくべきか？
　道徳教育の全体計画の作成上の留意点及び道徳教育推進教師の役割について理解する（高等学校における道徳教育の内容を含む）。（教職課程コアカリキュラム　(2)ー１））

テキスト
　文部科学省「中学校学習指導要領解説　総則編」
　文部科学省「高等学校学習指導要領解説　総則編」
　文部科学省「中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編」

参考書・参考資料等 文部科学省『中等教育資料』
学生に対する評価 毎授業時のリアクションペーパー　40% 「特別の教科　道徳」の学習指導案　30% 模擬授業実施後の振り返りレポート　30%

授業科目名:憲法	教員の免許状取得のための必修科目	単位数:2単位	担当教員名:野村 康春 担当形態:単独
科 目	教育職員免許法施工規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	日本国憲法		

授業のテーマ及び到達目標

(1) 日本国憲法における基本理念(立憲主義、国民主権、権力分立等)を理解する。

(2) 自らを取り巻く社会事象について、憲法の視点から考察する習慣を身につける。

(3) 公務員試験・教員採用試験受験志望者にとっては、法学の基礎的素養を身につけ、今後の発展的学習へと進むための橋渡しの機会となるようにする。

授業の概要

日本国憲法が示す諸権利、「法の支配」の在り方についての認識を深め、現代日本で生活する上での立憲主義や市民的法意識について考えるのが「憲法」である。

本講義では、明治憲法の内容や日本国憲法の制定過程について学び、日本国憲法がどのような時代的状況下で生まれたかを理解する。次いで、日本国憲法の基本的な条文・判例について学び、憲法についての基本的な知識や考え方を習得することを目的とする。具体的には、近年問題となっている外国人の人権を巡る議論や、民法上の非嫡出子、再婚禁止期間に関する最高裁判所の判断など、憲法をめぐる問題について考える。さらに、身近な問題やニュース・新聞などで報道される事件に対して、憲法に関する知識を使って問題点を認識する力を身につける学習をする。

授業計画

第1回:憲法と立憲主義 日本憲法史、権力分立と法の支配(テキスト第1章該当範囲)

学習方法のガイダンスを実施したのち、日本国憲法の全体像について解説する。

第2回:精神的自由権(1)信教の自由と政教分離原則(テキスト第10章該当範囲)

信教の自由と政教分離原則に関する判例を検討する。

第3回:精神的自由権(2)表現の自由(テキスト第11章該当範囲)

表現の自由の意義、表現の自由に対する規制の態様、二重の基準論について解説する。また、検閲・事前抑制に関する判例を検討する。

第4回:精神的自由権(3)表現の自由、学問の自由(テキスト第11章該当範囲)

表現の自由の続きとして、取材の自由、報道の自由、筆記行為の自由、集会・集団行動の自由に関する判例を検討する。また、学問の自由に関する判例を検討する。

第5回:経済的自由権 職業選択の自由、財産権(テキスト第12章該当範囲)

職業選択の自由(営業の自由)、居住移転の自由、国籍離脱の自由、財産権の意義について解説し、特に職業選択の自由と財産権に関する判例を検討する。

第6回:論述式課題の検討

第1回から第5回までの授業内で出題された、憲法上の問題を論じる論述式課題について、受講生が提出し

た答案の中から参考答案を複数選んで検討する。
予習：自身が提出した答案について、解答作成の上での疑問点や改善点を見つめ直して、リストを作成しておく。
第7回：社会権　生存権、教育を受ける権利、労働基本権（テキスト第14章該当範囲）
社会権と自由権の相違など概略を解説し、特に生存権、教育権の所在、公務員の労働基本権、労働組合に関する判例を検討する。
第8回：幸福追求権と法の下の平等（テキスト第15章該当範囲）
幸福追求権と法の下の平等について条文に即して通説的解釈を解説し、特にプライバシー権、肖像権、前科の公表に関する判例、並びに法の下の平等に関する判例を検討する。
第9回：基本的人権の原理　基本的人権の限界（テキスト第8章・第9章該当範囲）
基本的人権の性質、公共の福祉による制約について解説し、外国人・法人の人権に関する判例を検討する。また、憲法の私人間効力に関する判例を検討する。
予習：該当範囲を通読して疑問点を明らかにする。復習：授業でマークした箇所・板書した箇所を熟読し、説明できるようにする。
第10回：論述式課題の検討
第6回から第9回までの授業内で出題された、憲法上の問題を論じる論述式課題について、受講生が提出した答案の中から参考答案を複数選んで検討する。
予習：自身が提出した答案について、解答作成の上での疑問点や改善点を見つめ直して、リストを作成しておく。
第11回：統治機構（1）国会（テキスト第3章該当範囲）
国会及び議院の権能や議員の地位・特権について、主に条文を解説する。
第12回：統治機構（2）内閣（テキスト第4章該当範囲）
内閣及び内閣総理大臣の権能について条文を中心に解説し、国家行政組織や議院内閣制についても解説しつつ、行政法の基礎的理解につなげられるよう配慮する。
第13回：統治機構（3）裁判所（テキスト第5章該当範囲）
司法権の意義・範囲・限界、裁判所の権能、裁判官の独立について、条文に即して解説する。また、法律上の争訟、部分社会の法理に関する判例を検討するとともに、違憲審査権のあり方について、解釈論や判例を検討する。
第14回：論述式課題の検討
第10回から第14回までの授業内で出題した、憲法上の問題を論じる論述式課題について、受講生が提出した答案の中から参考答案を複数選んで検討する。
予習：自身が提出した答案について、解答作成の上での疑問点や改善点を見つめ直して、リストを作成しておく。
第15回：参政権（テキスト第2章該当範囲）
選挙権の意義・現行の選挙制度とその問題点を解説する。また、議員定数不均衡や公務員の政治活動に関す

る判例を検討する。
テキスト プレステップ憲法 開講時における最新版を使用 駒村圭吾／編 弘文堂（2021年出版）
参考書・参考資料等 特記事項なし
学生に対する評価 課題 100% ①毎回講義では課題を出題します。課題を1回提出するごとに基礎点2点を差し上げます（2点×15回＝30点）。課題提出はその回の出席確認を兼ねています。 ②憲法上の設例に1000字程度で解答する論述式課題を講義期間中合計3回出題します。 これらの課題については、問題への取り組み方や文章の構成、検討の深さなどを考慮して、0～30点を評価点として配点します（3回で合計70点）。 ③上記①と②を合計して成績評価します。 ④期末試験や期末レポートはありません。

授業科目名: スポーツ実技Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 1単位	担当教員名:高山 智史 担当形態:単独

科 目	教育職員免許法施工規則第66条の6に定める科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育

授業のテーマ及び到達目標

本授業では、生涯にわたり運動やスポーツを実践することができるようにするために、以下の目標を設定する。

・運動やスポーツを行う際の健康への配慮および安全の確保について理解している。

・運動やスポーツを実践する過程で捉えた自他の課題解決にむけて、具体的な方法を思考している。またこの方法を仲間とも共有するなどして練習に取り組み、基本的な技術を身に付けている。

・運動やスポーツへの関わり方を、社会の様々な課題や情勢等を踏まえて思考し、自身の考えを表現している。

・運動やスポーツについて、仲間と協力しながら、公正に実践するとともに、自身の役割を認識し、ゲーム等の運営に自主的に参画している。

授業の概要

身体面での健康づくりとしての体力の維持・向上と健康的習慣の獲得及び生涯に亘る心の健康づくりを学ぶのが「スポーツ実技Ⅰ」である。

スポーツを通じた直接的な身体的効果だけでなく、チームやグループでの活動を通じた他者との関わりから生まれる豊かな人間性の涵養、コミュニケーション力など社会的スキルの育成や心の健康にも目を向け、スポーツを共に楽しむ中で生まれるチームワークでの協働活動を目的とする。具体的にはパラスポーツを含んだ様々な種目の体験を通じ、生涯に亘る健康的な体力の維持・向上のための知識や習慣を獲得し、チームワーキングでのコミュニケーションや他者との協力の中から、心の健康維持のための社会的スキルを学ぶ。

授業計画

第1回:ガイダンス

※授業の目標と概要の説明(体育館等施設の利用方法、貴重品管理、安全上の留意点、服装、評価方法など)

第2回:準備体操、ストレッチング、体つくり運動(体ほぐしの運動)

第3回:ゴール型1(ハンドボール)

※基本技術の練習、ルールの解説、ゲーム

※スポンジボールを使用予定です。

第4回:ゴール型2(バスケットボール)

※基本技術の練習、ルールの解説、ハーフコートのゲーム（2対2、3対3）、オールコートのゲーム（5対5）

第5回：ゴール型3（フットサル）

※基本技術の練習、ルールの解説、ゲーム

第6回：ゴール型4（フラッグフットボール）

※基本技術の練習、ルールの解説、ゲーム

第7回：ネット型1（バレーボール）

※基本技術の練習、ルールの解説、ゲーム（バドミントンコート）

※軽量ボールやバドミントンコート用の支柱を使用予定ですが、用具の関係で正規ルールのバレーボールに変更する可能性があります。

第8回：ネット型2（ジャイアントバレーボール）

※基本技術の練習、ルールの解説、ゲーム（バレーボールコート）

※用具の関係で、前時に続いて試合回数を多くするバレーボールに変更する可能性があります。

第9回：ネット型3（バドミントン）

※基本技術の練習、ルールの解説、ゲーム（シングルス、ダブルス）

第10回：ネット型4（テニス）

※屋外で実施予定です。雨天時は、屋内で、小さなラケットとプラスチック製ボールを利用したピックルボール（または正規のラケットとスポンジボールを用いるショートテニス）を実施予定ですが、用具の関係で卓球に変更する可能性があります。

第11回：ネット型5（卓球）

※基本技術の練習、ルールの解説、ゲーム（シングルス、ダブルス）

第12回：ベースボール型1（ソフトボール）

※基本技術の練習、ルールの解説、ゲーム（ワンバウンドスタート、T ボール、ピッチャーの投球）

※天候に左右されない屋内で実施予定です。

第13回：ベースボール型2（ベースボール5）

※基本技術の練習、ルールの解説、ゲーム

※天候に左右されない屋内で実施予定です。

第14回：様々なスポーツ（選択制：ボッチャ、ユニホック、ドッヂビー、アルティメット）

※基本技術の練習、ルールの解説、ゲーム

※用具と会場規模により種目変更の可能性があります。

第15回：講義（ディスカッション）、レポート作成

※特定のテーマをもとに生涯スポーツの在り方を議論する機会とします。テーマについては、授業時に示します。このテーマをもとにレポートの作成と提出を求めます。

（テーマ案：部活動の意義、学校の体育授業のあり方、生涯に渡ってスポーツを続けるための促進要因と阻害要因、eスポーツと生涯スポーツの接点、バーチャルリアリティーと学校体育、気候変動とスポーツなどを想定） 定期試験は実施せず、レポート提出にかえます。
テキスト 特定のテキストは使用しません。必要に応じて、授業時に資料を配布します。
参考書・参考資料等 特定の指定図書（課題図書）は使用しません。
学生に対する評価 授業への参加状況を踏まえた意欲と態度（50%）、ミニレポート（20%）およびレポートの作成状況（30%）を総合的に判断して評価します。

授業科目名: スポーツ実技Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 1単位	担当教員名:高山 智史 担当形態:単独

科 目	教育職員免許法施工規則第66条の6に定める科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育

授業のテーマ及び到達目標

本授業では、生涯にわたり運動やスポーツを実践することができるようにするために、以下の目標を設定する。

・運動やスポーツを行う際の健康への配慮および安全の確保について理解している。

・運動やスポーツを実践する過程で捉えた自他の課題解決にむけて、具体的な方法を思考している。またこの方法を仲間とも共有するなどして練習に取り組み、基本的な技術を身に付けている。

・運動やスポーツへの関わり方を、社会の様々な課題や情勢等を踏まえて思考し、自身の考えを表現している。

・運動やスポーツについて、仲間と協力しながら、公正に実践するとともに、自身の役割を認識し、ゲーム等の運営に自主的に参画している。

授業の概要

身体面での健康づくりとしての体力の維持・向上と健康的習慣の獲得及び生涯に亘る心の健康づくりとしての学びを深めるのが、「スポーツ実技Ⅱ」である。

スポーツを通じた直接的な身体的効果だけでなく、チームやグループでの活動を通じた他者との関わりから生まれる豊かな人間性の涵養、コミュニケーション力など社会的スキルの育成や心の健康にも目を向け、スポーツを共に楽しむ中で生まれるチームワークでの協働活動を目的とする。具体的にはパラスポーツを含んだ様々な種目の体験を通じ、生涯に亘る健康的な体力の維持・向上のための知識や習慣を獲得し、チームワーキングでのコミュニケーションや協調性及びリーダーシップといった心の健康維持のための社会的スキルを学ぶ。

授業計画

第1回:ガイダンス

※授業の目標と概要の説明(体育館等施設の利用方法、貴重品管理、安全上の留意点、服装、評価方法など)

第2回:準備体操、ストレッチング、体つくり運動(体ほぐしの運動)

第3回:ゴール型1(ハンドボール)

※基本技術の練習、ルールの解説、ゲーム

※スポンジボールを使用予定です。

第4回:ゴール型2(バスケットボール)

※基本技術の練習、ルールの解説、ハーフコートのゲーム（2対2、3対3）、オールコートのゲーム（5対5）

第5回：ゴール型3（フットサル）

※基本技術の練習、ルールの解説、ゲーム

第6回：ゴール型4（フラッグフットボール）

※基本技術の練習、ルールの解説、ゲーム

第7回：ネット型1（バレーボール）

※基本技術の練習、ルールの解説、ゲーム（バドミントンコート）

※軽量ボールやバドミントンコート用の支柱を使用予定ですが、用具の関係で正規ルールのバレーボールに変更する可能性があります。

第8回：ネット型2（ジャイアントバレーボール）

※基本技術の練習、ルールの解説、ゲーム（バレーボールコート）

※用具の関係で、前時に続いて試合回数を多くするバレーボールに変更する可能性があります。

第9回：ネット型3（バドミントン）

※基本技術の練習、ルールの解説、ゲーム（シングルス、ダブルス）

第10回：ネット型4（テニス）

※屋外で実施予定です。雨天時は、屋内で、小さなラケットとプラスチック製ボールを利用したピックルボール（または正規のラケットとスポンジボールを用いるショートテニス）を実施予定ですが、用具の関係で卓球に変更する可能性があります。

第11回：ネット型5（卓球）

※基本技術の練習、ルールの解説、ゲーム（シングルス、ダブルス）

第12回：ベースボール型1（ソフトボール）

※基本技術の練習、ルールの解説、ゲーム（ワンバウンドスタート、T ボール、ピッチャーの投球）

※天候に左右されない屋内で実施予定です。

第13回：ベースボール型2（ベースボール5）

※基本技術の練習、ルールの解説、ゲーム

※天候に左右されない屋内で実施予定です。

第14回：様々なスポーツ（選択制：ボッチャ、ユニホック、ドッヂビー、アルティメット）

※基本技術の練習、ルールの解説、ゲーム

※用具と会場規模により種目変更の可能性があります。

第15回：講義（ディスカッション）、レポート作成

※特定のテーマをもとに生涯スポーツの在り方を議論する機会とします。テーマについては、授業時に示します。このテーマをもとにレポートの作成と提出を求めます。

（テーマ案：部活動の意義、学校の体育授業のあり方、生涯に渡ってスポーツを続けるための促進要因と阻害要因、eスポーツと生涯スポーツの接点、バーチャルリアリティーと学校体育、気候変動とスポーツなどを想定） 定期試験は実施せず、レポート提出にかえます。
テキスト 特定のテキストは使用しません。必要に応じて、授業時に資料を配布します。
参考書・参考資料等 特定の指定図書（課題図書）は使用しません。
学生に対する評価 授業への参加状況を踏まえた意欲と態度（50%）、ミニレポート（20%）およびレポートの作成状況（30%）を総合的に判断して評価します。

授業科目名: Integrated English Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名: 佐藤雄介、北村優子、SPRING、乾 みゆ紀、大森 美和、山浦かおる、河野 千絵、若林 敦、 担当形態: クラス分け・オムニバス

科 目	教育職員免許法施工規則第66条の6に定める科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション

授業のテーマ及び到達目標

授業のテーマ

身近な話題や、日本や外国の文化についての英文を読んだり聞いたりして、基礎的な表現を使用して自分の考えや意見を表現してみよう。

到達目標

1．基礎的な語句・文法を用いて、自分の考えや意見を書いたり、話したりできる。

2．平易な英語で表現されていれば、読んだり聞いたりして理解することができる。

3．授業で学んだ外国の文化について、日本の文化と比較して理解することできる。

授業の概要

英語の4技能（スピーキング、リスニング、ライティング、リーディング）を統合的に学習するのが「Integrated English Ⅰ」である。

本講義では、身近な話題について英語で理解したり、自分の考えを表現できるようにすることを目的とする。具体的には、身近な話題を扱った英語を読んだり聞いたりする中で、要点を理解したり、必要な情報を取りだす力を身につける。また、英語で理解したことについて、基礎的な英語表現を使用して、自分の感想や意見を書いたり、話したりすることができる力を身につける。

授業計画

第1回:イントロダクション 学習についての説明

第2回:Unit 1 Getting to know you Grammar (present, past and future tenses)

第3回:Unit 1 Getting to know you Asking questions, listening and speaking (my oldest friend)

第4回:Unit 1 Getting to know you Reading and speaking (a blind date)

第5回:Unit 1 Getting to know you Vocabulary (right word wrong word), everyday English (social expressions)

第6回:Unit 2 Whatever makes you happy Grammar (present tenses and have)

第7回:Unit 2 Whatever makes you happy Practice (talking about you), vocabulary and speaking (things I like doing)

第8回:Unit 2 Whatever makes you happy Reading and speaking (the happiness quiz)
第9回:Unit 2 Whatever makes you happy Listening and speaking (getting along with your neighbors), everyday English (making conversation)
第10回:Unit 3 What's in the news? Grammar (simple past and past continuous)
第11回:Unit 3 What's in the news? Practice (pronunciation), listening and speaking (the news)
第12回:Unit 3 What's in the news? Reading and speaking 1 (the flight attendant who lo st his cool)
第13回:Unit 3 What's in the news? Reading and speaking 2 (the flight attendant who lo st his cool)
第14回:Unit 3 What's in the news? Vocabulary (adverbs), everyday English (saying when)
第15回:Unit 4 Eat, drink, and be merry! Grammar (expressions of quantity)
第16回:Unit 4 Eat, drink, and be merry! Practice (discussing grammar, reading aloud)
第17回:Unit 4 Eat, drink, and be merry! Reading and listening 1 (unusual places to eat)
第18回:Unit 4 Eat, drink, and be merry! Reading and listening 2 (unusual places to eat)
第19回:Unit 4 Eat, drink, and be merry! Vocabulary and listening (a piece of...), everyda y English (Can you come over for dinner?)
第20回:Unit5 Looking forward Grammar (verb patterns)
第21回:Unit5 Looking forward Do you have any plans? Listening and speaking (How doe s it feel to be 20-something?)
第22回:Unit5 Looking forward Reading and speaking 1 (hope for the future)
第23回:Unit5 Looking forward Reading and speaking 2 (hope for the future)
第24回:Unit5 Looking forward Vocabulary and speaking (phrasal verbs-literal), everyday English (expressing doubt and certainty)
第25回:Unit6 The way I see it Tell me about her, practice (What's she like?), Grammar (comparatives and superlatives)
第26回:Unit6 The way I see it Practice (pronunciation), listening and speaking (my famil y)
第27回:Unit6 The way I see it Reading and speaking 1 (multicultural London)
第28回:Unit6 The way I see it Reading and speaking 2 (multicultural London)
第29回:Unit6 The way I see it Vocabulary (synonyms and antonyms), everyday English (What's happening?)
第30回まとめと振り返り
定期試験

テキスト American Headway 2 (Third Edition)
参考書･参考資料等 特記事項なし
学生に対する評価 定期試験60%　クイズ/小テスト15%　課題15%　その他(授業の参加度)10%

授業科目名： データサイエンス概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 飯田一朗、矢島 正男、 髙橋 雅夫
			担当形態：複数・クラス分け
科 目	教育職員免許法施工規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目		

授業のテーマ及び到達目標

① 今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身に付けることができる。

② 学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができる。

③ AI等の恩恵を不安なく自らの意志で享受し、これらを説明し、活用できる。

授業の概要

コンピュータ、情報通信、計測技術の飛躍的発展及びインターネットの社会への広範囲な浸透を背景に、日々膨大な量のビッグデータが産み出されている。AIを活用してこれらのビッグデータから新たな価値を創出することが、これからのデジタル社会の発展に不可欠なものとなっている。今後飛躍的に活用が進められるAIがもたらす恩恵を、不安なく自らの意思で享受・活用できるようにするため、デジタル社会の基礎知識・技能を学ぶのが「データサイエンス概論」である。

本講義では、データサイエンスに関する基礎的素養、いわゆるリテラシーレベルの知識・技能を修得することを目的とする。具体的には、社会においてデータやAIがどのように利活用されているか、データから何を読み取り、またどのように扱ったらよいかについて、データやAIを利活用する際の留意点、AIを実装する際に必要となるプログラミングの基礎についても演習を交えながら学習する。

授業計画

第1回：ガイダンス

授業の進め方とスケジュール

注意事項

第2回：イントロダクション：社会で起きている変化

1）ビッグデータ 2）検索エンジンとSNS、3）第4次産業革命、4）AIの驚異的発達 等

社会で活用されているデータ

1）データの種類、2）データの所有者、3）構造化データと非構造化データ

第3回：データとAIの活用領域

1）事業活動におけるデータ・AI活用の広がり、2）活用目的ごとのデータ・AI活用の広がり

データ・AI利活用のための技術

1）さまざまなデータ解析ー予測、2）さまざまなデータ解析ーグルーピングとクラスタリング、3）さまざまなデ

ータ解析ー発見
第4回：データ・AI活用の現場
1）データ分析による意思決定、2）情報技術による自動化、 3）データ分析・自動化の実際、4）組織的考慮点
データ・AI利活用の最新動向
第5回：データを読む
1）データの種類、2）データの分布と代表値、3）代表値の性質の違い、4）データのばらつき 等
データを説明する
1）データの表現、2）データの図解表現、3）データの比較、4）不適切なグラフ表現 等
第6回：データを扱う
1）表形式のデータ、2）データ解析ツール、3）SSDSEデータでの事例演習
第7回：データ・AIの留意事項
1）ELSI、2）一般データ保護規則：GDPR、3）十分性認定、4）AI倫理 5)データサイエンスにおけるセキュリティとプライバシー
第8回：データサイエンスを支える情報技術
①情報システムの歴史的経緯
コンピュータアーキテクチャ
基盤ソフトウェア（OS)とアプリケーション
第9回：データサイエンスを支える情報技術
①アプリケーション実行環境
②プログラミング言語
オブジェクト指向プログラミング
第10回：データサイエンスを支える情報技術
③インターネット
インターネットとOSの関係
④モバイルコンピューティングとIoT
スマートホンのアーキテクチャ
IoTとAIの融合データサイエンスを支える情報技術
第11回：データサイエンスを支える情報技術
⑤データベースとデータアクセス
リレーショナルデータベース
KVSと検索技術
第12回：データサイエンスを支える情報技術
⑥知識処理と機械学習
数理工学
エキスパートシステム

教師あり・教師なし学習 第13回：データサイエンスを支える情報技術 ⑦人工知能 ニューラルネットワークによるパターン認識の原理 深層学習・強化学習・転移学習 第14回：データサイエンスを支える情報技術 ⑧生成AIと人工知能の将来 自然言語処理 画像処理 人工生命 第15回：全体まとめ 期末試験（レポート課題） 定期試験
テキスト 教養としてのデータサイエンス 第2版 内田 誠一 他 講談社（2024年）
参考書・参考資料等 データサイエンス入門 第3版 竹村 彰通他 学術図書（2024年） データサイエンスはじめの一歩 佐久間 淳他 講談社（2024年） PythonによるAIプログラミング入門 Prateek Joshi オライリージャパン（2019年）
学生に対する評価 定期試験 70% 全授業終了後に提出されるデータサイエンスに関する最終レポートによって評価 レポート 25% 内容的な区切りに応じた理解確認問題を随時出題 レポートは全て提出が原則 その他 5% 授業への積極的な参加を評価（関心・意欲・態度の観点）

授業科目名： 教育学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：岡村　亮佑 担当形態：単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

授業のテーマ及び到達目標

（１）　教育・学校の歴史・思想についての基礎的知識を身につけている。

（２）　教育学の諸概念や代表的な教育家の思想、近代学校制度の成り立ちや教育の現代的課題を理解しており、そうした観点から教育学の文献を読み解くことができる。

（３）　現代の教育・学校をめぐる諸課題について、教育の歴史や教育思想の変遷を踏まえて多角的に考察することができる。

授業の概要

教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想においてそれらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解するのが「教育学概論」である。

本講義では、教育の基本的概念について、教育の制度、歴史、思想の観点から考察し、教育とは何かという問いに回答を示すことができるようになることを目的とする。具体的には、私たちにとってあまりにも自明となっている学校教育について、わが国及び諸外国における教育の歴史、思想、理念・制度といった観点からその意義を根本から問い直し、「令和の日本型学校教育」の在り方について理解を深める。

授業計画

第１回：教育・教育学とは何か

1)オリエンテーション、2)教育とは何か（教育・教化・形成、科学的エビデンスと教育思想）、4）人間はどのような存在か（人間に固有な教育という営み、人間一年早産説）（教職課程コアカリキュラム（1）-1）、（2）-1））

第２回：古代・中世の教育思想

1）ソクラテス（産婆術と不知の自覚）、2）プラトン（イデア論、洞窟の比喩）、3）アリストテレス（学問論）（教職課程コアカリキュラム（1）-1）、（2）-2）、（2）-3））

第３回：近代教育思想（1）

1）コメニウス（教授学、汎知学的思想）、2）ロック（タブラ・ラサ、観念連合）（教職課程コアカリキュラム（3）-1）、（3）-2）、（3）-3））

第４回：近代教育思想（2）

1)ルソー（子どもの発見、自然主義）、2）ペスタロッチ（メトーデと直観教授）、3）フレーベル（幼稚園教育学と恩物）（教職課程コアカリキュラム（3）-1）、（3）-2）、（3）-3））

第５回：近代学校の誕生と展開

1）近代学校の性格、2)公教育制度の成立、3）ヘルバルト派の教育思想（教育的教授、教育的タクト、ツィラー・ラインの五段階教授法）（教職課程コアカリキュラム（2）-2）、（3）-2）、（3）-3））

第６回：新教育運動

1）新教育運動、2)デューイ（経験論、デューイ・スクールの理論と実践）（教職課程コアカリキュラム（2）-2）、（3）-1、（3）-2）、（3）-3））

第７回：日本教育思想・実践（1）：日本における近代以前の人間形成と近代学校の成立

1）江戸期の教育（寺子屋、藩校、私塾）、2）明治期の教育（学制、近代学校の成立、教育勅語）（教職課程コアカリキュラム（1）-2）、（2）-1）、（2）-2））

第８回：日本教育思想・実践（2）：大正自由教育

1）教育の大衆化とエリート文化、2）八大教育主張、３）澤柳政太郎と成城小学校（教職課程コアカリキュラム（1）-2）、（2）-1）、（2）-2））

第９回：日本教育思想・実践（3）：皇国民錬成と戦後民主主義へ

1）国民学校と戦争、2）戦後復興と教師の反省（戦後新教育、戦後の教育改革、授業研究の誕生）（教職課程コアカリキュラム（1）-2）、（2）-1）、（2）-2））

第１０回：日本教育思想・実践（4）：戦後教育の光と影

1）高度経済成長期における教育の展開（系統学習、高卒当然社会の到来）、2）80年代以降の学校教育の諸問題（受験競争、非行と管理主義、いじめ問題）（教職課程コアカリキュラム（1）-2）、（2）-1）、（2）-3））

第１１回：日本教育思想・実践（5）：現代の教育

1）新自由主義による教育改革（臨時教育審議会、学校選択制）、2）近代学校を捉え返す視点（イリイチの脱学校論、フレイレの課題提起教育）（教職課程コアカリキュラム（1）-2）、（2）-1）、（2）-3））

第１２回：現代教育の論点（1）：情報化社会と教育

1）GIGAスクール構想と教育データ利活用、2）ICT活用の時代における教育学の役割（教職課程コアカリキュラム（1）-2）、（2）-1）、（2）-3））

第１３回：現代教育の論点（2）：揺らぐ公教育

1）現代の教育改革（2017年版学習指導要領、「未来の教室」構想、個別最適な学びと協働的な学びの推進）、2）現代の教育改革を捉え直す視点（教職課程コアカリキュラム（1）-2）、（2）-1）、（2）-3））

第１４回：現代教育の論点（3）：学校におけるケアと包摂

1）現代の不登校現象と学びの多様化学校の推進、2）外国にルーツのある子どもたちの学びとケア、3）フル・インクルーシブ教育（教職課程コアカリキュラム（1）-2）、（2）-1）、（2）-3））

第１５回：本授業のまとめ

1）再び教育とは何か（現代の教育をめぐる論点と課題についての考察）、2）教育学と教職のこれから（教育学・教職をめぐる研究動向と今後の展望）（教職課程コアカリキュラム（1）-1）、（2）-1

)、(2)-3))

テキスト

特に指定しない。必要に応じて教員より配布する。

参考書・参考資料等

・　神代健彦・後藤篤・横井夏子『これからの教育学』有斐閣、2023年。

・　今井康雄編『教育思想史』有斐閣、2009年。

学生に対する評価

毎時間のコメントカード（40%）、期末課題（60%）で評価する。コメントカードでは、教育・学校の歴史や思想に関する基礎的な知識を習得しているかどうかを確認する。期末課題では「現代教育への提言レポート」を作成してもらい、教育思想・制度の変遷や教育学の諸概念を踏まえながら教育の現代的課題について論じることができるかどうかを確認する。

授業科目名： 教職概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：飯塚　秀彦 担当形態：単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

・子供たちの多様化と社会の変化を基に、教職の社会的意義や教員に求められる資質・能力について理解する。

・教員の服務・身分上の義務、身分保障について理解している。

・個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じた、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、専門職として学び続けることの必要性について理解している。

・校内及び保護者、地域人材、専門家等と連携・協働することの重要性について理解している。

授業の概要

現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割、資質・能力、職務内容等について理解するとともに、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解するのが「教職概論」である。

本講義では、よりよい教員としての在り方についての考えを形成することに向けて、教員という職に係る課題について主体的に追究し、解決する活動を通して、教員としての資質・能力について理解するとともに、教員として必要な資質・能力を自ら養おうとする態度を身につけることを目的とする。具体的には、教室という空間で授業を行うという教員の役割を改めて問い直し、教職に携わる者に必要な資質・能力について考察することを通して、教員とはどのような職であるのかを明らかにする。

授業計画

第１回：教員に求められる資質・能力とは

問い：教員にはどのような資質・能力が求められているのだろうか？

これまでに出会ってきた教員や教職に関わる諸資料から、教員に求められる資質・能力の予想を立て、今後の学修への見通しをもつ。（教職課程コアカリキュラム　⑵－２））

第２回：職業としての教員

問い：他業種と比較した教員の職業的特徴とはなんだろうか？

他業種と比較した教員の職業的特徴を基に、教員に求められる資質・能力とその変遷について理解する。（教職課程コアカリキュラム　⑴－２）、⑵－１）２））

第３回：教職に係る法規①

問い：教員に係る法規にはどのようなものがあるのか？

教育の基本に関わる法律を基に、教員に求められる資質・能力について理解する。（教職課

程コアカリキュラム　(1)－１））

第４回：教職に係る法規②
　問い：教員に係る法規にはどのようなものがあるのか？
　教員の資格・免許に関する法律、職務・義務に関する法律を基に、教員の服務・身分上の義務や身分保障について理解する。（教職課程コアカリキュラム　(3)－２）３））

第５回：令和の日本型学校教育と教員①
　問い：令和の日本型学校教育とは何か？
　令和の日本型学校教育の総論について、審議関係資料及び答申関連資料から理解する。（教職課程コアカリキュラム　(2)－２）、(3)－１））

第６回：令和の日本型学校教育と教員②
　問い：令和の日本型学校教育とは何か？
　令和の日本型学校教育の各論について、審議関係資料及び答申関連資料から理解する。（教職課程コアカリキュラム　(2)－２）、(3)－１））

第７回：令和の日本型学校教育と教員③
　問い：令和の日本型学校教育を担う教師になるために、必要なこととは何か？
　「令和の日本型学校教育」をになう教師の養成・採用・研修等の在り方について（答申）を基に、教師に求められる資質・能力について理解する。（教職課程コアカリキュラム　(2)－２）、(3)－２））

第８回：チーム学校①
　問い：多様化、複雑化する教育課題に対して、教員はどのように対応したらよいのか？
　チーム学校が目指す学校教育の在り方を基に、教員としての専門性について理解する。（教職課程コアカリキュラム　(4)－１））

第９回：チーム学校②
　問い：コミュニティ・スクールとは何か？
　コミュニティ・スクールの理念を基に、そこで求められる教員の役割について理解する。（教職課程コアカリキュラム　(4)－１））

第１０回：教員の職務①
　問い：学級担任はどのような役割を担っているのだろうか？
　学級担任の一日、学期、年間に関わる業務を基に、学級担任が担う役割について、理解する。（教職課程コアカリキュラム　(2)－２）、(3)－１））

第１１回：教員の職務②
　問い：生徒指導、進路指導・キャリア教育における教員の役割とは？
　生徒指導、進路指導・キャリア教育の目的等を基に、それらにおける教員の役割について理解する。（教職課程コアカリキュラム　(2)－２）、(3)－１））

第１２回：現職教員へのインタビュー①
　問い：現場の先生は、教員としての価値をどこに見いだしているのだろうか？これまでの学修を踏まえ、現職教員への質問事項を検討する。（教職課程コアカリキュラム　(1)－１）、(2)

ー２）、⑶ー２））

第１３回：現職教員へのインタビュー②
　問い：現場の先生は、教員としての価値をどこに見いだしているのだろうか？
　現職教員へのインタビュー内容をまとめ、発表する。（教職課程コアカリキュラム　⑴ー１）、⑵ー２）、⑶ー２））

第１４回：教員育成指標
　問い：教員になってからの研修体制はどのようになっているのだろうか？
　出身自治体の教員育成指標を基に、教員研修がどのように実施されているのかを理解する。（教職課程コアカリキュラム　⑵ー２）、⑶ー２））

第１５回：教員としての資質・能力を身に付けるための学修計画を立てる
　問い：教員として必要な資質・能力をどのように身に付けるか？
　出身都道府県が定める教員育成指標等を基に、長野大学の２年次以降の学修の計画を立てる。（教職課程コアカリキュラム　⑵ー２）、⑶ー２））

テキスト
　佐久間裕之『教職概論』（玉川大学出版部、2021）

参考書・参考資料等
　中央教育審議会の各種答申等

学生に対する評価
　毎授業時のリアクションペーパー　40%
　現職教員へのインタビューに関するまとめレポート　40%
　長野大学２年時以降の学習計画　20%

授業科目名： 教育制度・経営	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：荒井　英治郎 担当形態：単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

本授業では、教育に関する制度的・経営的事項に着目しながら、教育制度改革の諸動向と論争点・課題を理解し、教育改革の理論（理念）と実際（現実）を読み解く資質を修得することを目的とする。具体的には、教育実践に関する教育法規の知識として、日本の教育制度の法的構造、現行制度の概要、法制度の運用上の留意点を確認しながら、教育制度と教育実践との関係を具体的に理解するものとする。

授業の概要

現代の学校教育に関する社会的、制度的又は経営的事項について、基礎的な知識を身につけるとともに、それらに関連する課題を理解する。なお、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識を身につけるのが「教育制度・経営」である。

本講義では、教育に関する社会的、制度的・経営的事項に着目しながら、教育制度改革の諸動向と論争点・課題を理解し、教育改革の理論（理念）と実際（現実）を読み解く資質を修得することを目的とする。具体的には、教育実践に関する教育法規の知識として、日本の教育制度の法的構造、現行制度の概要、法制度の運用上の留意点を確認しながら、教育制度と教育実践との関係を具体的に理解するものとする。

授業計画

第１回：オリエンテーション、社会環境の変化と教育・子育てと福祉（人口減少社会の到来、学校・家庭・地域の役割分担、子どもが抱える課題の複雑化・困難化など）（教職課程コアカリキュラム（Ⅰ－２）－２））

第２回：現代日本の教育課題と教育政策過程（学力・学習意欲・自己肯定感、教育政策の決定過程、教育政策の諸動向など）（教職課程コアカリキュラム（Ⅰ－２）－２）３）４））

第３回：公教育の原理・理念と構造（産業革命と近代国民国家の誕生、近代公教育の原則：義務性、無償性、中立性、就学義務と就学援助など）（教職課程コアカリキュラム（Ⅰ－２）－２））

第４回：公教育制度と教育基本法の改正（教育基本法改正、教育関係法規の改正動向など）（教職課程コアカリキュラム（Ⅰ－２）－２））

第５回：中央教育行政制度の改革（政治主導型教育改革、文部科学省・中央教育審議会、義務教育の構造改革、義務教育費国庫負担制度、県費負担教職員制度、教育振興基本計画、中央・地方関係の変化など）。（教職課程コアカリキュラム（Ⅰ－２）－３）４））

第６回：地方教育行政制度の改革（教育委員会制度の改革動向、総合教育会議と教育大綱、設置者管理・負担主義、学校管理規則、指導主事制度と学校支援など）（教職課程コアカリキュラム（Ⅰ－２

）－3）4）） 第7回：学校経営・学級経営と学校評価制度（学校組織マネジメント、学級編制と教職員定数、校務分掌と主任制度・「新しい職」、職員会議の法的位置付け、自己評価・学校関係者評価・第三者評価など）（教職課程コアカリキュラム（1－3）－1）2）3）4）） 第8回：教職員制度の改革（教職の特殊性、教員の資質・能力の向上、免許更新制度、養成・採用・研修の制度、教職員の研修体系、教職大学院制度など）（教職課程コアカリキュラム（1－3）－2） 第9回：学校関係者の働き方改革（教員の多忙化と業務改善、服務義務・処分、人事評価制度、メンタルヘルス、「チーム学校」論、学校事務職員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・部活動指導員など）（教職課程コアカリキュラム（1－3）－4）） 第10回：学校・家庭・地域の連携協力（開かれた学校づくり、家庭教育支援チーム、学校評議員、学校運営協議会、放課後子供教室、学校支援ボランティア、学校支援地域本部、地域学校協働本部、地域未来塾、コミュニティ・スクールなど）（教職課程コアカリキュラム（1－3）－2）4）、（2）－1）2）） 第11回：教育内容・教科書をめぐる制度改革（教育課程と学習指導要領の改訂、教科書と補助教材、教科書検定・採択制度など）（教職課程コアカリキュラム（1－3）－4）、（2）－1）2）、（3）－1）2）） 第12回：学校健康教育の現状と課題（学校安全：災害安全・交通安全・生活安全、学校保健計画、健康診断、感染症予防、学校安全計画と学校事故、災害共済給付、学校給食とアレルギー対応など） 第13回：子どもをめぐる法的対応（いじめ対策、不登校支援、児童虐待防止、少年法制、懲戒と体罰、出席停止、指導要録など）（教職課程コアカリキュラム（（2）－1）2）、（3）－1）2）） 第14回：多様な学びとセーフティ・ネット（フリー・スクール、夜間学級、性の多様性・外国人児童生徒への対応、子どもの貧困対策など）（教職課程コアカリキュラム（（2）－1）2）） 第15回：教育制度改革の動向と制度構想（信州型コミュニティ・スクールの現状と課題、教育の自由化・市場化・民営化、教育改革の国際比較）（教職課程コアカリキュラム（（2）－1）2）） 定期試験
テキスト 『新版　教育と法のフロンティア』伊藤良高・中谷彪・大津尚志編　晃洋書房2020年出版 『ポケット教育小六法』教育フロンティア研究会編　晃洋書房2025年出版
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 レポート　50% ①教育を主とした制度の構造や制定経緯を概括することができるか ②教育制度の特徴及び法解釈をめぐる議論を概括することができるか

③制度改革に対する自身の見解と展望を論じることができるか
・①から③のうち、全て満たしていたら「卓越している」ないし「かなり上にある」
・①から③のうち2項目を満たしていれば「やや上にある」
・①から③のうち1項目を満たしていれば「水準にある」

その他　50%
リフレクションペーパー（動画を視聴した上で、自分が考えたこと、考えてみたいことなどを記載し、毎回提出してください）

授業科目名： 教育心理学 （教育・学校心理学）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐藤　修哉 担当形態：単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

授業のテーマ及び到達目標

①人間の発達について，理論的背景を踏まえて説明できる。

②発達に関する理論を，発達臨床的な観点から具体的な臨床像を踏まえて具体的に理解している。

③学習を支える諸理論を説明することができ，それらを踏まえた効果的な学習指導の方法を理解している

④学校における適応について，実際に存在する諸課題及びその背景を理解し，説明することができる

授業の概要

幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解するのが「教育心理学（教育・学校心理学）」である。

本講義では、人間の発達について理論的背景を踏まえて説明できること、発達に関する理論を発達臨床的な観点から具体的な臨床像を踏まえて具体的に理解することを目的とする。具体的には、主として発達理論、学校における適応、教授学習過程を取り上げ、教育に関連する心理学の理論を学ぶことを通して、心理専門職や教職に就く者にとって必要な知識や考え方の獲得を目指す。

授業計画

第１回：オリエンテーション

第２回：発達の理論①－遺伝と環境の観点から人間の発達を考える（教職課程コアカリキュラム（１）－１））

第３回：発達の理論②－ピアジェ，エリクソン，ヴィゴツキーを取り上げ，それぞれの理論を学ぶ（教職課程コアカリキュラム（１）－１））

第４回：愛着–アタッチメントの形成に関する諸理論を学ぶ（教職課程コアカリキュラム（１）－２））

第５回：条件づけ－レスポンデント条件づけとオペラント条件づけを学ぶ（教職課程コアカリキュラム（２）－１））

第６回：記憶－学習を支える記憶のメカニズムと忘却について学ぶ（教職課程コアカリキュラム（２）－１））

第７回：動機づけ－内発的動機づけと外発的動機づけ，自己効力感，マズローの欲求階層説，原因帰

属，学習性無力感について理解する（教職課程コアカリキュラム（２）－１）２）３）） 第８回：知能と学力－知能とは何かについて理解を深め，学力との関連について考える（教職課程コアカリキュラム（２）－１）２）） 第９回：学習理論と授業実践－ここまでの講義の内容に加え，適性処遇交互作用の観点も踏まえ，効果的な授業実践について考える（教職課程コアカリキュラム（２）－３）） 第１０回：パーソナリティ理論－類型論や特性論，その他の代表的なパーソナリティ理論について学ぶ（教職課程コアカリキュラム（１）－２）） 第１１回：学級の心理－学級という集団の特徴や，学級において顕現する集団心理について理解を深める（教職課程コアカリキュラム（２）－２）） 第１２回：教育評価－教育評価の信頼性と妥当性や，相対評価と絶対評価について学習指導要領を参照しつつ考える 第１３回：特別支援教育－現在の特別支援教育の概要及び歴史的経緯を学び，さまざまな障害について概要を理解する 第１４回：教育心理学の研究法－観察法や調査法，テスト法，事例研究法等について学ぶ（教職課程コアカリキュラム（１）－１）） 第１５回：まとめ 定期試験
テキスト なし
参考書・参考資料等 やさしい教育心理学　第5版　鎌原雅彦・竹綱誠一郎　有斐閣　2019 教育心理学　松原達也編　丸善出版　2013 現代心理学シリーズ3　学習の心理学　今田寛　培風館　1996 ベーシック現代心理学6　教育心理学　第3版　子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司　有斐閣　2015
学生に対する評価 定期試験　40% 小テスト　60%　授業内で行う毎回の小テスト（各回3点～5点の範囲）

授業科目名： 特別支援教育概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：丹野　傑史 担当形態：単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		

授業のテーマ及び到達目標

＜到達目標＞

・インクルーシブ教育制度を含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組み、「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。

・発達障害を含む特別の支援を必要とする幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解することができる。

・発達障害を含む特別の支援を必要とする幼児児童生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解し、支援の方法について例示することができる。

・個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解するとともに、家庭および関係機関との連携の重要性について理解している。

・通常学級に在籍する様々な支援を必要とする児童生徒の実態について理解し、ユニバーサルな教室環境の構築や他機関との効果的な連携について理解している。

授業の概要

発達障害等の様々な障害、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難を理解し、個別最適な学びを実現するために必要な指導・支援方法について理解するのが「特別支援教育概論」である。

本講義では、わが国の特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解するとともに、発達障害を含む特別の支援を必要とする児童生徒の心身の発達及び学習上または生活上の困難を把握し、児童生徒に対する指導や支援を提案できることを目的とする。具体的には、個別最適な学びの在り方について教室のユニバーサルデザインの観点から検討する一方で、個々の児童生徒の障害や障害に基づく学習上又は生活上の困難について自立活動の観点から実態を把握し指導支援につなげるための方略を学び、誰一人取り残さない教室の在り方について考究する。

授業計画

第１回：講義オリエンテーション、特別支援教育を取り巻く最新事情

【概要】①なぜ、中高の教員養成課程において特別支援教育が必要なのか、最新の文部科学省・中央教育審議会答申等を踏まえて解説する（教職課程コアカリキュラム（1）-1））。

②今日の子どもたちを取り巻く環境について、貧困家庭や日本語を充分に話すことができない外国籍の児童等の増加の現状、なぜ彼らに対して学校が特別の支援を考える必要があるかについて、文部科学省だけでなく厚生労働省やこども家庭庁の資料等を交えて解説する（教職課程コアカリキュラム（3）-1））。

第２回：特別支援教育の制度（１）特別支援教育の理念・制度・歴史

【概要】①戦後日本の障害児教育の歴史を概括し、特に「就学」を軸に通常学校における特別支援教育の現状について解説する（教職課程コアカリキュラム（1）-1）、（2）-2））

②学習指導要領総則で定められている「児童生徒の発達の支援」の対象（障害のある生徒・帰国生徒や日本語習得に困難のある生徒・不登校生徒・学齢を経過した生徒）と支援の在り方について、中学校学習指導要領第1章総則第4を例に解説する（教職課程コアカリキュラム（1）-1）、（2）-2）、(3)-1））。

第３回：特別支援教育の制度（２）教育課程

【概要】①障害のある児童生徒に対する教育課程について、特別支援学級、通級指導の教育課程編制の基本的な考え方、学習指導要領上の位置づけについて解説する（教職課程コアカリキュラム（1）-1））。

②学校教育法施行規則第53条から第56条に定められている、特別の教育課程の趣旨とその実施事例について紹介する（教職課程コアカリキュラム（3）-1））。

第４回：特別支援教育の対象となる児童生徒の理解（１）身体障害、知的障害の理解と支援

【概要】身体障害児、知的障害児の病理・心理を理解するとともに、障害に基づく学習上又は生活上の困難、支援のポイント等について解説する（教職課程コアカリキュラム（1）-3））。

第５回：特別支援教育の対象となる児童生徒の理解（２）発達障害の理解と支援

【概要】発達障害に関する基本的な理解をするとともに、通常学級や特別支援学級等に在籍する特別な教育的ニーズを抱える児童生 徒の学習上又は生活上の困難、支援のポイント等について解説する（教職課程コアカリキュラム（1）-2）、（2）-1））。

第６回：通常学級における指導・支援・配慮（１）教育のユニバーサルデザイン

【概要】実際の授業場面を想定し、特別な教育的ニーズのある児童生徒への指導・支援の在り方について事例検討を行う。具体的には、各教科指導法や第4/5回講義資料および第6回講義資料や解説動画を活用した反転学習形式により、授業の各場面において「誰に」「何のため」「どのような」支援を展開できるか個別あるいはグループにより検討する（教職課程コアカリキュラム（1）-1）、（2）-1）、（3）-1））。

第７回：通常学級における指導・支援・配慮（２）援助要請と合理的配慮

【概要】様々な困り感を抱える児童生徒にとって、教室が安全・安心な学びの場であるために援助要請の在り方や円滑な合理的配慮の在り方について演習を通じて学ぶ。具体的には、合理的配慮としての基礎的環境整備として何が提供できるか、援助要請を円滑に行うためにはどのような教室運営が必要なのか、こちらが提示する実際の学級を想定した課題解決型学習による演習を行う（教職課程コアカリキュラム（1）-2）、（2）-1）、（2）-4））。

第８回：講義中間まとめ

【概要】第7回までの講義のまとめと振り返り（特に第6回、第7回の演習の振り返り）を行いつつ、学生の疑問や質問に応える。

第９回：自立活動（１）自立活動の基礎・基本

【概要】自立活動の目標、理念について解説する（教職課程コアカリキュラム（２）-2））。

第１０回：自立活動（２）自立活動の進め方

【概要】自立活動の進め方について、個別の指導計画作成プロセスを基軸に解説する（教職課程コアカリキュラム（2）-2））。

第１１回：自立活動（３）個別の指導計画・個別の教育支援計画

【概要】①自立活動を支える個別の指導計画、個別の教育支援計画について解説する（教職課程コアカリキュラム（2）-2）、3）、4））。

②個別の指導計画や個別の教育支援計画を活用した外部との連携の実際について、発達障害のある児童生徒および障害はないが他機関と連携した事例について、紹介する（教職課程コアカリキュラム（2）-4）、(3)-1）。

第１２回：自立活動（４）自立活動の実際

【概要】第9回から第11回の講義内容を踏まえ、実際に実態把握から指導すべき課題の析出について演習を実施する。具体的には、課題提示資料及び児童の動画を視聴し、グループワークにより実態把握を行う（教職課程コアカリキュラム（2）-3））。

第１３回：通常学校における特別支援教育の現状と課題（１）通常学級、通級による指導、特別支援学級における自立活動の実際と課題

【概要】自立活動の実際について、実例や先行研究を紹介する。

第１４回：通常学校における特別支援教育の現状と課題（２）キャリア教育・医療的ケア

【概要】特別支援教育の視点からの通常学級・学校におけるキャリア教育・医療的ケアの在り方と課題について解説する（教職課程コアカリキュラム（1）-1）、（2）-4））。

第１５回：通常学校における特別支援教育の現状と課題（３）ICT機器の活用と個別最適な学び、講義のまとめ

【概要】個別最適な学びを実現するためのICT機器の活用について解説する。

①発達障害児童生徒によるタブレットを活用した学習とその成果

②外国籍児童生徒に対する音声認識アプリや日本語学習ソフトの活用

③不登校生徒に対するオンラインを活用した学習支援

テキスト

① MINERVAはじめて学ぶ教職 18　特別支援教育（小林秀之・米田宏樹・安藤隆男編著、ミネルヴァ書房）

② 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（平成30年3月、文部科学省）

参考書・参考資料等

① 特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示　文部科学省）

② 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（平成30年3月　文部科学省）

③ 中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年3月告示　文部科学省）

④　高等学校学習指導要領解説　総則編（平成30年3月告示　文部科学省）
学生に対する評価 ①　小テスト　10% ②　講義内で実施する演習課題　60% ③　レポート　20% ④　毎回の講義で課すリアクションペーパー　10%

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：岡村　亮佑 担当形態：単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

（１）教育課程論に関する基礎的な知識を習得している。

（２）教育課程論における知識やスキル、検討すべき論点を踏まえて、実際に教育課程編成や単元設計を行うことができる。

（３）カリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解し、教科・領域・学年をまたいで学校教育課程全体をマネジメントする方法を把握している。

授業の概要

学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解するのが「教育課程論」である。

本講義では、学習指導要領の趣旨・目指す方向性を確実に理解し、教育課程編成の基準、編成・実施等の基本的理論への理解を深めるとともに、カリキュラム開発を行う際の実践上のポイントやカリキュラム評価を行う際の視点を理解し、学校経営及び学級担任の視点からカリキュラム・マネジメントをどう進めるかを説明できるようにすることを目的とする。具体的には、中等教育における教育課程の意義を学習指導要領との関係から理解できるようにするとともに、近年の教育改革の動向と学校現場の状況を理解し、カリキュラム開発やカリキュラム・マネジメントなど基本的な理論について学習する。

授業計画

第１回：教育課程（カリキュラム）とは何か

1）オリエンテーション　2）教育課程とカリキュラム　3）カリキュラムの階層性（教職課程コアカリキュラム（1）-1）、（1）-3））

第２回：経験主義のカリキュラム

1）経験主義の教育課程編成原理（J.デューイ、コア・カリキュラム論）　2）経験主義教育の実践例（きのくに子どもの村学園など）（教職課程コアカリキュラム（2）-1）、（2）-２））

第３回：系統主義のカリキュラム

1）系統主義の教育課程編成原理（J.S.ブルーナー、教育内容の現代化）　2）系統主義教育の実践例（水道方式やキミ子方式など）（教職課程コアカリキュラム（2）-1）、（2）-２））

第４回：学習指導要領の変遷（Ⅰ）

1）明治～昭和初期の学校教育　2）1947・51年版学習指導要領　3）1958・68年版学習指導要

領（教職課程コアカリキュラム（1）-1）、（1）-２））
第５回：学習指導要領の変遷（Ⅱ）
1）1977年版学習指導要領　2）　1989年版学習指導要領　3）　1998年版学習指導要領（教職課程コアカリキュラム（1）-1）、（1）-２））
第６回：学習指導要領の変遷（Ⅲ）
1）2008年版学習指導要領　2）2017年版学習指導要領（教職課程コアカリキュラム（1）-1）、（1）-２）、（3）-1））
第７回：カリキュラムと教育目標
1）行動目標論（タイラー原理）　2）教育目標の分類学（ブルーム・タキソノミー）　3）高次の教育目標（改訂版タキソノミー）（教職課程コアカリキュラム（2）-1）、（2）-2）、（2）-3））
第８回：カリキュラムと教育評価
1）教育評価とは何か　2）教育評価の立場（認定評価、相対評価、目標に準拠した評価、個人内評価）　3）真正の評価論　4）情意領域の評価（教職課程コアカリキュラム（2）-1）、（2）-2）、（2）-3）、（3）-2））
第９回：カリキュラムと授業づくり
1）「逆向き設計」論とパフォーマンス評価（教職課程コアカリキュラム（2）-1）、（2）-2）（2）-3）、（3）-2））
第１０回：カリキュラム・デザイン演習（Ⅰ）
1）期末課題「特設科目の構想と単元設計」の提示・演習（教職課程コアカリキュラム（2）-1）、（2）-2）（2）-3））
第１１回：カリキュラム・マネジメント（Ⅰ）
1）カリキュラム・マネジメントの概念と意義　2）学校に基礎を置くカリキュラム開発　3）社会に開かれた教育課程（教職課程コアカリキュラム（1）-3）、（2）-3）（3）-1））
第１２回：カリキュラム・マネジメント（Ⅱ）
1）カリキュラムの領域論　2）総合学習や教科横断的な学習におけるカリキュラム開発（教職課程コアカリキュラム（1）-3）、（2）-3）（3）-1））
第１３回：カリキュラムの社会学
1）隠れたカリキュラム　2）近代学校批判（P.フレイレ、I.イリイチなど）（教職課程コアカリキュラム（1）-3）、（2）-3））
第１４回：カリキュラム・デザイン演習（Ⅱ）
1）小試験　2）期末課題の相互検討会　（教職課程コアカリキュラム（2）-1）、（2）-2）（2）-3））
第１５回：本授業のまとめ
1）期末課題に対する教員からのフィードバック　2）15回分の授業の振り返りとまとめ

テキスト

・　文部科学省『中学校学習指導要領』（平成 29 年告示）。

・　文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成 30 年告示）。

参考書・参考資料等

・　田中耕治編『よくわかる教育課程（第 2 版）』ミネルヴァ書房、2018 年。

・　西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計：パフォーマンス評価をどう活かすか』図書文化、2016 年。

学生に対する評価

一問一答式の小試験（20%）、毎時間のコメントカード（20%）、期末課題（60%）で評価する。小試験やコメントカードでは、教育課程に関する基礎的な知識を習得しているかどうかを確認する。期末課題では「特設科目の構想と単元設計」を実践してもらい、教育課程論の論点を踏まえながら実際に教育課程編成が実施できるかどうかを確認する。

授業科目名： 特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：早坂　淳 担当形態：単独

科　目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導教育相談に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・総合的な学習（探究）の時間の指導法 ・特別活動の指導法

授業のテーマ及び到達目標

この授業では，教育課程において子どもたちに育まれるべき力を総合的に活用して，様々な事柄を多様な角度から捉え直し，実社会・実生活の課題を探究する学びの実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付けること，および学校教育全体における特別活動の意義を理解し，学年の違いによる活動の変化，各教科等との往還的な関連，地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付けることを到達目標に設定します。

授業の概要

各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するための学習指導について理解するとともに、学校教育全体における特別活動の意義を理解し、各教科等との往還的な関連や組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身につけるのが「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」である。

本講義では、特別活動、総合的な学習の時間といった各教科横断的な学びの在り方と指導方法について学ぶことを目的とする。具体的には、「総合的な学習の時間の指導法」として子どもたちに探究的な見方・考え方の重要性に気付かせ、教科横断的で総合的な学習を行うことを通して、実社会における課題を解決し、それを通して自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。また、「特別活動の指導法」としては、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して行われる多様な活動の在り方について考究する。

授業計画

第１回：総合的な学習の時間の意義（教職課程コアカリキュラム（総合）（１）－１））
第２回：総合的な学習の時間の目標（教職課程コアカリキュラム（総合）（１）－１）２））
第３回：総合的な学習の時間の内容（教職課程コアカリキュラム（総合）（１）－１）２）、（２）－１））
第４回：総合的な学習の時間の年間指導計画の策定と事例の検討（教職課程コアカリキュラム（総合）（１）－２）、（２）－１））
第５回：総合的な学習の時間の単元計画と事例の検討（教職課程コアカリキュラム（総合）（２）－１）２））
第６回：総合的な学習の時間における「アクティブ・ラーニング」（教職課程コアカリキュラム（総合）（２）－２）、（３）－１）２））
第７回：総合的な学習の時間における「探究的な学習の過程」とその方法論（教職課程コアカリキュラム（総合）（２）－２）、（３）－１）２））
第８回：総合的な学習の時間における教育評価のあり方（教職課程コアカリキュラム（総合）

（２）－２）、（３）－１）２））
第９回：教育課程における特別活動の位置づけ並びにその目標（教職課程コアカリキュラム（特活）（１）－１）２）３）４））
第１０回：教育課程における特別活動と各教科との関連（教職課程コアカリキュラム（特活）（１）－１）２）３）、（２）－１））
第１１回：特別活動の具体的な内容①　―学級活動，ＨＲ活動を中心に―（教職課程コアカリキュラム（特活）（１）－２）３））
第１２回：特別活動の具体的な内容②　―生徒会活動，クラブ活動を中心に―（教職課程コアカリキュラム（特活）（１）－３）４））
第１３回：特別活動の具体的な内容③　―学校行事を中心に―（教職課程コアカリキュラム（特活）（１）－４）、（２）－１））
第１４回：特別活動の指導とその評価（教職課程コアカリキュラム（特活）（２）－１）２）３）４））
第１５回：特別活動と地域学校協働活動（教職課程コアカリキュラム（特活）（２）－３）４））
定期試験：レポートを課す。レポートの評価基準・規準は，①論理的に書ける（25 点），②根拠を持って書ける（25 点），③説得的に書ける（25 点），④形式（文字数，出典情報の示し方，章・説の見出しの示し方等）に従って書ける（25 点）

テキスト
①中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）
②中学校学習指導要領解説総則編（平成 29 年 7 月文部科学省）
③中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編（平成 29 年 7 月文部科学省）
④中学校学習指導要領解説特別活動編（平成 29 年 7 月文部科学省）
⑤高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示文部科学省）
⑥高等学校学習指導要領解説　総則編（平成 30 年 7 月文部科学省）
⑦高等学校学習指導要領解説　特別活動編（平成 30 年 7 月文部科学省）
⑧高等学校学習指導要領解説　総合的な探究の時間編（平成 30 年 7 月文部科学省）
⑨学校教育のカリキュラムと方法（大高泉・田中耕司編著、協同出版）

参考書・参考資料等
授業中に指示します

学生に対する評価
定期試験（レポート）40%，授業中／授業外に課せられる簡易レポート 30%，授業への積極的な参加姿勢 30%

授業科目名： 教育の方法及び情報通信技術を活用した指導法	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：早坂　淳 担当形態：単独
科　目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導教育相談に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		

授業のテーマ及び到達目標

この授業では，①教育の方法論，②教育の技術，③情報機器及び教材の活用の三つの領域について，これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な基礎的・基本的な知識・技能，思考・判断・表現力を身に着け，学びに向かう人間性の育成を図る。

授業の概要

情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身につけるのが「教育の方法及び情報通信機器を活用した指導法」である。

本講義では、情報通信技術の活用の意義と理論、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解し、児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための基礎的な指導法を身につけることを目的とする。具体的には、①教育の方法論、②教育の技術、③情報機器及び教材の活用の三つの領域について、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な基礎的・基本的な知識・技能、思考・判断・表現力を身に付け、学びに向かう力、人間性の育成を図る。

ICT 機器については，GIGA スクール構想によって各校に配備されたタブレット端末（iPad, Google Chrome Book 等）をハードウェアとして想定し，Google for Education で活用可能なアプリケーションおよびその他（ロイロノート等）の教育活用について授業を展開する上で必要最低限のスキルの獲得を目指す。

授業計画

第１回：教育方法の基礎的理論と実践①－これまで受けてきた授業の批判的考察－（教職課程コアカリキュラム（教育方法）（１）－１）２）３））

第２回：教育方法の基礎的理論と実践②－教育思想と教育方法－（教職課程コアカリキュラム（教育方法）（１）－１）３））

第３回：教育方法の基礎的理論と実践③－戦後の学習指導過程の変遷－（教職課程コアカリキュラム（教育方法）（１）－１））

第４回：教育方法の基礎的理論と実践④－主体的・対話的で深い学びの実現－（教職課程コアカリキュラム（教育方法）（１）－２））

第５回：教育の技術①－基礎的な学習指導理論（教育方法）を踏まえた指導技術の基礎－（教職課程コアカリキュラム（教育方法）（１）－４）、（２）－１）２））

第６回：教育の技術②－学習評価①：評価の三類型と真正な評価－（教職課程コアカリキュラム（教育方法）（１）－４）、（２）－１）２））

第７回：教育の技術③－学習評価②：ルーブリックやポートフォリオ評価－（教職課程コア

カリキュラム（教育方法）（Ⅰ）－４）、（２）２））
第８回：情報機器及び教材の活用①－情報機器を活用した学校教育の現在－（教職課程コアカリキュラム（情報通信技術）（Ⅰ）－Ⅰ）２）３）、（２）－３））
第９回：情報機器及び教材の活用②－子どもの特性に合わせた効果的な教材等の作成・提示と子どもの興味関心を高める学習内容と学習問題－（教職課程コアカリキュラム（情報通信技術）（Ⅰ）－Ⅰ）２）、（２）－Ⅰ）２））
第１０回：情報機器及び教材の活用③－情報活用能力と情報モラルの育成および情報セキュリティー（教職課程コアカリキュラム（情報通信技術）（２）－２）、（３）－Ⅰ）２））
第１１回：情報機器及び教材の活用④－情報機器（タブレット端末及びデジタル教科書）とアナログ教材の組合せ方－（教職課程コアカリキュラム（情報通信技術）（２）－３））
第１２回：情報機器及び教材の活用⑤－情報機器（ビデオ会議システムやクラウド）を活用した学内外の人材との協働－（教職課程コアカリキュラム（情報通信技術）（Ⅰ）－Ⅰ））
第１３回：模擬授業①－授業の導入部の実践と学生による相互評価－（教職課程コアカリキュラム（情報通信技術）（Ⅰ）－Ⅰ））
第１４回：模擬授業②－授業の導入部の実践と学生による相互評価－（教職課程コアカリキュラム（情報通信技術）（Ⅰ）－２））
第１５回：模擬授業の振り返り－模擬授業の振り返りと成果と課題の確認－（教職課程コアカリキュラム（情報通信技術）（Ⅰ）－Ⅰ）２）３）、（２）－Ⅰ）２）４））
定期試験

テキスト
①中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）
②中学校学習指導要領解説総則編（平成 29 年 7 月文部科学省）
③中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編（平成 29 年 7 月文部科学省）
④中学校学習指導要領解説特別活動編（平成 29 年 7 月文部科学省）
⑤高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示文部科学省）
⑥高等学校学習指導要領解説　総則編（平成 30 年 7 月文部科学省）
⑦高等学校学習指導要領解説　特別活動編（平成 30 年 7 月文部科学省）
⑧高等学校学習指導要領解説　総合的な探究の時間編（平成 30 年 7 月文部科学省）
⑨学校教育のカリキュラムと方法（大高泉・田中耕司編著、協同出版）

参考書・参考資料等
授業中に指示します

学生に対する評価
定期試験（レポート）40%，授業中／授業外に課せられる簡易レポート 20%，模擬授業の実施と指導案の作成 20%，授業への積極的な参加姿勢 30%

授業科目名： 生徒指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：飯塚　秀彦 高山　智史
			担当形態：複数・オムニバス
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目教育実践に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法		

授業のテーマ及び到達目標

・生徒指導の意義や原理を、学校教育における具体的な事例を基に理解している。

・児童生徒を取り巻く生活環境や児童生徒の発達に関わる現状、学校内での教師としての立場や役割、生徒指導における多職種間の連携を基に、生徒指導の進め方を理解している。

・生徒指導上の個別の課題（いじめ、自殺、不登校、インターネット、性に関する課題）の現状及びそれらの課題への対応の視点（専門家や関係諸機関との連携の在り方を含む）について理解している。

授業の概要

他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身につけるのが「生徒指導論」である。

本講義では、発達段階に応じた生徒理解への意識を深め、様々な問題行動の具体的事例を検討する中で適切な対応の在り方とともに、中長期的な生徒指導への理解を深めるなど、実践的対応力を身につけることを目的とする。具体的には、学校教育に求められている生徒指導の目的や意義、内容等を適切に理解し、発達段階に応じた児童生徒理解の方法、様々な問題行動への対応等について考察・討議するとともに、キャリア教育の視点から社会的自立へ向けての適切な指導・援助等を考察し、教員として求められる実践的対応力や積極的な生徒指導力等の基礎を養う。

授業計画

第１回：生徒指導の現状と課題【飯塚】

問い：生徒指導の意義とは何だろうか？

新聞記事等の諸資料から、生徒指導の現状をつかむとともに、生徒指導についての「問い」を設定し、今後の学修への見通しをもつ。

第２回：生徒指導の意義と構造①【飯塚】

問い：「生徒指導提要」はどのような理由から改訂され、どのように改訂されたのか？

「生徒指導提要」改訂の背景と生徒指導の定義及び目的を理解する。（教職課程コアカリキュラム　(1)－１）、(2)－３）、(3)－１））

第３回：生徒指導の意義と構造②【飯塚】

問い：生徒指導における２軸３類４層構造とは何か？

「生徒指導提要」に示された２軸３類４層構造について、実際の生徒指導上の課題との関わ

りから理解する。（教職課程コアカリキュラム （1)－１）、(2)－３）、(3)－１））

第４回：生徒指導の進め方①【飯塚】
　問い：児童生徒の発達を支え及び自己実現を支える生徒指導の進め方とは？
　児童生徒理解、集団指導と個別指導、ガイダンスとカウンセリングについて理解する。（教職課程コアカリキュラム （1)－３）４）、(2)－２）３））

第５回：生徒指導の進め方②【飯塚】
　問い：学級担任及び教科担任としてどのように生徒指導を行うか？
　学級経営及び教科指導の視点から、生徒の発達を支える生徒指導について理解する。（教職課程コアカリキュラム （1)－２）、(2)－１）２）３））

第６回：生徒指導の進め方③【飯塚】
　問い：生徒指導の目的に適った生徒指導体制とは？
　生徒指導体制、教育相談体制、家庭や関係機関との連携の在り方について理解する。（教職課程コアカリキュラム （1)－２）４）、(2)－１）２）３））

第７回：生徒指導個別課題への対応・いじめの問題への対応①【飯塚、高山】
　問い：いじめの問題の現状と課題は何か？
　いじめの防止に係る法整備などがどのように進められたのかについて理解する。（教職課程コアカリキュラム （1)－３）、(3)－1）２）３））

第８回：生徒指導個別課題への対応・いじめの問題への対応②【飯塚、高山】
　問い：いじめを防止するための方策とは？
　いじめ防止等の対策のための組織体制と計画及びいじめに関する生徒指導の重層的支援について理解する。（教職課程コアカリキュラム （1)－３）、(3)－１）２）３））

第９回：生徒指導個別課題への対応・いじめの問題への対応③【飯塚、高山】
　問い：いじめに関するケーススタディ、こんなときどうする？
　いじめに関する具体的な事例を基に、教員としてどのように対応するのがよいかについてディスカッションを行う。（教職課程コアカリキュラム （1)－３）、(3)－１）２）３））

第１０回：生徒指導個別課題への対応・不登校への対応①【飯塚、高山】
　問い：不登校児童生徒への支援をどのように行うべきか？
　かつて登校拒否として扱われた事象が、不登校として扱われるようになった背景について理解する。（教職課程コアカリキュラム （1)－４）、(3)－１）２）３））

第１１回：生徒指導個別課題への対応・不登校への対応②【飯塚、高山】
　問い：不登校児童生徒への支援をどのように行うべきか？
　不登校対応に求められる学校の組織体制と計画及び不登校に関する生徒指導の重層的支援構造について理解する。（教職課程コアカリキュラム （1)－４）、(3)－１）２）３））

第１２回：生徒指導個別課題への対応・不登校への対応③【飯塚、高山】
　問い：不登校に関するケーススタディ、こんなときどうする？
　不登校に関する具体的な事例を基に、教員としてどのように対応するのがよいかについてデ

ィスカッションを行う。（教職課程コアカリキュラム （1)－４）、(3)－１）２）３））

第１３回：生徒指導個別課題への対応・インターネットや SNS に関する指導【飯塚、高山】
問い：インターネットを介した諸問題から児童生徒を守るにはどうしたらよいか？
インターネットを巡る課題に対する重層的支援構造について理解する。（教職課程コアカリキュラム (3)－２）３））

第１４回：生徒指導個別課題への対応・性に関する指導【飯塚、高山】
問い：性に関する問題から児童生徒を守るにはどうしたらよいか？
「いのちの安全教育」の概要と性に対する諸問題に対する重層的支援構造について理解する。（教職課程コアカリキュラム (3)－２）３））

第１５回：まとめ【飯塚】
問い： 生徒の発達を支援する生徒指導とは？
第１回の授業で設定した「問い」について、授業全体を通じて導き出した答えについてディスカッションを行う。（教職課程コアカリキュラム （1)－１）、(2)－１）２）３））

テキスト
文部科学省「中学校学習指導要領解説　総則編」
文部科学省「高等学校学習指導要領解説　総則編」
文部科学省「生徒指導提要」

参考書・参考資料等
新井肇『「支える生徒指導の始め方』（教育開発研究所、2023）

学生に対する評価
毎授業時のリアクションペーパー　40%
生徒指導のケーススタディに関するレポート　　40%
進路指導・キャリア教育に関するレポート課題　20%

授業科目名： 教育相談の理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：北村　大明 担当形態：単独
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		

授業のテーマ及び到達目標

・教員の立場での教育相談の意義と実践における基礎的対応方法を理解している
・教育相談やカウンセリング的手法に関わる基礎的な理論・概念・方法等を理解している
・児童・生徒の行動の背景にある意味を理解しようとし、柔軟な発想で関わることができる
・自分自身のメンタルヘルスの状態への気付きや、予防的な対応について知ることができる
・学校を取り巻く関係機関の役割や連携の意義を理解している

授業の概要

幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につけるのが「教育相談の理論と方法」である。

本講義では、学校における教育相談の意義と理論、カウンセリングを含めた教育相談を進める際に必要な基礎的知識、教育相談の具体的な進め方やそのポイント・組織的な取組みや連携の必要性を理解することを目的とする。

具体的には、学校教育に求められている生徒指導の目的や意義、内容等を適切に理解し、発達段階に応じた児童生徒理解の方法、様々な問題行動への対応等について考察・討議するとともに、キャリア教育の視点から社会的自立へ向けての適切な指導・援助等を考察し、教員として求められる実践的対応力や積極的な生徒指導力等の基礎を養う。 教育現場において、子供と保護者の「言葉にならない言葉」に心を重ね、「真剣に話を聞いてくれる先生」となるための教育相談の在り方について、理論と実践の両面から学習する。

授業計画

第１回：オリエンテーション　学校における教育相談の位置づけ（教職課程コアカリキュラム（１）－１））
第２回：教育相談に必要なアセスメントと基本的対応①（教職課程コアカリキュラム（２）－１）、２））
・子どもたちのSOSに気づくために：日常生活から子どもたちの困り感を把握するための方法の理解
・子どもたちが相談しやすい教師であるために：カウンセリングマインドを持つことの重要性
第３回：教育相談に必要なアセスメントと基本的対応②（教職課程コアカリキュラム（２）－１）、（３）－１）（３）－４））
・家庭との連携共有の重要性：多忙な中でいかに家庭と連携するか
・組織として対応することの重要性：学校組織における教育相談体制
・子どもたちが安心できる環境作り：子どもの相談を受ける社会資源
第４回：教育相談に必要なアセスメントと基本的対応③～発達検査等の情報から～（教職課程コアカリキュラム（２）－１））
第５回：教育相談の知識と実際①～発達障害のある児童生徒の理解と対応Ⅰ～※応用行動分析学の視点から（教職課程コアカリキュラム（１）－２）、（３）－２））

第６回：教育相談の知識と実際②～発達障害のある児童生徒の理解と対応Ⅱ～※認知行動療法の視点から（教職課程コアカリキュラム（１）－２）、（３）－２））
第７回：教育相談の知識と実際③～いじめを受けた児童生徒の理解と対応～※学校におけるいじめの発見と基本的な対応
・いじめの種類と実態、組織的な対応：（教職課程コアカリキュラム（３）－１）２））
・いじめを受けた児童生徒の話を聞くために：受容、傾聴、共感的理解の構築（教職課程コアカリキュラム（２）－２）、（３）－２））
・いじめを受けた児童生徒との信頼関係の構築：カウンセリングから予防的支援へ（教職課程コアカリキュラム（２）－２）３）、（３）－２））
第８回：教育相談の知識と実際④～不登校の児童生徒の理解と対応～※児童生徒の「個別性」に目を向けた基本的な対応
・不登校児童生徒の実態（教職課程コアカリキュラム（３）－２））
・不登校児童生徒への接し方：不登校児童生徒への寄り添い方（教職課程コアカリキュラム（２）－２）、（３）－２）
・不登校児童生徒への支援：気付き、受容、共感的理解から支援へ（教職課程コアカリキュラム（２）－３）、（３）－２）
第９回：教育相談の知識と実際⑤～自らを傷つける児童生徒の理解と対応～※自傷行為の理解と支援の在り方（教職課程コアカリキュラム（２）－１）、２）、３）
第10回：教育相談の知識と実際⑥～虐待を受けている児童生徒の理解と対応～※マルトリートメントと脳機能、トラウマ、ポリヴェーガル理論の視点から（教職課程コアカリキュラム（１）－２））
第11回：教育相談の知識と実際⑥-2～虐待を受けている児童生徒の理解と対応～※マルトリートメントと脳機能、トラウマ、ポリヴェーガル理論の視点から（教職課程コアカリキュラム（１）－２））
第12回：教育相談の知識と実際⑦～身体疾患，精神疾患を抱える児童生徒の理解と対応～※アレルギー，小児慢性疾患，医療的ケア，精神疾患等の理解と対応（教職課程コアカリキュラム（１）－２））
第13回：校内支援体制の構築及び関係機関との連携の在り方※担任の立場での支援体制や連携体制構築のコツ（教職課程コアカリキュラム（１）－１）、（２）－２）３）、（３）－１）２）４））
第14回：架空事例に基づくケース検討（児童期／思春期・青年期）（教職課程コアカリキュラム（１）－１）、（２）－２）３））
第15回：総括学校における教育相談の位置づけ（講義全体を振り返って）（教職課程コアカリキュラム（１）－１））

テキスト

講義の各回においてPPTによるスライド資料を提示します。

参考書・参考資料等

【発達支援・行動療法】

「発達障害支援のコツ」　広瀬宏之　岩崎学術出版社　2018
「特性とともに幸せに生きる」　高山恵子　岩崎学術出版社　2018
「発達障害の子どもたちから教わった35のチェンジスキル」　阿部利彦　金剛出版　2020
「山上敏子の行動療法講義with東大・下山研究室」　山上敏子・下山晴彦　金剛出版　2010
「はじめてまなぶ行動療法」　三田村仰　金剛出版　2017

【認知行動療法】

「『考え方のクセ』を変えるとストレスはなくなる」　清水栄司　家の光協会　2014
「幸福になりたいなら幸福になろうとしてはいけない」　ラス・ハリス　筑摩書房　2015

【カウンセリングスキル】

「プロカウンセラーの聞く技術」　東山紘久　創元社　2000
「安心のタネの育て方」　浅井咲子　大和出版　2021
「教師のためのカウンセリングワークブック」　菅野純　金子書房　2001
「教師のためのカウンセリング実践講座」　菅野純　金子書房　2007

【子育て支援】

「子どもの心の育て方」　佐々木正美　河出書房新社　2016
「10歳までの子を持つ親が知っておきたいこと」　鍋田恭孝　講談社　2015
「10代の子を持つ親が知っておきたいこと」　水島広子　紀伊国屋書店　2011

【マルトリートメント】

「脳を傷つけない子育て」　友田明美　河出書房新社　2019
「教室マルトリートメント」　川上康則　東洋館出版社　2022

【自傷行為・依存症】

「世界一やさしい依存症入門」　松本俊彦　河出書房新社　2021
「自傷行為の理解と援助」　松本俊彦　日本評論社　2009

学生に対する評価

課題　25%　講義開講中に感想アンケートを求めます。

レポート　50%　講義終了後にレポートを求めます。

成果発表　25%　講義開講中に適宜発表やグループディスカッションの機会を設けます。

授業科目名： 進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：飯塚　秀彦 担当形態：単独
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目教育実践に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		

授業のテーマ及び到達目標

・進路指導の意義や原理を、学校教育における具体的な事例を基に理解している。

・児童生徒を取り巻く生活環境や児童生徒のキャリア発達に関わる理論、職業観・勤労観の育成にかかる体験活動等を基に、進路指導・キャリア教育の進め方を理解している。

・キャリア発達の視点から、キャリア・カウンセリングの実践方法、ポートフォリオの有用性及び具体的な活用の在り方について理解している。

授業の概要

進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身につけるのが「進路指導論」である。

本講義では、進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解し、全ての児童及び生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方だけでなく、個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解することを目的とする。具体的には、進路指導の目的や意義、内容等を適切に理解し、望ましい進路指導の在り方についてアプローチするために、一人一人の社会的・職業的自立へ向けて必要となる資質・能力を育むことを目指し、学校の教育活動全体を通して行われることを踏まえ、その進め方について考察するとともに実践力の向上を図る。

授業計画

第１回：進路指導・キャリア教育の現状と課題

問い：進路指導の意義とは何だろうか？

新聞記事等の諸資料から、進路指導・キャリア教育の現状をつかむとともに、進路指導・キャリア教育についての「問い」を設定し、今後の学修への見通しをもつ。

第２回：キャリア教育に関する理論

問い：キャリア教育に関する理論にはどのようなものがあるのだろうか？

キャリア教育に関する理論として、ライフキャリア論、キャリア発達理論を取り上げ、その概要について理解する。（教職課程コアカリキュラム　(1)－１）、(3)－１）２））

第３回：日本の草創期におけるキャリア教育

問い：日本でキャリア教育の必要性が高まってきたのはなぜか？

日本でキャリア教育が提唱されるようになってきた背景と日本における草創期のキャリア教育の概要について理解する。（教職課程コアカリキュラム　(1)－１）、(3)－１））

第４回：進路指導・キャリア教育の意義
　問い：進路指導・キャリア教育の意義、目的は何か？
　進路指導・キャリア教育の定義や目的及び進路指導とキャリア教育の関係を理解する。（教職課程コアカリキュラム　(1)－１）２））

第５回：進路指導・キャリア教育で育成する資質・能力
　問い：進路指導・キャリア教育で身に付ける資質・能力とは？
　進路指導・キャリア教育において育成する資質・能力の変遷と「基礎的・汎用的能力」について理解する。（教職課程コアカリキュラム　(1)－２）、(2)－１）２））

第６回：進路指導・キャリア教育の進め方①
　問い：進路指導・キャリア教育を充実させるための指導体制とは？
　学校の教育活動全体通じた進路指導・キャリア教育、家庭や関係機関との連携の在り方について理解する。（教職課程コアカリキュラム　(1)－２）３））

第７回：進路指導・キャリア教育の進め方②
　問い：進路指導・キャリア教育を推進・充実させるための指導計画とは？
　進路指導・キャリア教育における全体計画や年間指導計画の作成上の留意点について理解している。（教職課程コアカリキュラム　(2)－１）２）、(3)－１））

第８回：進路指導・キャリア教育の進め方③
　問い：進路指導・キャリア教育における評価とは？
　進路指導・キャリア教育における評価の在り方とポートフォリオの活用の在り方について理解する。（教職課程コアカリキュラム　(2)－１）２）、(3)－１））

第９回：進路指導・キャリア教育の進め方④
　問い：キャリア・カウンセリングとは？
　キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と具体的な実践方法を理解する。（教職課程コアカリキュラム　(2)－１）２）、(3)－２））

第１０回：進路指導・キャリア教育の現状と課題
　問い：進路指導が出口指導となってしまうのはなぜか？
　進路指導・キャリア教育の現状と課題を踏まえ、進路指導・キャリア教育を推進するための方策等について理解する。（教職課程コアカリキュラム　(1)－２）、(3)－１）２））

第１１回：進路指導・キャリア教育における体験活動の実際①
　問い：中学校における職場体験等はどのように行われているのだろうか？
　中学校における職場体験がどのような指導計画の下、どのように実施されているのかを多面的・多角的に考察し、表現する。（教職課程コアカリキュラム　(2)－１）２）、(3)－１））

第１２回：進路指導・キャリア教育における体験活動の実際②
　問い：中学校における資質・能力を育成する職場体験活動の学習プログラムとは？
　中学校における職場体験を中心とした事前・事後学習を含めた学習プログラムを構想する。（教職課程コアカリキュラム　(2)－１）２）、(3)－１））

第１３回：進路指導・キャリア教育における体験活動の実際③

問い：高等学校における就業体験等はどのように行われているのだろうか？
高等学校における就業体験がどのような指導計画の下、どのように実施されているのかを多面的・多角的に考察し、表現する。（教職課程コアカリキュラム ⑵－１）２）、⑶－１））

第１４回：進路指導・キャリア教育における体験活動の実際④
問い：高等学校における資質・能力を育成する就業体験活動の学習プログラムとは？
高等学校における就業体験を中心とした事前・事後学習を含めた学習プログラムを構想する。（教職課程コアカリキュラム ⑵－１）２）、⑶－１））

第１５回：まとめ
問い： 生徒の資質・能力を育む進路指導・キャリア教育とは？
第１回の授業で設定した「問い」について、授業全体を通じて導き出した答えについてディスカッションを行う。（教職課程コアカリキュラム (1)－１）２）、⑵－１）２））

テキスト
文部科学省「中学校学習指導要領解説　総則編」
文部科学省「高等学校学習指導要領解説　総則編」
文部科学省「中学校・高等学校キャリア教育の手引き」

参考書・参考資料等
藤田晃之『キャリア教育基礎論』（実業之日本社、2014）

学生に対する評価
毎授業時のリアクションペーパー　40%
中学校及び高等学校の職場体験、就業体験学習プログラム　　40%
進路指導・キャリア教育に関するレポート課題　20%

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習		単位数：２単位		担当教員名：青木雄一，飯塚秀彦，岡村亮佑，丹野傑史，早坂淳，羽田司，丸山文隆	
科　　目	教育実践に関する科目				
履修時期	４年次後期	履修履歴の把握(※１)	○	学校現場の意見聴取（※２）	○
受講者数２０人前後					

教員の連携・協力体制

全学組織教職センターにてにて授業目標・内容・方法について協議し，教職課程の教員全員が参画するための連携・協力体制を整えている。

授業のテーマ及び到達目標

教員免許取得を目指す学生が，教職課程の科目の履修により修得した専門的な知識・技術を基に，職務を遂行できる資質能力が身についているかを確認するとともに，不足している知識・技能等を補い，自らの教職への適正について考えられるようになることを到達目標に設定する。

授業の概要

本授業は、教職課程における全学年を通して「集大成」となるものであり、総括及び自己分析を行っていくものである。そのために、２０名以下の中・高・特支クラス編成を行い、担当教員の連携・外部講師の協力・学校見学・調査などから、講義・個別指導・模擬授業・グループ討議・グループワーク・ロールプレイングなどにより授業を行う。また必要に応じて、奉仕・ボランティア活動を取り入れる。

これらの活動を通して、学生が主体的・積極的に授業を受け、教員としての資質・能力の向上を図るとともに、教員としての実践力を身に付けるために多角的・包括的な教職キャリア教育の内容である。

ICT 機器については，GIGA スクール構想によって各校に配備されたタブレット端末（iPad，Google Chrome Book 等）をハードウェアとして想定し，Google for Education で活用可能なアプリケーションおよびその他（ロイロノート等）の教育活用について授業を展開する上で必要最低限のスキルの獲得を目指す。

授業計画

第１回：自己課題の明確化と目標設定

教職実践演習の目的の理解。教職課程履修科目について履修カルテから、自らの学びを振り返るとともに、自分の課題を把握し課題解決のための目標を定める。

第２回：教師としての使命感、責任感、教育的愛情など（１）

グループ討議（ロールプレイング）を通して、教職の意義、学校組織の一員としての役割・在り方、倫理的問題、服務義務などについて理解を深める。

第３回：社会性や対人関係能力の向上（１）

グループ討議（ロールプレイング）を通して、同僚教員・保護者・地域社会の連携などの重要性について理解を深めるとともに、コミュニケーション能力・社会人としてのマナーの向上を図る。さらに、多様な他者との連携・協働に向けて ICT 機器（タブレット端末）およびアプリケーションの利活用について基礎的スキルの獲得を目指す。

第４回：教師としての使命感、責任感、教育的愛情など（２）

外部講師（文部科学省）の講義を聴き、現代社会が求めている教員の資質・能力、あるべき姿について理解を深めるとともに、意見交換を行う。[外部講師の招聘]

第５回：社会性や対人関係能力の向上（２）

外部講師（上田市教育委員会）の講義を聴き、同僚教員・保護者・地域社会の連携などの重

要性について理解を深めるとともに、意見交換を行う。[外部講師の招聘]
第６回：生徒理解や学級経営など（１）
中学校・高等学校の訪問を通して、生徒観察・教員の立ち振る舞いから生徒理解・学級経営などの理解を深める。[上田市内の中学校・高等学校の訪問]
第７回：生徒理解や学級経営など（２）
グループ討議（ロールプレイング）を通して、いじめ・不登校・発達障害などの生徒の支援への理解を深めるとともに、自らの人間性の向上から信頼し合える学級経営について理解を深める。
第８回：人や社会への貢献を目指した人格形成（１）
PTA 役員による講話から家庭・地域から学校に期待することなどを理解するとともに意見交換を行い、人や社会への関心を深め、自らの人格形成を行う。[地域小学校又は中学校の PTA 役員の招聘]
第９回：人や社会への貢献を目指した人格形成（２）
グループ討議を通して、学校及び地域におけるボランティア活動の体験から社会問題への認識、地域関係者・保護者との連携・協力、自己の人格形成について、新たな学校づくりにできることを発表する。[事前にボランティア活動を行う]
第１０回：教科内容等の指導力の向上（１）
教育実習の成果と課題の発表・討議を通して、教職への展望、授業方法の研究を深める。
第１１回：教科内容等の指導力の向上（２）
教育実習から見えた自分の課題について、教育実習科目ごとにグループ討議、科目担当教員から個別指導を受けの授業方法を向上させる。（中社・高民・高地・高歴・福・情・特支の各グループで行う）
第１２回：教科内容等の指導力の向上（３）
自分の「教育実習の成果と課題」（指導案作成、授業方法、生徒指導など）について、科目担当教員から個別指導を受け、課題解決を行う。（中社・高民・高地・高歴・福・情・特支の各グループで行う）
第１３回：資質・能力、教職への適性の確認（１）
教育実習の成果と課題及び事例研究の発表を行うとともに、グループ討議・意見交換を行う。
第１４回：資質・能力、教職への適性の確認（２）
教育実習を振り返り、自らの教員としての資質・能力、知識・技能から教職への適性、到達レベルの自己評価（１回目の課題解決のための目標の達成度）を行う。
第１５回：資質・能力、教職への適性の確認（３）
履修カルテを踏まえて自らの課題の克服、教員への決意について、発表及び意見交換を行う。

テキスト
①中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）
②中学校学習指導要領解説総則編（平成 29 年 7 月文部科学省）
③中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編（平成 29 年 7 月文部科学省）
④中学校学習指導要領解説特別活動編（平成 29 年 7 月文部科学省）
⑤高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示文部科学省）
⑥高等学校学習指導要領解説　総則編（平成 30 年 7 月文部科学省）
⑦高等学校学習指導要領解説　特別活動編（平成 30 年 7 月文部科学省）
⑧高等学校学習指導要領解説　総合的な探究の時間編（平成 30 年 7 月文部科学省）
⑨学校教育のカリキュラムと方法（大高泉・田中耕司編著、協同出版）

参参考書・参考資料等 授業中に指示します
学生に対する評価 各回の担当者が以下の４観点で学生を評価する ①教員の役割、責任などを理解し実践することができる ②教職員との協働、社会人としてのマナー、保護者への支援、地域との連携などを理解し実践することができる ③生徒の心身の発達と生徒の理解、信頼関係の構築、学級担任の実務などを理解し実践することができる ④教科指導、コミュニケーション力、題材・教材研究、個別の指導計画、学習指導案、教科などをを理解し実践することができる

※１　履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※２　授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。